

14. 2ハ-45口



1200501165235

2

口



始

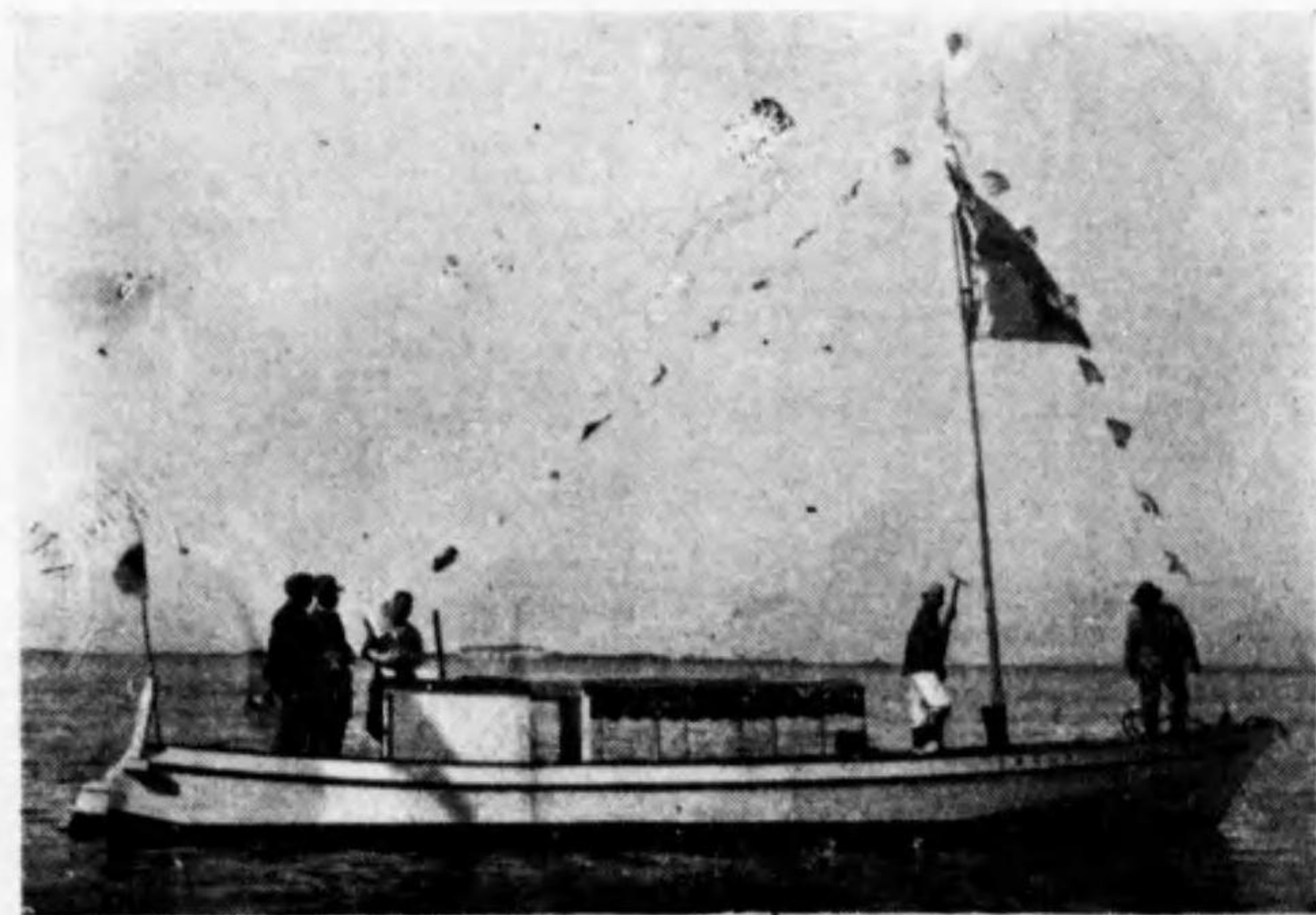


昭和五年度

愛知縣水産試験場業務概報



三河灣養殖作業場  
澁部高師村大字大崎



三河灣養殖作業場船業  
きりんゆ丸



筏式下垂蠣牡



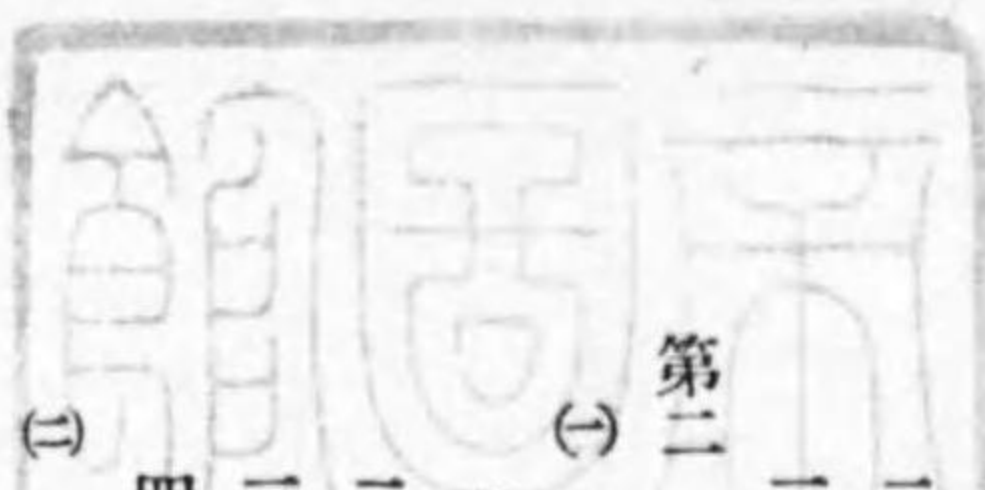
簡易牡蠣增殖試驗

1421-450

# 昭和五年度愛知縣水產試驗場業務概報

## 目次

第一漁撈部	一
一、經釣漁業試驗	一
二、鮪延繩漁業試驗	三
三、朝鮮海漁場視察	九
第二製造部	三
(一) 試驗	三
一、海苔加工試驗	三
二、增殖魚貝類利用試驗	三
三、貝類加工製品試驗	三
四、雜製造試驗	四
(二) 調查	五
一、水產物乾燥機調查	五
(三) 指導	六
一、罐詰製造	六
(四) 製造講習	六
一、魚貝調味講習會	六
第三養殖部	九



一、鱒増殖事業	三
二、小鮎移殖放流事業	三
三、鯉兒放流事業	三
四、公魚採卵孵化放流事業	三
第四 養殖出張所	
一、牡蠣増殖試験	四
二、海苔増殖試験	六
三、蛸増殖試験	六
四、藻貝増殖試験	八
五、三河灣淺海利用適地調査	八
六、伊勢灣横斷觀測	六

第五 三河灣養殖作業場	
(一) 昭和四年度	一〇四
一、牡蠣増殖試験	一〇四
二、海苔増殖試験	一〇七
(二) 昭和五年度	一一〇
一、牡蠣増殖試験	一一〇
二、海苔増殖試験	一一九
三、海面觀測	一二三
四、淺海利用増殖指導	一二七

第六 昭和五年度經費決算表	
一、	三九
二、	三九
三、	三九
四、	三九
五、	三九
六、	三九
七、	三九
八、	三九
九、	三九
十、	三九
十一、	三九
十二、	三九
十三、	三九
十四、	三九
十五、	三九
十六、	三九
十七、	三九
十八、	三九
十九、	三九
二十、	三九
二十一、	三九
二十二、	三九
二十三、	三九
二十四、	三九
二十五、	三九
二十六、	三九
二十七、	三九
二十八、	三九
二十九、	三九
三十、	三九
三十一、	三九
三十二、	三九
三十三、	三九
三十四、	三九
三十五、	三九
三十六、	三九
三十七、	三九
三十八、	三九
三十九、	三九
四十、	三九
四十一、	三九
四十二、	三九
四十三、	三九
四十四、	三九
四十五、	三九
四十六、	三九
四十七、	三九
四十八、	三九
四十九、	三九
五十、	三九

## 昭和五年度愛知縣水産試験場業務概報

### 第一漁撈部

#### 一、鯉釣漁業試験

前年度ニ繼承シテ本試験ヲ施行セリ

第一回 昭和五年四月十九日出漁準備完了セシヲ以テ同日午前十一時五十八分濱島拔錨午後〇時三十五分餌鰻活入レ出漁午後一時三十分夢崎ヨリ南東ノ東ニ出漁ス二十日午後一時三十七分八丈島ニ並航シ南ニ變針午後五時小群ニ逢ヒシモ餌ニ付カス十一時青ヶ島ノ東ニ漂泊ス

二十一日午前九時五十五分末吉漁場ニテ魚群ニ出會スモ餌ニ付カス風益々強クナリタレハ八丈島三根ニ假泊ス後末吉ニ投錨ス

二十二日三根ニ轉錨

二十三日午前六時南東ニ出漁、六時十八分八尾釣リ其後數群ニ會フモ餌ニ付カス午後一時二十分釣リ始メ四尾釣ル午後八時東經百四十度四十二分北緯三十三度二十四分ニ漂泊ス

二十四日午前五時二十六分搜索開始十一時四十分魚群ニ會フモ餌ニ付カス午後三時八丈島ニ假泊ス

二十五日風浪強ク假泊二十六日モ同様

二十七日午前二時十五分出漁小島ヨリ南西ノ南ニ搜索午後四時東經百三十九度八分北緯三十二度五十二分ニ漂流ス

二十八日午前六時十六分ヨリ搜索セシモ群ヲ見ス午後十時東經百三十七度三十八分北緯三十三度五十六分ニ漂流ス

二十九日餌鰻死滅セシヲ以テ一日濱島ニ歸港トス午前九時三十九分濱島投錨

第二回 五月三日午後五時三分濱島出帆午後十時二十分三木埼燈台並航後南々西ニ航進ス

四日午前五時三十八分ヨリ南々東ニ變針十一時十分ヨリ南ニ午後二時三十分東ニ變針シテ搜索午後六時東經百三十七度四十四分北緯三十二度十一分ニ漂流ス

五日午前五時三十二分ヨリ東ニ航走午後四時五十分青ヶ島ニ假泊ス

六日午後五時二十九分青ヶ島出帆十一時三十八分青ヶ島附近水温二十二度ノ海區ニテトンボ群ニ逢ヒ波浪高ク釣込ミ甚タ困難ナリシモ三貫匁廻リノトンボ四十五尾ヲ獲、風浪高キ爲メ八丈島末吉ニ假泊ス午後六時三十分ナリ

七日大賀郷ニ轉錨ス

八日午前一時五十分大賀郷出帆新黑瀬ニ向フ午後七時二十分鯨付群ニ出會ヒシモ餌ニ付カス新黑瀬ヲ搜索シテ午後一時北西ノ西ニ變針ス

九日午後三時一分三谷ニ投錨

第三回 五月十一日午前七時四十七分三谷出帆午後一時四十八分濱島投錨十三日阿曾浦ニ廻航十四日午前七時三十五分阿曾拔錨

十五日午前八時二十分一群ニ逢ヒ十一尾ヲ獲九時四十分トンボ群ニ逢ヒ四百尾ヲ獲水温二十一度ニシテ東經百三十七度四十分北緯三十二度十六分ノ海區ナリ十時五十分釣リ終リ午後一時二十分ヨリ南ニ時五分ヨリ北東ニ時三十分ヨリ北々西ニ變針シ三時十五分水温二十二度ニシテトンボ三十七尾ヲ釣リ更ニ附近ヲ搜索セシモ見ヘス午後五時二十分東經百三十七度三十五分北緯三十二度十九分ニ漂流ス

十六日午前五時三十五分搜索開始午前九時四十五分北々西ニ定針歸途ニ就ク

十七日午前四時四十二分濱島ニ投錨

第四回 五月二十日午後四時四十三分濱島拔錨五時三十七分御座崎並航ヨリ南々東ニ出漁、明クル二十一日午前十一時四十五分鮫付群ニ出會釣リ始メ午後〇時五分終了シテ鯨三百五十尾目録百尾ヲ獲位置ハ東經百三十八度十四分北緯三十二度三十五分ニシテ水温二十四度ナリ、午後四時五十分東經百三十八度四十九分北緯三十二度三分ニ漂流ス

二十二日終日搜索スレト群ヲ見ス房州沖ニ向フ二十三日モ全様、二十四日午後〇時四十五分トンボ群ニ逢ヒ二十二尾釣ル午後二時野島崎南東四分三南二百四十哩水温二十二度ノ海區ニテ百三十二尾ヲ釣リ午後五時二十五分西北西ニ定針ス

二十五日午後八時十五分八丈島末吉ニ假泊ス

二十六日午前二時三十七分末吉出帆北々西ニ出漁十時四十二分遭難漁船ヲ發見、直ニ救助ニ向フ燒津ノ健正丸ニシテ機關ニ故障ヲ生シ曳船ヲ依頼ス依テ同船ヲ曳キテ清水ニ向フ二十七日午前五時三十分清水投錨

第五回 五月二十八日午後六時清水出帆二十九日午前五時十分錢州並航針路南々東ニ出漁午前六時三十五分水温二十度八ニテ鯨群ニ出會ヒ八百尾ヲ揚ケタリ、更ニ附近ニテ九時四十三分ヨリ九時五十分マテニ百六十尾ヲ獲、後針路不定ニテ搜索シ午後九時漂流ス

三十日午前五時五分ヨリ出動午後一時五十分三本嶽附近ニテ小群ニ會ヒ鯨三十六尾ヲ釣ル、午後四時十分三宅島ニ假泊ス

三十一日午前四時三十四分三宅島出帆南東ノ南ニ出漁群ニ會フモ餌ニ付カス餌料ノ死滅多ク一先ツ歸港六月一日午後九時二十五分濱島投錨

第六回 六月六日午前五時三十七分濱島出帆大山沖ニ向フ數群ニ逢フモ餌ニ付カス午後五時十五分漂流

七日午前五時ヨリ出動七時四十分新居町ノ南二分一西二十五哩水温二十一度五ニテ鯨二百八十五尾、鮪四十四尾ヲ獲、午後四時三十七分ヨリ四時四十五分迄ニ鯨五百八十尾、鮪二十尾ヲ獲歸港ス、八日午前二時四十分濱島ニ投錨ス

第七回 六月八日午前六時濱島拔錨午後二時三十七分釣始メ五時三十分終了シ鯨三百七十四尾、鮪百二十三尾ヲ獲、位置ハ東經百三十七度四十五分北緯三十四度十二分水温二十二度七ナリ終了後漂流ス

九日午前五時二十五分ヨリ搜索數群ニ會フモ餌ニ付カス午後五時五十分御前崎沖ニテ漂流ス、十日午前五時十七分ヨリ搜索シツ、歸港ス群ニ逢ヒタレト餌ニ付カス午後五時十七分濱島歸港ス

第八回 六月十三日午後六時七分濱島拔錨、餌場タル間崎ニ廻航十四日午前四時十八分間崎出帆、麥崎ヨリ南東ニ後東南東ニ出漁數群ニ逢フモ餌ニ付カス午後六時東經百三十七度七分北緯三十四度十一分ニ漂流ス

十五日午前四時五十六分ヨリ東ニ搜索群ヲ見テモ餌ニ付カス天候悪シク渡鹿野ニ避難スヘク午後三時四十分投錨十六日碇泊中

十七日前日全様、十八日午前四時十分渡鹿野拔錨午前五時安乘燈台並航ヨリ南東ニ出漁、數群ニ逢フモ餌ニ付カ

ス午後六時東經百三十七度四十三分北緯三十四度十六分ニ漂流ス、十九日午前五時十分ヨリ搜索シツ、歸途ニ就ク午後六時四十五分濱島投錨

第九回 六月二十三日午前四時三十分濱島出帆掛塚沖ニ向フ午後二時十分ヨリ三時一分迄ニ二百尾餘ヲ釣獲ス水温二十三度ナリ、二十四日午前四時四十分三谷投錨三陸沖出漁準備ス

第十回 六月二十七日午後〇時二十五分三谷出帆、二十八日午前六時二十五分清水投錨、船底掃除更換其他修理、七月三日清水出帆餌場タル江ノ浦ニ午後八時八分投錨

五日午前五時七分江ノ浦出漁、正午頃ヨリ風浪激シク午後二時十五分大島波浮ニ避難

七日午前五時波浮投錨、銚子沖ニ向フ八日午前七時魚群ニ出會タルモ餌付不良午後六時三十分東經百四十四度四十分北緯三十六度二十二分ニ漂流

九日午前四時二十五分開始午後一時四十五分鮫付ノ小群ニ逢フ東經百四十六度四十八分北緯三十七度十一分水温二十二度五ノ海區ニシテ大鯨三百七尾、鮪七尾ヲ獲、十日午後二時三十分ヨリ三時五十五分迄ニ大鯨四十五尾小鯨六尾ヲ獲位

置東經百二十三度十分北緯三十七度三十九分ナリ十一日午前十時十九分塩釜投錨

第十一回 七月十三日午前七時塩釜出帆出島ニ餌ヲ入レ、午後二時四十五分金華山並航ヨリ東ニ出漁ス、十四日終日東ニ進出

十五日正午東經百四十八度四十八分北緯三十八度五十八分水温二十度八ノ海區及午後一時十分東經百四十八度五十分北緯三十八度五十六分水温二十一度五ノ海區ニテ鯨九百尾ヲ獲、九時三十分終了ス午後一時三十七

分鯨付群ニ逢フ位置金華山東ノ南四分一南百八十九度水温二十三度ノ海區ニテ大小六百餘ヲ釣リ三時四十分終了、午後〇時四十五分塩釜ニ入港ス

第十二回 七月十九日午前十時五分塩釜出帆餌場タル出島ニ午後三時十三分入港ス、二十日午前四時五十分出島出漁、金華山ヨリ東ノ南ニ出動ス

二十一日午前八時金華山東ノ南百六十二度水温二十二度五ノ海區ニテ鯨九百尾ヲ獲、九時三十分終了ス午後一時三十七分鯨付群ニ逢フ位置金華山東ノ南四分一南百八十九度水温二十三度ノ海區ニテ大小六百餘ヲ釣リ三時四十分終了、午後

五時二十分東經百四十五度二十七分北緯三十七度五十七分ニ漂流ス、二十二日午前四時三十分東南東ニ出動、群ニ逢フモ餌ニ付カス午後十時東經百四十七度七分北緯三十八度二十八分ニ漂流ス

二十三日午前四時十三分ヨリ東ニ搜索ス午前七時三十五分鮫付群ニ逢ヒ釣始ム位置金華山東四分三南二百九十二度水温二十一度ノ海區ニテ鯨三千尾ヲ獲、午後〇時二十分終了シ歸途ニ就ク、二十五日午前九時十分塩釜投錨

第十三回 七月二十六日午後三時十一分塩釜投錨午後八時十分出島投錨、二十七日午後三時七分出島出帆金華山ヨリ東ニ出漁ス

二十八日午前八時二十五分鮫付群ニ逢ヒ釣リ始メ四百五十尾ヲ得テ九時終了ス位置東經百四十三度五十五分北緯三十八度二十六分水温二十四度ノ海區ナリ

二十九日午前五時三十分東經百四十六度五十六分北緯三十八度四十四分水温二十一度七ニテ鯨二百七十尾、午前九時五十五分東經百四十七度二十七分北緯三十八度四十分水温二十四度五ニテ鯨三百六十尾、午後〇時三十五分東經百四十七度二十六分北緯三十八度三十七分水温二十三度七ニテ午後四時十五分終了シテ千九百尾ヲ更ニ午後六時二十五分東經百四十七度十分北緯三十八度二十八分水温二十三度七ニテ百五十尾ヲ釣獲シ歸途ニ就ク、三十一日午前十一時二十分女川

投錨ス

第十四回 八月四日午前十一時二十分女川出帆出島ニ餌鰯ヲ入レ金華山ヨリ東ノ北ニ出漁ス六日午前六時五分小群ニ逢ヒ百七十尾ヲ釣ル位置ハ東經百四十七度四十七分北緯三十九度三十八分水温二十二度六ナリ、午後〇時三十五分鮫付群ニ逢ヒ釣始メ四時二十分終了シ二千三百尾ヲ釣ル位置ハ金華山東ノ北三百十度水温二十五度ナリ同位置ニ同夜ハ漂流ス

七日午前七時四十五分ヨリ八時迄ニ鯨二十尾、鮪十七尾ヲ釣リ歸途ニ就ク、九日午前十時四十五分投錨ス

第十五回 八月十日午前九時三十五分塩釜投錨、午後四時五分出島投錨、十一日出島附近ニテ餌ヲ入レ出島北端ヨリ東ノ北ニ出漁ス

十三日午後五時五分東經百四十七度三十五分北緯四十度四十分ニ機關停止漂流ス、十四日濃霧ノ爲メ搜索困難、十五日濃霧ノ爲メ困難ナリ、十六日搜索スルモ群ヲ見ス

十七日午後三時四十分東經百五十度十三分北緯四十度三十七分水温二十三度六ノ海區ニテ大小鯨千六百餘ヲ釣リ搜索シ

五



月日	漁業位置	天候	風向	風力	氣壓	氣温	水温	魚種	濃淡	餌付	漁具	使用時間	便數	種類	數量	目的	漁獲物	大中小價額	數量	備考	
四月二十日		B	SSW	2	765	20	18														

ツ、歸途ニ就ク、十八日群ヲ見ス。十九日モ同様海上高浪アリ、二十日午前九時二十三分東經百四十三度五十三分北緯三十八度十三分水温二十五度五ニテ鯉八十七尾ヲ獲、餌料少ナキヲ以テ漁獲少シ、二十一日午前二時五十分女川投錨第十六回 八月二十四日午前五時二十三分女川投錨午後三時三十五分廣田崎並航ヨリ東ノ北ニ出漁、二十五日午後四時五分東經百四十四度四十三分北緯三十八度三十五分水温二十五度三ノ海區ニテ一貫百匁廻リノ鯉四百五十二尾ヲ釣リ餌料終了セシヲ以テ歸途ニ就ク、二十六日午後十一時五十五分塩釜ニ投錨ス

第十七回 八月二十八日午前五時三十七分塩釜出帆午後五時一分大船渡投錨、九月一日午前十一時五十一分大船渡出漁東北東ニ出動ス、二日午前五時二十五分銚子東四分三北五十二度水温二十一度五ニテ鯉七十尾釣リ東北東ニ進出午後五時東經百四十四度十七分北緯四十度一分ニ漂泊ス、三日午前五時十五分ヨリ搜索スルモ群ヲ見ズ午後五時東經百四十三度五分北緯三十九度三十五分ニ漂泊、四日午前五時三十三分ヨリ調査開始五時三十分水温二十一度五ノ海區ニテ先ツ大鯉六十七尾、六時二十五分ヨリ小鯉二百九十尾、十時五分ヨリ正午ヨリ〇時三十分餌料終了迄ニ四千三百尾ヲ釣リ大船渡ニ向フ午後十時三十分大船渡入港ス

第十八回 九月七日午後一時二十八分大船渡投錨小友浦ニ餌料ヲ入レ八日午前二時三十五分山田燈台ヨリ東ニ進出ス午後一時風浪高ク漂流ス、九日搜索スルモ群ヲ見ス、十日午前十一時三十七分鯉群ニ逢ヒ百五十七尾ヲ獲、位置東經百四十三度四十一分北緯三十九度二十九分水温二十二度二ナリ、午後一時三十五分ヨリ五分間釣リ百二十四尾ヲ獲、銚子東四分一南六十八度水温二十二度五ナリ午後五時ヨリ漂流ス、十一日午前六時三十六分銚子東南東六十度水温二十度五ニテ六十尾ヲ獲、午後五時五十分機關停止ス、十二日群ヲ見ス、十三日午前五時五十分銚子南東東四分一東三十六度水温二十度五ニテ六十二尾、六時三十分ヨリ四百七十尾、七時五十五分ヨリ五百五十尾、十時五分ヨリ八百七十尾水温二十度六ニシテ綾里崎ノ東四分一南三十九度水温二十度六ニシテ餌料終了セシヲ以テ氣仙沼向フ

本航海ヲ以テ本年度鯉釣漁業試驗ヲ終了セリ

月日	漁業位置	天候	風向	風力	氣壓	氣温	水温	魚種	濃淡	餌付	漁具	使用時間	便數	種類	數量	目的	漁獲物	大中小價額	數量	備考	
五月六日		C	SW	5	760	23.5	22	トシボ	淡	不		A.M. 11-45 P.M. 3-50	10	ヒラゴ	44		トシボ 159・105	47	九四〇五	八丈島附近魚群ニ達フモ餌持ニテシ	
五月十五日		C	SE	3	768	32	21.5	トシボ	良稍			A.M. 9-40 P.M. 10-50	10	カツヲ	400			400	九四〇五	群ヲ見ズ	
五月二十一日		C	SW	4	759	21.5	21	鯉	不			P.M. 1-20 1-25	18	ヒラゴ	12			308	六四、空	八丈島假泊	
五月二十五日		C	SW	6	761.5	25	17.2														群ニ達フモ餌付不 良觀測時正午
五月二十六日		C	SW	4	759	25.5	19														風浪烈シク八丈島 假泊
五月二十七日		C	ENE	7	767	19															群ヲ見ズ
五月二十八日																					群ヲ見ズ餌料ノ死 滅多ク歸港ノ途ニ 付

二十九日	二十八日	二十三日	二十二日	二十一日	二十一日	十六日	十五日	十五日	十日	七月九日	二十三日
22	21	20		19	18	17	16	15	14	13	12
38°44'	38°26'	38°20'		37°45'	37°57'	38°38'	38°56'	38°58'	37°39'	37°11'	34°25'
146°56'	143°55'	147°35'		145°30'	144°58'	148°6'	148°50'	148°48'	143°10'	145°56'	137°33'
B	C	B	B	C	C	C	C	B	C	C	B
SE 1	S 1	SE 2	NE 2	NE 2	NE 3	NW 2	WNW 3	NE 2	N 1	SE 1	S 1
762.5	762.5	763	762	762	761	755	753	754	758	759	759
24	23.3	22	21	20	22	22	20.5	22	21	23	25.5
21.7	24	21.3	23.5	23	22.5	21.6	21.5	20.8	22.5	22.5	23.5
カ ツ チ	カ ツ チ	鯨 付		鯨 付	カ ツ チ	カ ツ チ	鯨 付 鯨	鯨 付 鯨	カ ツ チ	鯨 付 鯨	カ ツ チ
		濃						淡	淡	淡	
	不	良			普		良	良	不	不	
A.M. 5-30 5-30	A.M. 8-25 9-00	A.M. 7-35 P.M. 0-20		P.M. 1-37 3-40	A.M. 8-00 9-30	A.M. 10-5 10-35	P.M. 1-10 2-00	noon P.M. 0-35	P.M. 2-30 3-55	P.M. 1-45 2-3	P.M. 2-20 3-01
18	18	18		18	18	18	18	18	18	18	18
ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ		ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ
				メ ジ 6						ト ン ボ 7	
				326	900	392	2450		45	307	
270	450	2990		300				250	6		214
		五八、三					五八、三		一七九、六		五八、三
			群ニ達フモ餌ニ付 カズ 観測時正午								

十五日	十四日	九日	八日	七日	六月七日	三十一日	三十日	二十九日	二十四日	二十三日	二十二日
			11	10	9		8	7	6		
			34°12'	34°18'	34°16'		34°0'	33°47'	31°38'		
			137°45'	137°53'	137°33'		139°22'	138°47'	143°14'		
C	C	C	C	C	C	B	B	B	C	C	C
S 3	SE 1	SW 1	S 1	SW 1	NWN 2	ENE 2	WSW 1	NW 2	NNE 3	SW 3	W 1
761	763	768	764.3	759.5	759	763	760	760	764.5	758	759.5
24	23	21.5	22.5	22.5	21	24	23	20	21.5	23	20
22.5	23.4	22	22.2	21.6	21.5	24.7	22	20.8	20.3	19.7	22
			カ ツ チ	カ ツ チ	カ ツ チ		カ ツ チ	カ ツ チ	カ ツ チ		
							淡		淡		
							不		不		
			P.M. 2-37 5-30	P.M. 4-37 4-45	A.M. 7-40 7-50		P.M. 2-45	A.M. 6-35 7-10	P.M. 2-00 2-45		
			18	18	18		18	18	18		
			ト ン ボ 123	ト ン ボ 20	ト ン ボ 44			ヒ ラ ゴ	ト ン ボ 22		
			374	580	285		36	960	132		
			三七、六	三六、二				三六、五			
"	"	観測時正午	群ニ達フモ餌ニ 付カズ 観測時正午			小群ニ達フモ餌ニ 付カズ 観測時正午				"	群ヲ見ズ 観測時正午

十三日	十三日	十三日	十二日	十一日	十日	十日	四日	四日	四日	九月四日	二十五日
41	42	39		38	37	36	35	34	33	32	31
39°10'	39°21'	39°17'		39°16'	39°37'	39°29'	39°46'	39°50'	39°43'	39°49'	38°35'
142°47'	142°42'	142°46'		143°26'	143°31'	143°41'	142°37'	142°27'	142°18'	142°18'	144°43'
B	B	B	C	B	B	B	C	C	C	C	B
N 3	N 3	N 3	N 1 W 2	SW 1	SSW 1	S 1	NE 1	NE 1	E 1	E 1	SE 2
766	766	766	763.5	714	762.7	763	761	761	761	761	761
21	20	20	20.5	21	23	23	22	22	22	22	25
21	20.5	20.5	18.2	20.6	22.5	22.2	21.8	21.5	21.5	21.5	25.3
カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ		カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ
淡							濃				
良							良				
A.M. 7-55 8-10	A.M. 6-30 6-41	A.M. 5-50 6-04		A.M. 6-36 7-07	P.M. 1-35 1-40	A.M. 11-33 11-50	noon P.M. 0-30	A.M. 10-05 10-45	A.M. 6-25 6-45	A.M. 5-30 6-00	P.M. 4-05 5-05
16	16	16		16	16	16	16	16	16	16	18
										67	452
550	470	62		60	124	159	4300	350	290		
							一〇三、七				三三、六
			観測時正午								餌料少量ニテ終了

二十日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	七日	六日	八月六日	二十九日	二十九日	二十九日
30	29					28	27	26	25	24	23
38°13'	40°37'					39°37'	39°41'	39°38'	38°28'	38°37'	38°40'
143°53'	150°31'					147°39'	147°59'	147°47'	147°10'	147°26'	147°27'
B	B	C	R	B	B	C	C	F	B	B	B
SE 2	ENE 1	WSW 2	SW 1 W 2	S 1	E 1	SW 4	W 1	W 1	SSW 2	SE 2	SE 2
755	758.5	759.5	761.8	764	762	761.5	763.5	764	762.5	762.5	762.5
26.5	22	26.5	24	24	24	27	25	24	25	25	25
25.5	23.8	23.1	20.7	23.4	24.4	25.5	25	22.6	23.7	23.7	24.5
カ ツ オ	カ ツ オ					鮫 付	鮫 付	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ	カ ツ オ
濃							濃				
						不	良	不		良	
A.M. 9-23 9-55	P.M. 3-40 4-20					A.M. 8-00 8-20	P.M. 0-35 4-20	A.M. 6-05 6-08	P.M. 6-25 6-35	P.M. 0-35 4-15	A.M. 9-55 10-10
18	18					18	18	18	18	18	18
						ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ	ヒ ラ ゴ
	シ イ ラ 3					メ ジ 17					
87	1050					20	2:00	170	150	1900	360
	580							四〇、七		五八、三	
餌料無キ爲メ終了	終了後歸途ニツク	" "	観測時正午	観測時正午	カズ達フモ餌ニ付 観測時正午	カズ達フモ餌ニ付 観測時正午	カズ達フモ餌ニ付 観測時正午				

十三日
42
39°3'
142°39'
B
N 3
766.5
20.5
20.6
カツオ
淡
良
A.M.
10-05
10-25
16
870
四六四五

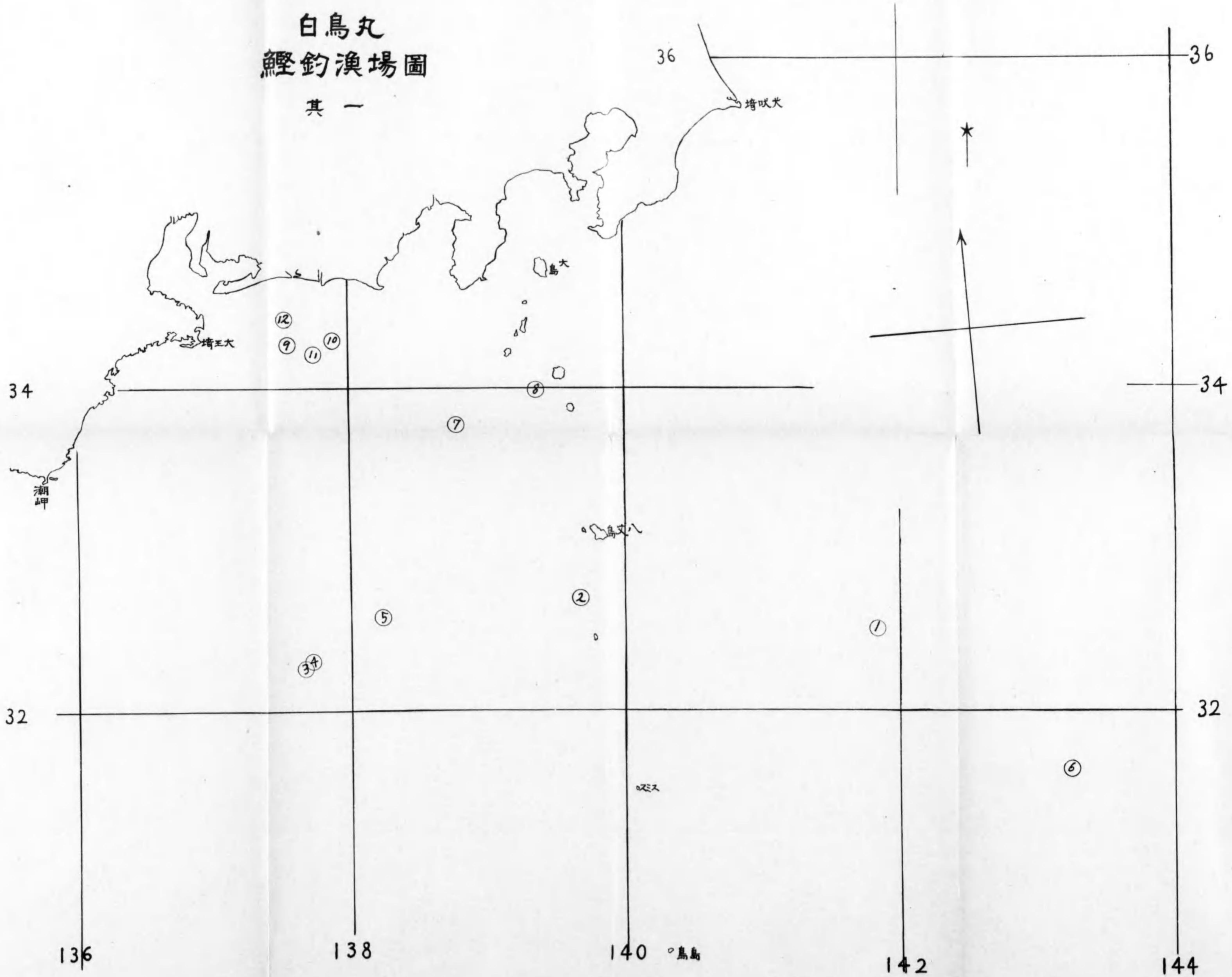
## 二、鮪延繩漁業試験

前年度ニ繼承シテ本試験ヲ施行セリ每航海ノ概要左ノ如シ

- 第一回 十二月十七日午後十時四十七分勝浦拔錨港口ヨリ南東ヲ南ニ進出ス、十八日午前七時十五分投縄開始中繩七十鉢ヲ使用ス水温二十二度五午後九時十六分揚縄終了シキハタ三尾、トンボ一尾、鮫一尾ヲ獲、十九日午前十一時五分揚縄開始五十四鉢使用シ午後九時十五分終了メバチ一、トンボ七尾ヲ獲、二十日午前三時三十七分勝浦歸港
- 第二回 十二月二十二日午前四時十七分勝浦拔錨八時三十分投縄開始六十鉢使用ス天候悪シク風浪強ク午後一時四十分揚縄開始七時十五分終了シカヂキ一、鮫一尾ヲ獲テ勝浦ニ避難ス、二十三日午前二時三十分勝浦投錨
- 第三回 十二月二十四日午前二時二十分勝浦出帆九時十八分投縄開始六十鉢使用風浪高ク午後二時三分揚縄開始メ六時十分終了メバチ四、トンボ四、イラギ一尾ヲ獲、二十五日午前七時五十三分尾錨投錨
- 第四回 十二月二十七日午前六時五分濱島出帆御座埼ヨリ南ニ出漁十時投縄開始四十三鉢使用ス午後七時十五分終了シテ鮫三尾ヲ獲、名古屋ニ向フ二十八日午前七時名古屋投錨
- 第五回 昭和六年一月十二日午前九時五十五分勝浦投錨午前十時十五分梶取燈臺ヨリ南ヲ西ニ午後十時ヨリ南ニ變針十三日午前八時十分勝浦南百七十哩ニテ投縄開始七十三鉢使用シ午後八時二十五分終了セリ但シ十二鉢半ハ風浪高キ爲メ揚縄ノ際切斷シ附近ヲ捜査スルモ遂ニ見失フ、漁獲物カヂキ一、トンボ十五尾

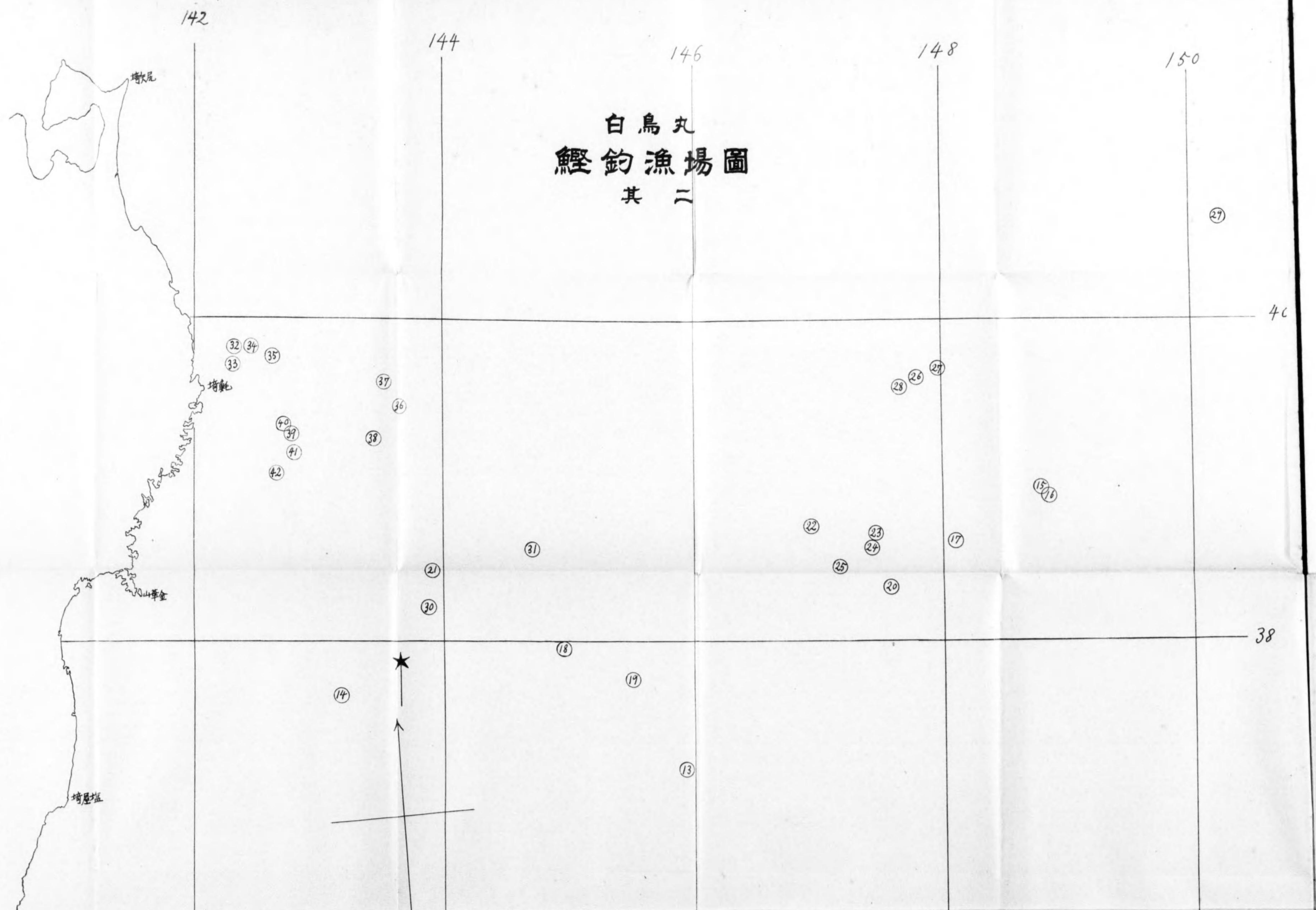
# 白鳥丸 鯉釣漁場圖

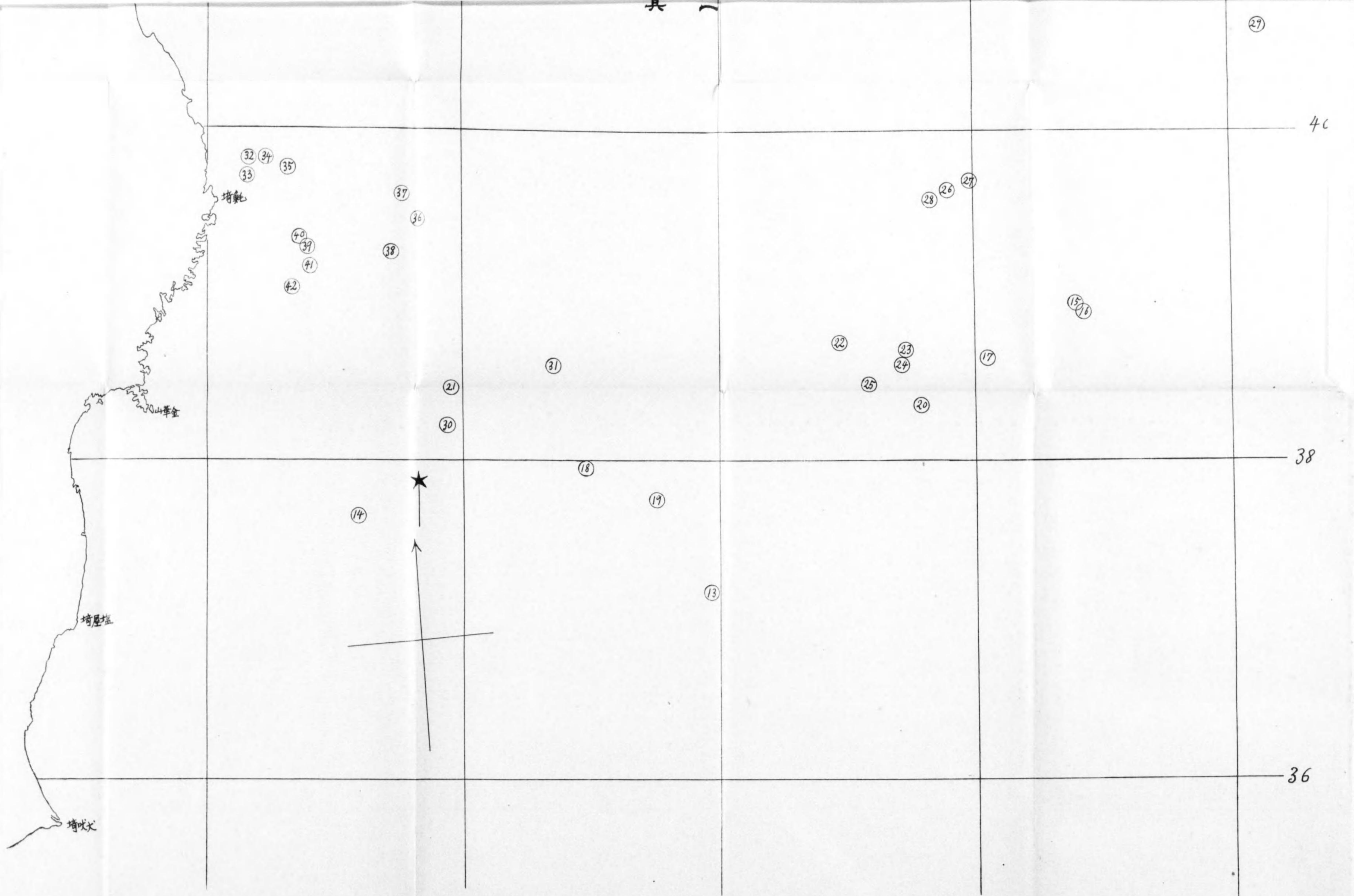
其一



開始五十四録使用シ午後九時十五分終了メバチ、トシボ七尾ヲ獲、二十日午前三時三十七分勝浦歸港  
 第二回 十二月二十二日午前四時十七分勝浦投錨八時三十分投錨開始六十録使用ス天候悪シク風浪強ク午後一時四十分揚  
 錨開始七時十五分終了シカヂキ、鯰一尾ヲ獲テ勝浦ニ歸ル、二十三日午前二時三十分勝浦投錨  
 第三回 十二月二十四日午前二時二十分勝浦出帆九時十八分投錨開始六十録使用風浪高ク午後二時三十分揚錨始メ六時十分  
 終了メバチ四、トシボ四、イラギ一尾ヲ獲、二十五日午前七時五十三分尾鰭投錨  
 第四回 十二月二十七日午前六時五十分濱島出帆御座場ヨリ南ニ出漁十時投錨開始四十三録使用午後七時十五分終了シテ  
 鯰三尾ヲ獲、名古屋ニ向テ二十八日午前七時名古屋投錨  
 第五回 昭和六年一月十二日午前九時五十分勝浦投錨午前十時十五分錨取燈臺ヨリ南ヲ西ニ午後十時ヨリ南ニ錨針十三  
 日午前八時十分勝浦南百七十哩ニテ投錨開始七十三録使用午後八時二十五分終了セリ但シ十二録半ハ風浪高キ爲メ揚  
 錨ノ際切斷シ附近ヲ捜査スルモ遂ニ見失フ、漁獲物カヂキ、トシボ十五尾

白鳥丸  
鯉釣漁場圖  
其二





十四日北西風強ク漂流

十五日午前七時四十五分野崎南二百十三哩ニテ七十鉢使用午後五時揚繩開始九時五十七分終了漁獲物カチキ一、トンボ二

十六日 午前八時四十二分野崎南四分三東百九十五哩水溫二十度ノ海區ニシテ七十鉢使用午後十時終了漁獲物カチキ四  
トンボ二、サメ二尾、十時十八分歸途ニ就ク

十七日航海、十八日午前八時勝浦投錨

第六回 一月二十日午前〇時五十五分勝浦出帆午前七時五十五分勝浦南東四十二哩水溫十八度三ノ海區ニテ六十五鉢使用  
午後十一時終了メバチ五、トンボ四、キハタ二、イラギ一、サメ二尾ヲ獲

二十一日午前八時三十五分勝浦南東四分一東三十哩、水溫二十度ノ海區ニ六十五鉢使用午後十時十分終了  
漁獲物メバチ三、カチキ一、トンボ三、イラキ一

二十二日午前八時二十分勝浦南東二分一東四十三哩水溫十九度ノ海區ニ七十鉢使用午後九時五十分終了漁獲物カ  
チキ一、トンボ五十六、キハタ三

二十三日午後十一時五十六分濱島拔錨

第七回 一月二十八日午前〇時四十三分勝浦拔錨午前八時三木崎南東五十六哩水溫十八度五ノ海區ニ七十鉢使用午後九  
時五十分終了漁獲物メバチ八、トンボ二、カチキ一、サメ一万、鯛一、二十九日午前八時二十分三木崎南東二分一東五  
十哩水溫十八度五ノ海區ニ六十五鉢使用午後九時四十分終了漁獲物メバチ四尾、鮫一尾タリ

三十日午前八時十三分三木崎南東四分三南四十六哩水溫十九度ニ七十鉢使用午後九時四十八分終了漁獲物メバチ五、カ  
チキ一、鮫一尾、歸途ニ就ク三十一日午前五時五十分勝浦投錨

第八回 二月七日午前一時五十五分勝浦出帆午前八時野崎南西二十五哩水溫二十度ニテ七十鉢使用午後九時五十分終  
了漁獲物カチキ二、メバチ三、サメ三

八日經百三十七度北緯三十二度二十三分附近水溫高ク漁獲ノ見込ナク針路北西ニテ適水地帶ヲ調査ス

九日午前七時三十七分東經百三十七度北緯三十二度三十分水溫二十度ニテ七十鉢使用午後九時二十二分終了メバチ二、



キハタ一、トンボ一、イラキ一ヲ獲、十日午後七時十五分勝浦投錨  
 第九回 二月十六日午前〇時五十分勝浦投錨、七時四十三分投錨午後六時三十分終了メバチ一尾、サメ三尾ニテ濱島ニ向  
 フ十七日午後一時濱島投錨

第十回 二月二十六日午前一時二十三分勝浦出帆午前七時二十五分野燈臺南西三十度五ノ海區ニテ七十鉢使  
 用ス午後十時十五分終了漁獲物カチキ一、メカチキ一、メバチ七、キハタ二、トンボ一、イラキ一、水餃一  
 二十七日午前七時三十五分野燈臺南西二十度五ノ海區ニテ七十鉢使用午後九時三十分終了  
 漁獲物メバチ三、キハタ二、サメ一

二十八日午前七時四十分野南東二東二分一東四十四度ニ七十鉢使川正午頃ヨリ益々風浪高クナリ午後〇時三十八分揚  
 錨開始ス午後八時終了歸途ニ就ク本日ノ漁獲物メバチ二、キハタ二、トンボ一、水餃二、イラキ一  
 三月一日午前九時三十四分勝浦投錨

第十一回 三月三日午前〇時四十九分勝浦出帆午前七時五十一分野南西四十度二分一西三十二度ニ七十鉢使用  
 ス午後十時終了漁獲物キハタ四、メバチ二、カチキ二、鮫二尾ヲ獲、四日午後〇時四十八分勝浦投錨

第十二回 三月八日午前四時二十一分勝浦出帆午前八時三十分潮岬南七度ニ七十鉢使用午後十時五分終了漁獲物メバチ三  
 十一、メカチキ一、水餃四、イラキ一尾  
 九日午前七時三十三分潮岬南西十四度五ノ海區ニ六十八鉢ヲ使用午後十時三十分終了漁獲物メバチ十七  
 カチキ一、サメ二尾、終了後勝浦ニ向フ十日午前二時四十八分勝浦投錨

第十三回 三月十二日午前五時二十五分勝浦投錨午前九時三十分潮岬南八度五ニ五十五鉢使用午後八時三十五  
 分終了漁獲物メバチ四、キハタ三、カチキ一、メカチキ一、鮫三、  
 十三日午前八時野南東二東二分一東六十四度ニ七十度ノ海區ニ五十五鉢ヲ使用午後九時五分終了漁獲物メバチ五  
 サメ二

十四日風浪高ク漂流ス  
 十五日午前九時潮岬南西八度五ニ五十五鉢使用午後八時三十分終了勝浦ニ向フ、十六日午前四時五十分勝浦

投錨

第十四回 三月十九日午前四時二十三分勝浦出帆午前八時二十三分投錨午後九時二十分終了漁獲物大マグロ六、メバチ一  
 トンボ一  
 二十日午前八時四十一分潮岬南東十五度ニ投錨午後八時四十五分終了漁獲物大マグロ一、トンボ一  
 二十一日午前九時四十七分濱島投錨之ヲ以テ本年度鮪延繩漁業試験ヲ終了セリ

月日	緯度	経度	雲候	風向	風力	氣壓	氣温	水温	漁目	使用時	餌料	漁獲物			備考
												大	中	小	
十二月十七日							15								
十八日	(1)	32°47'				770	19	22.5		A.M.7-15 P.M.9-16	イワシカ	鮫 1			P.M.10-47勝浦投錨CO. SE/S
十九日	(2)	33°16'				767.7	18	21		A.M.11-05 P.M.9-15	イワシカ				P.M.9-15漁業終了後9-20ヨリ NWニ歸途ニツク
二十日	(3)	33°18'				758.5	16.5	20.5		A.M.8-30 P.M.7-15	イワシカ	鮫 1			P.M.7-15終了シテ CONNWニテ歸途ニツク
二十四日	(4)	33°14'				766.0	14.0	20.7		A.M.9-16 P.M.6-10	イワシカ				P.M.6-40ヨリ CONNWニテ歸途ニツク
二十七日	(5)	33°56'				772.0	14	19.6		A.M.10-00 P.M.7-15	イワシカ	水 鮫 3			P.M.7-15CON/SEニテ歸途ニ ツク

二十六日	十六日	十日	九日	八日	二月七日	三十日	二十九日	二十八日
18	17		16		15	14	13	12
33°2'	32°55'		32°18'		33°2'	33°24'	33°30'	33°4'
136°7'	136°39'		137°40'		136°47'	136°53'	137°6'	136°35'
B	CR		B	C	B	B	C	B
NNE 1	S 3	NE 4	NNW 1	NW 3	NW 1 W 3	N 2	WNW 1	SSE 1
768.0	768.5	764.0	772.5	769.0	764.5	767.5	767	771
13.4	17.0	13.0	12.5	10	15	15	13	7
20.4	19.0		20.0	21.3	20.7	18.0	18.5	18.5
A.M. 7-25 P.M. 10-15	A.M. 7-43 P.M. 6-30		A.M. 7-37 P.M. 9-22		A.M. 8-00 P.M. 9-50	A.M. 8-13 P.M. 9-48	A.M. 8-20 P.M. 9-40	A.M. 8-00 P.M. 9-50
70	70		70		70	70	65	70
イイワシカ	イイワシカ		イイワシカ		イイワシカ	イイワシカ	イイワシカ	イイワシカ
鯨イラキ 11	鯨 3		イラキ 1		水鯨 3	鯨 1	鯨 1	鯨 11
カチキ 1 メバチ 7	メバチ 1		メバチ 2		カチキ 2 メバチ 4	メバチ 4	メバチ 1	メバチ 5
キワダ 2 トンボ 1			キワダ 1 トンボ 1		キワダ 3			カチキ 1
						メバチ 1	メバチ 3	メバチ 3 トンボ 2
	一五、六		二五、七		三四、六			
		午後七時 魚獲出漁準備		天候ヨロシキ 見込ナキ故變航ス				

二十二日	二十一日	二十日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日
(11)	(10)	(9)		(8)	(7)		(6)	
33°14'	33°8'	33°12'		3°18'	29°55'		30°47'	
130°4'	136°11'	136°46'		136°40'	136°9'		135°15'	
C	B	B	C	B	B	BC	R	C
NE1	NW1	W2	WNW3	NNE1	NW3	NW3	NW3	W2
772	769.8	764	767	770	771	768	769.5	772
12	12	13	17	16	14	14	14	8
19.2	20.0	18.3		20.0	20.0	20.0	20.5	
A.M. 8-20 P.M. 9-55	A.M. 8-35 P.M. 10-10	A.M. 7-55 P.M. 11-00		A.M. 8-42 P.M. 10-00	A.M. 7-45 P.M. 9-57		A.M. 8-10 P.M. 8-25	
70	65	65		70	70		73	
イイワシカ	イイワシカ	イイワシカ		イイワシカ	イイワシカ		イイワシカ	
	鯨 1	鯨 3		鯨 2				
梶木 1 トンボ 56 キハダ 3	メバチ 3 トンボ 3 梶木 1	メバチ 5 トンボ 4 キハダ 2		梶木 4 トンボ 2	梶木 1 トンボ 2		梶木 1 トンボ 1	
	四三、三			二六、五				
			歸途ニツク		本日風浪強ク操業出来ズ 漂流ス			根據地勝浦出帆 漁場ニ向フ





### 三、朝鮮海漁場視察

趣 旨

打瀬網漁業救済策ノ一トシツテ新漁場調査並ニ移住ニ適スル地トシテ朝鮮南部及西南部ノ漁業状態ヲ調査スヘク當業者ヲ指導船白鳥丸ニ乗組マシメ漁撈職員之ヲ引率シテ左記ノ如ク調査セリ

視察者

技師	大村 三樹之助
技手	長田 正夫
愛知郡	山下 豊吉
高羽郡	高羽 俊三
知多郡	鳥居 正市

二十一日	二十日	十九日
	28	27
	33°9'	33°11'
	136°4'	135°57'
B	B	B
NW 2	SW 3	NE 2
765.5	764.0	770.0
18.5	20.0	16.0
	20.5	10.5
	A.M. 8-41	A.M. 8-23
	P.M. 8-45	P.M. 9-20
	55	55
	イイワシカ	イイワシカ
		クロメバチ 1
	クロ 1	
		トンボ 1
	ミナモト	
A.M. 9-47 渡島路港		

知多郡 藤井萬之助  
 " 柳 常太郎  
 " 石黑新太郎  
 " 石黑善六  
 幡豆郡 尾崎貞雄  
 寶飯郡 長田新三郎  
 " 水野倉治  
 " 牧原猪吉  
 " 吉本彌助  
 " 壁谷 久左工門  
 " 牧原 榊吉  
 " 山口市三郎

昭和五年十月十日 名古屋港碇泊ノ白鳥丸ニ全員乗船ス  
 十月十一日 午前十時三十五分名古屋出帆 午後六時〇分大王崎燈臺並航、  
 十二日 午前五時三十一分潮岬燈臺並航、午後四時五十一分紀淡海峡通過、午後八時明石海峡通過  
 十三日 午前六時二十分多度津ニ投錨  
 十四日 午前四時四十五分多度津出帆、午後六時十九分室津投錨、十五日午前四時三十七分室津拔錨、午後一時二十分下  
 關投錨、十六日午後二時下關拔錨、午後九時沖島燈臺並航、十七日午前七時四十三分釜山投錨  
 十八日 釜山市場、水産試験場等視察  
 十九日 午前五時五十六分釜山拔錨、午後一時十四分統營投錨、統營視察  
 二十日 午前八時五十分統營拔錨、午後三時四十分麗水鐘浦(愛知村)ニ投錨、麗水視察  
 二十四日 漁船一隻雇入レ漁具積載午前一時十分麗水拔錨、正午ヨリ漁場調査午後九時〇分終了、七發島ニ向フ、

二十五日 午前四時十分七發島燈臺北側ニ假泊午前八時四十五分漁場調査ニ向フ午後四時五十分終了シテ鎮里港ニ投錨  
 二十六日 午前七時二十三分鎮里港拔錨漁場調査ニ向フ午後〇時三十分終了、午後六時五十分八口浦ニ假泊ス  
 二十七日 午前七時五十分八口浦拔錨、午前十時五十四分木浦投錨、木浦見學  
 二十八日 午前八時一分木浦拔錨、午後八時〇分居金水道ニ假泊ス  
 二十九日 午前五時三十五分居金水道拔錨、午前六時四十六分羅老島ニ寄港、市場視察後釜山ニ向フ午後十時十分釜山投  
 錨  
 三十日 天候悪シク轉錨増錨ス  
 十一月二日 午前三時五十分釜山拔錨、午後一時三十五分沖ノ島燈臺並航、午後七時四十五分六ヶ連島投錨  
 三日 檢疫ヲ受ケ午前七時四十三分六連島拔錨、午後一時四十五分下ノ關投錨  
 四日 午前十時二十七分下關拔錨一路名古屋ニ向フ  
 五日 午前五時七分明石寄港  
 六日 午前〇時四十五分明石出帆午後一時二十分潮岬通過  
 七日 午前八時二十一分名古屋港投錨シテ朝鮮海視察ヲ終了セリ

## 第二製造部

### 試驗

#### 一、海苔加工試驗

味付海苔ト昨年度試驗シタル自働調味機械ノ成績ハ極メテ良好ニシテ調味ノ平等ト作業ノ迅速トハ共ニ本製造ヲ助長セシメ大量製産ノ實ヲアクルニ至ラシメタルヲ以テ本年度ハ當業者ニ本機ヲ使用セシメ連續轉實地製造ヲ行ハシメタルニ製品極メテ良好且大量製産ノ結果トシテ生産費ヲ節減シ該品ヲ東西市場ニ販出シタルニ好評ヲ博シタリ在來本縣ノ味付海苔ハ手炙ニシテ極メテ少數ノ製造行ハシタルニ過ギザリシヲ遺憾トシ本試驗ヲ開始シタルモノニシテ試驗ノ結果之レガ成績ニ鑑ミ製造ヲ開始スル者續出シ年次製産ヲ増大スルニ至レリ

燒海苔——燒海苔ハ味付海苔ニ比シ原料乾海苔ノ優秀ナルモノヲ必要トスルガ故ニ本縣產ノ乾海苔ニテハ優良品ノ製産至難ナルガ如ク傳ヘラレ製造者殆ド皆無ノ状態ナルヲ以テ之レガ打開ノ目的ニテ燒海苔ノ製造試驗ヲ行ヒタルニ本場東京產ノ物ニ比シ何等遜色ナキ製品ヲ得タリ故ニ之レガ結果ヲ一般當業者ニ普及セシメントス

海苔佃煮燻詰——海苔佃煮製造試驗ハ既ニ完了シ優良品ノ製出容易ナルモ少量ノ製産ニテハ多年研究シタル製法ト販路ヲ有スル東京產ニ追従スルノミニテ依然トシテ本縣ヨリ原料(青海苔)ヲ供給スルノヤムナキ現状ニアリ故ニ原料トシテ移出セス之レヲ製品トシテ販出スルハ尤モ急務ニシテ有利有品タルベシ之レガ方法トシテハ舊套ヲ脱シ大量製産ノ一途アルノミナルヲ以テ本場ハ有力ナル當業者ニ大量ノ製品ヲ製造セシメ大阪方面へ販出セシメタルニ賣行良好ニシテ好成绩ヲ修メタリ故ニ本成績ニヨリ今後續イテ當業者ガ大量製産ヲナシ近キ將來ニ於テハ本縣產佃煮原料ノ大部分ヲ本縣ニ於テ處理スルニ至ルヤ近キニアルベシ故ニ引續試驗指導獎勵等ヲナサントス

海苔佃煮燻詰——海苔佃煮ハ近時燻詰ヨリ燻詰ノ需要多キガ故ニ小型燻詰ノ試驗ハ中止シ再ビ開罐シテ販賣スル大型燻詰ノ試驗ヲ昨年度ヨリ開始シ相當成績ヲ修メタルガ故ニ本製造ヲ當業者ニ獎勵シタルモ尙本品ハ罐型大ニ失スルタメ給熱ノ

際ニ於ケル熱ノ傳導等ニ付遺憾ノ點アルヲ以テ之レガ再試驗ヲナシ給熱ノ適温並ニ時間ヲ確メタリ  
生海苔ヲ原料トスル海苔ノ佃煮試驗ハ未ダ完成ノ域ニ達セズ引續キ當業者ト聯絡試驗ヲナシタルモ本法ニヨル製品ハ製造後時日ヲ經過スレバ軟化シ食味ヲ減ズル欠點アルガ故ニ今後更ニ試驗研究ヲナサントス本年度試驗シタルモノハ半ケ年貯藏シ開罐シタルニ充分ノ成績ヲ得ルニ至ラザリキ

#### 二、増殖魚貝類利用試驗

養殖セラレタル生物ヲ調味加工シ保味貯藏ニ關スル研究ヲナシ生産價值ノ向上並ニ副業的製造事業ノ促進ヲ計ル目的ヲ以テ「鯉味噌漬」「鯉汁ノ素燻詰」「鯉味噌燻詰」「鯉甘露燻詰」ノ製造試驗ヲ行ヒタリ尙今回行ヒタル試驗ハ養殖鯉ノ生産過剩ト賣行不振ノ際ニ備フル爲ニシテ製品ハ販路調査並ニ養殖業者ノ試食研究ニ供シタリ

#### 三、貝類加工製品試驗

##### 一、淺蜆味付燻詰

本縣ニ於ケル淺蜆味付燻詰ハ依然トシテ淺蜆時雨煮、淺蜆大和煮等ニシテ新製品ノ製出無キニ鑑ミ在來ノ淺蜆大和煮ヲ

改良スル目的ヲ以テ本試験ヲ行ヒタリ

試製品ハ在來ノ淺鯛大和煮ニ比シ「サラダオイル」ヲ使用シタル關係カ不良罐少ク味、美味ニシテ好評ヲ博シタリ

### 二、鯛水煮罐詰

鯛水煮罐詰試験ハ多年施行シ來リ其ノ結果ヲ綜合スルニ左記方法ニヨリ製造スルヲ可トス

### 製造方法

原料 壹升百五十個内外ノモノ  
 除殼 原料採收后海水中ニ四時間以上放養シテ含有スル砂泥ヲ排出セシメ除殼器ニヨリ外套膜ヲ損傷セザル様  
 可嚀ニ除殼ヲ行フ  
 洗滌 採肉ハ少量ノ食塩ヲ撒布シテ攪拌シ清水ヲ注キ三、四回換水洗滌シ可及的粘液ヲ除去ス  
 肉詰 湯煮シタル液ヲ本フランニテ濾過シ清水ヲ追加シテ母氏ニ度ノ塩水トナシ之レヲ罐内ニ充滿セシム  
 空罐 十一オンス罐(ラッカードチンプレート製)肉詰量一罐ニ付湯煮シタル肉四十五匁  
 給熱 「エキフーストボックス」ヲ通シ「セミトルシー」ニテ密封ス殺菌給熱ハ五封度五十分間和釜ノ給熱ニ  
 テハ完全罐ヲ得ルコト不可能ナリ

## 四、雜製造試驗

大型罐詰——昨年度試製シタル蝦佃煮大型罐詰ハ一ケ年經過后試開シタルニ罐ハ膨脹セザリシモ稍臭氣アルヲ認メタリ然  
 レドモ大体ニ於テ商品トシテ價值アル製品ヲ得タリ本品ハ開罐シテ販賣スルモノナルガ故ニ一ケ年間ノ保藏ニ堪ヘ得レハ  
 其ノ目的ヲ達シ得ベシ本品ヲ製造スルニ當リ最モ注意スベキハ佃煮ノ時間ヲ長クシ且ツ罐裝后ノ給熱ハ「スチーム」ニヨ

ルヲ可トス

## 調査

### 一、水産物乾燥機調査

#### 海苔乾燥機

三河乾海苔同業組合ト今村商會ト相提携シ試験ヲ施行シ相當成績ヲ修メタルモ本機ハ設備費ニ多額ヲ要シ戸々ニ設置ス  
 ルコト不可能ナリ之レヲ組合又ハ共同シテ設置スルモ一朝雨天ニ際會スルトキハ同時ニ必要ニシテ各自ノ製品ヲ收容ス  
 ルコト至難ナリ故ニ本機ハ現在ノ如ク農漁家ノ副業トシテ製造セラル、内ハ利用不可能ニシテ將來養殖ト製造ト分業ニ  
 ナリ會社等ニテ製造スルニ至レハ活用シ得ルモノト認ム

本試験モ一ケ年ノミニテ本機ヲ撤去シタリ乾燥機ノ概要ヲ述レハ左ノ如シ  
 イ、乾燥機ノ構造及乾燥作用ノ概略

本機ハ長方形ノ室ノ上部兩側ニ「チエーン」ヲ掛ケ廻シ此ノ間節ニ横棒ヲ嵌メコレニ乾燥棒ヲ懸垂シ而シテ運轉ヲ開始  
 スル時ハ乾燥棒ハ自働的ニ乾燥室内ニ進行シ適當ノ速度ヲ以テ反對ノ方向ニ出ル裝置トス  
 熱ハ一吋ノ蒸氣管ヲ室ノ床上ニ全副三段ニ配列シ之ニ壓力ヲ有スル蒸氣ヲ通シ放熱ス  
 通風ノ方法ハ比重代射方法ニシテ下部兩側ノ吸氣孔ヨリ進入シ蒸氣管ニヨリテ温メラル、ガ故ニ被乾物ニ觸レ水分ヲ吸  
 收シツ、上昇シ天井ノ排氣孔ヨリ逸散ス此上昇力ハ一秒時間六、七呎内外ノ速度ニテ平等有効ニ上昇ス



乾燥溫度ハ華氏百度以上百三十度ニシテ調節ハ自由ニナシ得汽罐ハ今村式汽罐ヲ用ヒ構造ハ小型水管式掘置移轉、解体ハ自由ニシテ蒸氣ノ發生迅速且燃料ハ極メテ經濟ナリ燃料ハ主トシテ石炭ヲ用フルモ鋸屑ヲ使用スルコトヲ得尙燃料節約ノ目的ニテ今村式自働還元裝置ヲ兼備ス本機ハ汽罐ヨリ送リタル蒸氣ノ凝結水ヲ自働的ニ汽罐中ニ還元給水ス

口、乾燥機ノ設計者  
名古屋市南區西古渡町 今村品太郎

ハ、乾燥物ノ種類 海苔  
ニ、一回收容能力及乾燥時間

海苔千八十枚(乾燥棒二列ニテ一列三十枚ヅ、六十枚ヲ收容一棒ニ付十八枚)

乾燥時間 三時間  
ホ、設備費概算 左記ノ通り

工程時間 能率  
十時間 三萬枚  
" " 二萬枚  
" " 一萬枚

乾燥機種別 定價  
自働式 四、〇〇〇圓  
" " 三、〇〇〇圓  
固定式 二、三〇〇圓

ヘ、乾燥經費 左記ノ通り

品名	員數	單價	合價
石炭	四百斤	一〇〇〇〇	四、〇〇〇
運搬人夫	一人	三、〇〇〇	三、〇〇〇
乾燥夫	四人	一、〇〇〇	四、〇〇〇
働力費		一、〇〇〇	一、〇〇〇
雜費		一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計			一三、〇〇〇

海苔一枚ノ乾燥六毛五絲

海苔乾燥機

イ、乾燥機ノ種類及名稱並ニ所在場所

海苔乾燥機

海部郡飛島村 鍋田村  
知多郡八幡町 横須賀町

ロ、乾燥機ノ構造及乾燥作用ノ概要

本機ハ亞鉛板ニテ作りタル圓筒形ニ筒相合シテ上板ヲ嵌着シタルモノニシテ裏面ニ圓筒ヨリ下部ニ長クセル八本ノ支柱ヲ附着シ其下端ヲ礎脚トナシテ起立シ内部ニ上端ヲ外圓筒ヨリ短ク下部ヲ支柱ノ下端マデ長クセル内圓筒ヲ設ケ上端ト上板ノ間ヲ開口シ外圓筒トノ間ニ空室ヲ設ケ支柱ノ間ヲ排熱部トシ此外周側面ニ挾壓彈機ヲ一列ニ數箇所取付ケ其挾壓彈機ノ隣位トノ間ニ長キ石綿帶ヲ貼着シ外周筒ノ下部ニ金網ヲ卷回圍繞シ台上ニ据ヘ台ノ下部中央ノ空ニ對向シテ煉炭焜爐ヲ挿入ス

生海苔ヲ抄製シ石綿帶ノ上ニアテ兩端ヲ挾壓彈機ニテ挾ミ順次併列シ而シテ内圓筒ノ火熱ノ上板ニ昇騰セシメ内圓筒ノ開口部ヨリ外圓筒トノ空室ニ迂回降下セシメ外圓筒下部ノ排熱部ヨリ金網ヲ通シテ全熱ヲ放散セシムル時ハサキニ併列シタル海苔ノ水分ヲ發散セシメ乾了ス

本機ハ生海苔ノ乾燥ヨリ五分乾キ七分乾キノモノヲ乾了スルニ適ス

ハ、乾燥機ノ設計書

海部郡飛島村

伊藤芳太郎

ニ、乾燥物ノ種類 海苔

ホ、一回收容能力及乾燥時間

海苔四十八枚(一段八枚——六段)  
七分乾キノモノ 一時間 三百枚  
五分乾キノモノ " 百五十枚

へ、設備費

一台 拾八圓

但シ前述構造ノ石綿帶及金網無ク其他ノ部分モ手ヲハブキ作リタルモノ

ト、乾燥經費

煉炭壹個八錢ノモノニテ六時間使用シ得

燃料ハ煉炭一個乃至二個ヲ要ス

### 指導

#### 一、罐詰製造

寶飯郡前芝村山ニ於テ大型サニタリ一罐ヲ使用シテ飼佃養罐詰ノ大量製産ヲ開始シタルヲ以テ之レガ製法並ニ締機械（セシトロシー）ノ取扱方法ニ付實地指導ヲナシタリ

海苔製造

海苔製造ノ改善ヲ期スル爲、三重縣桑名郡赤須賀町ヨリ實業教師ヲ招聘シ海部郡飛鳥村ニ派遣シ製造業者ノ家ヲ巡回セ

シノ實地指導ヲナサシメタリ

壘詰製造

幡豆郡及寶飯郡ニテ「もづく」壘詰、鳥賊塩辛壘詰、海苔佃養壘詰ノ製造ヲ開始シタルヲ以テ之レガ製法並ニ壘詰方法ノ指導ヲナシタリ

### 製造講習

#### 一、魚貝調味講習會

本講習ハ第一回寶飯郡三谷町ニ於テ開催シ續テ第二回ヲ愛知郡下之一色町ニ開催シタルニ共ニ好成績ヲ修メタリ故ニ之ガ講習ノ開催ヲ希望スルモノ續出スルニ至リタルヲ以テ本年度ハ該講習ノ効果ヲ充分修メ得ル碧海郡大濱町ニ於テ開催シタリ本講習ノ主旨ハ昨年度記述シタルガ如ク魚貝類取扱業者ガ魚貝ヲ販賣スルニ必要ナル調味方法ノ素養ナキ爲販賣上不利不使ヲ感ジツ、アリ加フルニ近時魚貝ノ販賣ヲ營ムカタハラ「仕出し」「冠婚料理」ノ請負ヲナスモノ多キニ至リ一層獻立料理並ニ儀式ニ關スル智識ノ必要ヲ感ジツ、アルニ鑑ミ之レガ智識ヲ業者ニ習得セシメントスルモノニシテ之レガ結果ハ豫期シタルガ如ク好評ヲ博シタリ

會場 碧海郡大濱町 小學校

講師 滋賀縣膳所町 山田源次郎

會期 自昭和五年六月三日 二日間  
至昭和五年六月九日

講習生 八十五名

講習科目

折詰料理

- 一、梅花玉子 竹輪長芋 松毬烏賊 龜甲キントン 浪蕪蕪 鶴ノ菓子 日出蒲鉾
- 二、日出玉子 千卷蒲鉾 鱈ノ青ロー焼 ハジカミ 鱈ノ塩焼 葡萄カン 牡丹百合
- 三、卷玉子 鮓ノ上り焼 卷烏賊 雪中コハク 花蓮根 林檎
- 四、鳴門玉子 赤霜降蒲鉾 鐵扇蝦 茄子田樂 ヨセエンドウ 鱈雲丁焼
- 五、チラシ鮓

鮎飯ノ割合—米一升 酢一合 砂糖一合 塩四勺 味ノ素少々  
入レル子—スダレフ 椎茸 玉子焼 蝦 乾瓢

一品料理

八幡巻 穴子ノ鳴門巻 小魚甘露煮 生盛鱈 松前巻 鮎ノ子作り 手毬鮎ノ梅肉 柔魚ノ魚田 ガランデオ  
ニオン 細工玉子 鯛ノケンチン蒸 小魚ノニンビン漬 蝦ノ星煮 章魚ノ櫻煮 オムレツ 鮎ノ大船煮 車蝦  
ノ天ブラ 村雨雲龍玉子 鱈ノニンビン漬 南瓜ノイコミ 鯛ノ信州蒸 鮎ノ塩蒸 印籠胡瓜

第三養殖部

一、鱒増殖事業

前年ニ繼承シ矢作川増殖場、豊川、巴川ノ兩孵化場ニ於テ内地卵五四一、五七〇粒（縣内採卵一九八、九七〇粒購入卵三四二、六〇〇粒）外國卵九〇〇、〇〇〇粒合計一四四一、五七〇粒ヲ夫々收容孵化シ矢作川、豊川、天瀧ノ諸川本支流ニ八八〇、一二〇尾ヲ放流スルト共ニ矢作川、豊川兩孵化場ニ一二八、三四〇尾ヲ親魚養成ノ目的ヲ以テ放養ス 概況下記ノ如シ  
一、設備 前年度ノ設備ヲ以テ施行ス  
二、成績概況

(4) 採卵成績

矢作川水系 神尾川、段戸川、足助川、巴川  
豊川水系 巴川、段戸川ノ六河川ニ於テ捕獲セシ鮎親魚ヨリ一二五、一一〇粒ノ鮎卵ヲ得尙昭和元年以降豊川孵化場ニ於テ親魚養成中ノ虹鱒ヨリ七三、八六〇粒ヲ採卵ス

採卵成績表

月	日	種魚	採卵用親魚		採卵數	採卵地	雌雄別	體		平均	體	
			雄	雌				最大	最小		最大	最小
自十月十八日	至十月十九日	鮎	五五	四三	九八	矢作川増殖場 神尾川	雌	三九、五	三三、二	三九、三	三三、〇	七、六
自十月十七日	至十月十八日	鮎	四四	三九	八三	巴川孵化場 足助川	雌	三九、八	三三、五	三九、六	三三、二	七、七
自十月二十四日	至十月二十五日	鮎	五三	三六	八九	豊川孵化場 段戸川	雌	三九、四	三三、五	三九、七	三三、〇	七、六

自二月六日二十日間	虹鱒	五	一五	七三、六〇	豐川孵化場	雌	三、五	三、〇	四、八	一、九	一、六
至二月二十七日	虹鱒	五	一五	七三、六〇	豐川孵化場	雌	三、五	三、〇	四、八	一、九	一、六
合計		一、五四	一、二六	一、九、九七							

(四) 孵化成績  
 矢作、豊川、巴川ノ三孵化場ニ鮭卵、河鱒卵、虹鱒卵合計一、四四一、五七〇粒ヲ收容シ、二三〇、〇四七尾ヲ孵化  
 ス孵化率八五%トス  
 孵化成績表

孵化場名	鮭		虹鱒		河鱒		計		備考
	採卵數	購入數	採卵數	購入數	採卵數	購入數	採卵數	購入數	
矢作川増殖場	〇	〇	〇	〇	九、五〇〇	三〇〇、〇〇〇	四九、四〇〇	三三、六〇〇	
豊川孵化場	四、七三〇	一五〇、〇〇〇	七三、八六〇	八〇、〇〇〇	二九、四〇〇	三〇〇、〇〇〇	二四、九〇〇	五三、〇〇〇	
巴川孵化場	三、八八〇	—	—	—	—	三〇〇、〇〇〇	三、八八〇	三、八八〇	
合計	八、六一〇	一五〇、〇〇〇	七三、八六〇	八〇、〇〇〇	三八、九〇〇	九〇〇、〇〇〇	八〇、三六〇	一、一四一、〇〇〇	

(三) 放流成績  
 鮭一五三、九五〇尾、河鱒六三六、〇七〇尾、虹鱒九〇、一〇〇尾、合計八八〇、一二〇尾ヲ矢作、豊川、天龍ノ本支流  
 ニ放流ス  
 放流成績表

孵化場名	放流月日		魚種	放流尾數	自收容至放流 期間ノ死兒率	放流河川名
	四月八日	四月二十九日				
矢作川増殖場	四月八日	鮭	七、五〇〇	四四%	矢作川水系 名倉川 段戸川 小川木川 本流	
	全	河鱒	一一〇、一〇〇	四五%		
	五月十日	虹鱒	四四、五〇〇	三三%		
豊川孵化場	四月二十九日	鮭	一〇九、五〇〇	四三%	豊川水系 寒狭川 段戸川 田内川 巴川 島田川 天龍川水系 大入川 振草川	
	四月三十日	河鱒	三三、六七〇	二六%		
	全	虹鱒	四四、〇〇〇	三九%		
巴川孵化場	五月八日	鮭	一六、五〇〇	五二%	矢作川水系 巴川 足助川 大見川 神尾川 阿摺川 本流	
	五月九日	河鱒	三〇三、〇〇〇	一五%		
	計		三二九、五〇〇			

場 化 野 鱒 川 豊					場 殖 裕 川 作			
計小	鱒虹	鱒虹	鱒河	鮎	計小	鱒虹	鱒河	
		2.6 2.27			自10.10 至10.24			
882		♀ 50 ♂ 54		♀ 310 ♂ 468	985			
114,590		73,860		40,730	49,490			
		2.6 2.27		11.21 12.2 12.5	自10.10 至10.24	自3.16 至3.24	1.10	
644,590	80,000	73,860	300,000	150,000	40,730	362,090	112,600	200,000
	自2.21 至2.28	自3.1 至3.29	自2.25 至3.5	自12.1 至12.26	自11.3 至11.24	自3.29 至4.18	自1.15 至1.27	
533,545	65,790	53,635	272,770	110,631	30,719	310,478	99,500	173,626
111,045	14,210	20,225	27,230	39,369	10,011	51,612	13,100	26,374
17.2%	17.8%	27.4%	9.1%	26.2%	24.6%	14.3%	11.6%	13.2%
	2.28	3.29	3.5	12.26	11.24	自3.29 至4.18	1.27	
533,545	65,790	53,635	272,770	110,631	30,719	310,478	99,500	173,626
100,185	11,100	8,035	49,100	23,331	8,619	54,578	20,250	24,626
18.8%	16.9%	15.0%	18.0%	21.1%	28.1%	17.6%	20.4%	14.2%
		4.30	全	4.30	4.29	5.10	全	
378,670 養成 54,690		45,600	223,670	87,300	22,100	182,250 養成 73,650	44,500 養成 34,750	110,000 養成 38,900
	天龍川水系 振草川内川 大入川	豊川水系 豊川内川 大入川	天龍川水系 振草川内川 大入川	豊川水系 豊川内川 大入川	豊川水系 豊川内川 大入川	矢作川水系 小田木川 段戸川	矢作川水系 名倉川 本流 段	
	54,690尾 親魚養成 トシテ飼 育中					34,750尾 親魚養成 トシテ飼 育中	38,900尾 親魚養成 トシテ飼 育中	

矢 鮎	場名 種魚	採 卵 期	養 成		備 考
			收 容 数	養 成 数	
自10.18 至10.29	月日	親魚 数	431	554	
49,490	月日	採卵 数	49,490		
自10.18 至10.29	月日	收 容 数	100,185	100,185	
49,490	月日	採 卵 数	49,490		
自11.25 至12.16	月日	養 成 数	37,352	12,138	
49,490	月日	採 卵 数	49,490		
自11.25 至12.16	月日	放 養 数	37,352	9,702	
49,490	月日	採 卵 数	49,490		
4.8	尾 数	放 流 場 所	矢作川水系 名倉川		
27,650	尾 数	放 流 場 所	矢作川水系 名倉川		

備考 尙右ノ外矢作川増殖場ニ於テハ虹鱒四才一、八〇尾、三才二、五〇尾、二才一、九〇尾、一才四、五〇尾、河鱒四才三、四〇尾、二才二、〇〇尾、一才六、〇〇尾、合計一〇九、六〇〇尾、豊川鱒孵化場ニ於テハ虹鱒五才五〇尾、一才五、〇〇尾、河鱒四才一、七〇尾、三才三、八〇尾、二才四、〇〇尾、合計一〇六、三七〇尾ヲ夫々養成中トス  
鱒採卵並ニ孵化放流一覽表

(二) 親魚養成々績  
親魚養成ノ目的ヲ以テ昭和元年以降各年放養飼育中ノ河鱒、虹鱒ノ外ニ虹鱒卵一三五、〇〇〇粒、河鱒卵五〇、〇〇〇粒合計一八五、〇〇〇粒ヲ購入シ一、二八、三四〇尾ヲ夫々飼育池ニ收容養成ス  
收容孵化養成表

合 計	八〇、二〇〇	三〇%
-----	--------	-----

計 合	揚 化 群 鱒 川 巴		
	計小	鱒河	鮭
			自10.5 至10.17
2,578	711		♀ 297 ♂ 414
198,970	34,890		34,890
		1.10 2.21	自10.5 至10.17
1,441,570	434,890	400,000	34,890
		1.21 3.31	自11.7 至12.1
1,230,047	386,024	360,000	26,024
211,523	48,866	40,000	8,866
14.7%	11.2%	10.0%	25.4%
		3.31	12月1日
1,230,047	386,024	360,000	26,024
221,587	66,824	57,700	9,124
16.4%	17.9%	16.0%	35.1%
		5.9 5.10	5月8日
880,120 養成	319,200	302,300	16,900
		矢作川水系 神屋川足助川 阿摺川本流見川	矢作川水系 足巴川

## 二、小鮎移殖放流事業

前年ニ繼承シ關係河川漁業組合ト協同シテ滋賀縣琵琶湖産小鮎ノ移殖、並ニ靜岡縣濱名湖産稚鮎試験的移殖放流ヲ爲ス而シテ琵琶湖産小鮎ハ初漁期著シク不漁ニシテ移殖長期ニ互リシ爲メ豫定ノ數量ヲ移殖スルコトヲ得ザリキ

一、移殖放流尾數

水 系 別	琵琶湖産	濱名湖産	合 計
矢作川水系	111,000	15,000	126,000
豊川水系	70,000	6,000	76,000
天龍川水系	14,000	17,000	31,000
庄内川水系	111,000	—	111,000
計	306,000	37,000	343,000

### 二、小鮎ノ体長及体重

琵琶湖産小鮎ハ初漁期体型一般ニ大型ニシテ不等ナリシモ盛期ニ入り漸次均整ヲ保チタリ

平均体長 九、〇糎 平均体重 四、五瓦

濱名湖産稚鮎ハ琵琶湖産小鮎ニ比シ初漁當時ハ著シク小型ナリシモ後期ニ入り却ツテ大型トナル而シテ平均ハ琵琶湖産小鮎ニ比シ小型ナリ

平均体長 八、〇糎 平均体重 三、二瓦

### 三、放流月日、場所其他

放流月日	放流尾數	放 流 場 所
三月十三日	15,000	矢作川水系本流 西加茂郡藤岡村大字川口
三月二十二日	15,000	東加茂郡旭村大字小渡

備 考



四、運搬方法

濱名湖産稚鮎ハ長五尺巾三尺深三尺ノ「麻製ズツク」水槽二個ヲ一噸積貨物自動車ニ積載シ海水四、井水六ノ割合ニ混和シ比重ハ一、〇二二五（一五、〇）ニ低下セシメタル半鹹水ヲ水深二尺内外ニ滿シ小鮎一萬五千尾乃至四萬尾ヲ收容シ途中人夫ヲ同乗セシメ氷ヲ以テ水温八一〇度ニ調節ヲ計リ輸送ス  
 輸送時間二時間半乃至五時間途中斃死率一―三%ニシテ琵琶湖産ノモノニ比シ稍々虛弱ナルモノノ如シ尙四萬尾一車ニテ輸送シタル場合ハ壓搾酸素ヲ使用シ輸送時間四時間内ニ於テ酸素二千立弱使用セリ  
 琵琶湖産自動車輸送ハ前年同様ノ方法ヲ採リ飛行機輸送ハ本年度購入ノ酸素分散器ヲ使用シテ三臺各一萬二千尾宛積載輸送シタルニ輸送時間約三十分ニシテ斃死數尾ニ過ギザル好成績ヲ收メタリ

五、前年度移殖成績

矢作川水系二三九、〇〇〇尾。豊川水系六〇、〇〇〇尾。天龍川水系五六、〇〇〇尾。庄内川水系一五、〇〇〇尾。計三七〇、〇〇〇尾ヲ滋賀縣ヨリ購入移殖シタルモ天候其ノ他ノ關係ニヨリ一般ニ不漁ニ終リタリ

概況左ノ如シ

一、捕獲成績

捕獲成績一覽表

放流月日	放流河川名	放流尾數	捕獲尾數	價額	捕獲率	備考
自三月一日至五月七日	矢作川本流	一七、〇〇〇	五、八〇九	六、六七五	三〇%	
自三月十八日至五月十五日	矢作川支流 巴川	五、〇〇〇	三、九〇七	四、〇〇〇	六九%	
五月十八日	矢作川支流 名倉川	一五、〇〇〇	四、五二〇	一、三三三	三〇%	

自三月二十九日至五月十五日	豊川支流 寒狭川	六〇、〇〇〇	一九、四九六	三、二五五	三三%	
四月七三日	天龍川支流 振草川	二六、〇〇〇	不詳	不詳		
四月二十四日	天龍川支流 大入川	三〇、〇〇〇	一一、四六〇	一、二〇六	三%	
四月二十二日	庄内川	一五、〇〇〇	一〇、四九〇	九五一	七〇%	
計		一七〇、〇〇〇				

備考 河川漁業ノ特質上實數ヲ知ルコトハ困難ニシテ本表ニ現レタル數量ハ共同販賣所ニ於テ取扱ヒタル數量及漁況調査員ノ報告ヲ參酌シテ作製シタル統計ナルヲ以テ實數ヨリ少ナキハ免ガレズ

二、成長度

各河川別ニ表記スレバ左ノ如シ

(1) 矢作川水系本流

放流及捕獲位置	放流		捕獲		自放流至捕獲經過日數	增加數量		備考
	月日	體長	體長	體重		體長	體重	
矢作川本流 自猿投村越戸至旭村時瀬	自三月一日至五月七日	八、五cm.	三、九gr.	五月下旬	二七、三cm.	五、三gr.	二四	八、八cm. 五、四gr.
全	全	"	"	六月中旬	一八、三	七、〇	三九	九、七 七、一
全	全	"	"	七月中旬	三三、七	九、八	六九	一四、二 八、九



放流及捕獲位置	放流日	放流時	捕獲日	捕獲時	自放流至捕獲		備考
					經過日數	增加數量	
矢作川本流 自猿投村越戸 至旭村時瀬	自三月一日 至五月七日	八、五	八月中旬	三三、〇	一三、五	100	10、八、六
全	全	"	九月中旬	三六、〇	一三、三	131	一七、五
全	全	"	十月中旬	三六、〇	一三、三	121	一七、四

(四) 矢作川水系巴川

放流及捕獲位置	放流日	放流時	捕獲日	捕獲時	自放流至捕獲		備考
					經過日數	增加數量	
巴川 自松平村九久平 至下山村黒岩	自三月十八日 至五月十五日	八、五	五月下旬	一五、三	三〇、〇	126	六、八
全	全	"	六月中旬	一九、七	四五、〇	133	二、二
全	全	"	七月中旬	一九、七	五六、三	133	二、二
全	全	"	八月中旬	一九、七	五六、三	133	二、二
全	全	"	九月中旬	二二、三	六六、三	133	二、二
全	全	"	十月中旬	二二、三	六六、三	133	二、二

(三) 矢作川水系名倉川

放流及捕獲位置	放流日	放流時	捕獲日	捕獲時	自放流至捕獲		備考
					經過日數	增加數量	
名倉川 自名倉村清水 至稻橋村大野瀬	五月十八日	八、五	七月中旬	一五、一	110、〇	136	六、六
全	全	"	八月中旬	二二、三	一二、五	133	二、七
全	全	"	九月中旬	二六、〇	一六、八	133	一、五

(二) 豊川水系寒狭川

放流及捕獲位置	放流日	放流時	捕獲日	捕獲時	自放流至捕獲		備考
					經過日數	增加數量	
寒狭川 自長篠村横川 至田口町田口	自三月二十九日 至五月十五日	八、五	五月下旬	一八、二	五九、〇	126	九、七
全	全	"	六月中旬	二二、三	七五、〇	133	二、七
全	全	"	七月中旬	二二、三	〇、七	126	七、七
全	全	"	八月中旬	三三、七	一一、五	133	一、四
全	全	"	九月中旬	三三、七	一一、五	133	一、四

(一) 天龍川支流振草川

放流及捕獲位置	放流月日	放流体長	放流体重	捕獲月日	捕獲体長	捕獲体重	自放流至捕獲日數	增加體長	增加重量	備考
振草川	四月三日	八、五	三、九	五月下旬	一六、二	五、〇	二	七、七	四、一	
全	全	"	"	六月中旬	一八、二	五、〇	三	九、七	五、一	
全	全	"	"	七月中旬	二〇、六	三、五	六	三、一	一〇、三	
全	全	"	"	八月中旬	二〇、六	三、五	一〇	三、一	一〇、三	

(c) 天龍川支流大入川

放流及捕獲位置	放流月日	放流体長	放流体重	捕獲月日	捕獲体長	捕獲体重	自放流至捕獲日數	增加體長	增加重量	備考
大入川 自豊根村下黒川 至"上黒川	四月二十四日	八、五	三、九	六月初旬	一七、三	五、三	四	八、八	五、四	
全	全	"	"	七月中旬	二二、八	一〇、〇	八	一三、三	一六、一	
全	全	"	"	八月中旬	二五、二	一六、八	二	一六、七	一六、九	
全	全	"	"	九月中旬	二五、四	一七、五	一	一六、九	一八、三	
全	全	"	"	十月中旬	二六、一	一七、五	一	一七、六	一八、三	

(b) 庄内川

放流及捕獲位置	放流月日	放流体長	放流体重	捕獲月日	捕獲体長	捕獲体重	自放流至捕獲日數	增加體長	增加重量	備考
庄内川 高藏寺町高藏寺	四月二十二日	八、五	三、九	五月下旬	一六、二	五、〇	三	七、七	四、一	
全	全	"	"	六月中旬	一八、二	六、〇	四	九、七	五、一	
全	全	"	"	七月中旬	一九、七	八、〇	八	一一、二	七、一	
全	全	"	"	八月中旬	二〇、六	八、〇	二	一一、一	八、一	
全	全	"	"	九月中旬	二二、五	九、六	一	一四、〇	八、七	
全	全	"	"	十月中旬	二四、三	一三、三	一	一五、七	一七、三	

三、鯉兒放流事業

河川増殖事業ノ一 トシテ左記河川ニ海部郡彌富産鯉兒九萬尾放流ス  
一、水系別放流數

木曾川水系 四五、〇〇〇尾  
 矢作川水系 三五、〇〇〇尾 (巴川、乙川ヲ含ム)  
 豊川水系 一〇、〇〇〇尾

一、放流魚ノ体長体重  
 体長 最大 一〇種 最小 六種 平均 七、五種  
 体重 最大 一四瓦 最小 六瓦 平均 八瓦

一、放流場所並數最其ノ他

放流月日時	放流場所	放流數	放流時		備考
			氣溫	水温	
三月二日 午前十時	木曾川水系 葉栗郡北方村字北方大日	二五、〇〇〇尾	四、一	五、三	自動車輸送ニ依ル
" 午前十時	木曾川水系 葉栗郡草井村字草井	一五、〇〇〇	八、三	五、一	"
" 午後一時	全 丹羽郡大山町地先	一〇、〇〇〇	一三、〇	五、二	"
三月三日 午前十時	矢作川水系 西加茂郡猿投村三河水力堰堤上	一〇、〇〇〇	七、〇	二、〇	"
" 午後三時	全 東加茂郡旭村字小渡	五、〇〇〇	一三、五	四、二	"
" 午後三時半	全 " 字菅戸岡電第五堰堤	五、〇〇〇	一三、二	四、三	"
" 午前十一時	全 巴川 " 盛岡村字則定	二〇、〇〇〇	一三、〇	三、五	"

" 正午	全 " 字追分	三、〇〇〇	一三、五	三、六	"
" 午後一時	全 " 足助町字足助	五、〇〇〇	一三、六	三、八	"
三月二日午後一時二十分	全 男川 岡崎市大平町字仁田	二五、〇〇〇	六、三	六、〇	電車輸送ニ依ル
"	全 " 姉ノ木淵	二五、〇〇〇	六、三	六、〇	"
三月三日午後零時五十分	豊川水系寒狭川 南設楽郡長篠村大字横川追分	三、〇〇〇	一四、〇	四、五	"
" 午後二時	全 鳳來寺村字布里字小松	三、〇〇〇	一、五	七、五	"
" 午後三時	全 布里堰堤上	四、〇〇〇	八、〇	五、〇	"

備考 運搬方法  
 運搬器ハ金魚桶(五段積桶)ヲ使用シ一荷約三千尾ヲ收容セリ  
 運搬時間二乃至十時間ヲ要セリ

### 四、公魚採卵孵化放流事業

前年ニ繼承シ左ノ通り公魚ノ採卵孵化放流ヲナス

一、採卵月日	二月末		
三、採卵場所	海部郡立田村 立田川		
三、採卵數	一〇、五〇〇、〇〇〇粒		
四、收容月日	場所、其他		
收容月日	數量	放流場所	備考
三月十八日	三、〇〇〇、〇〇〇	西加茂郡猿投村字越戸三河水力	堰堤ノバツクウオーター
全	三、〇〇〇、〇〇〇	丹羽郡池野村入鹿池	用水溜池
全	一、一〇〇、〇〇〇	西加茂郡舉母町	全
全	三〇〇、〇〇〇	幡豆郡吉田町	全
全	三〇〇、〇〇〇	知多郡名和村	全
全	三〇〇、〇〇〇	南設樂郡長篠村	寒狭川
全	一、五〇〇、〇〇〇	海部郡内	悪水路
計	一〇、五〇〇、〇〇〇		

### 第四 養殖山張所

#### 一、牡蠣増殖試験

伊勢灣ノ部

#### 一 經濟試驗 (前年度繼承)

本試験ハ伊勢灣奥部廣大ナル干潟ヲ開發利用スル目的ヲ以テ施行セリ  
 從來伊勢灣奥地ニ於ケル牡蠣附着材料トシテ粗朶、極棕竹、松丸太等ノ附着質入試験ヲ施行シタルモ底質浮泥ノ沈積スル  
 事多ク之等附着器ハ牡蠣ノ成長ト共ニ墜落斃死スル爲メ附着ノマ、實入期ニ達セシムルベク鐵筋混凝土製附着器ヲ考案シ  
 其ノ成績良好ナルヲ以テ引續キ本年度モ之ガ建設シ經濟試験ヲ施行スル事トセリ、尙此外土管、松丸太等ノ附着材料ヲモ  
 使用シ試験セリ

#### 一、鐵筋混凝土棚式試験

(イ) 昨年度ノ試験經過  
 從來ノ製作方法ニヨリ長サ三尺ノ一邊三寸ナル鐵筋混凝土三角柱ヲ一臺ニ付キ六本脚部用トシテ二尺ノモノ四本、一臺  
 當リ計十本トシテ一反歩百參拾六臺ノ割ニ一反半二〇四臺分ヲ製作シ之ヲ試驗地ノ第二養蠔場ニ一反歩、第四養蠔場ニ  
 半反歩建設セリ、其後稚貝ノ附着極メテ順調ニシテ又成育良好ノ域ニ進ミ翌昭和五年十一月ニ入り第一回収納期ニ至レ  
 バ従前ノ方法ニヨリ競争入札ニ附ス

#### (ロ) 本年度ノ試験

前年度ノ成績良好ナルニ鑑ミ本年度ニ於テモ同様一反歩ヲ建設スル事トス、挿入用トシテ鐵線八番線長サ二尺九寸ノモ  
 ノ三本ヲ組合セタルモノヲ用ヒ一〇二〇本脚部用鐵筋一尺九寸ノモノ三本ヲ一組トセルモノ八一六本ヲ製作セリ  
 使用セルセメントハ樽入ノミ使用セシガ本年度ヨリ五十斤入ノ袋詰ノモノヲ使用シ配合割合ハセメント一、〇砂二、五礫

五〇ノ割ニシ一袋ニテ三尺ノモノ約六十本ヲ製作シ得  
製作月日 製作本數 長サ 備入人夫數

昭和五年五月七日 三九七本 三尺 三名  
五月十三日 二八三本 三尺 //

五月十七日 一七本 二尺  
五月十七日 四〇〇本 二尺モノ 三名  
五月二十一日 六〇本 二尺モノ 三名  
五月二十四日 三四〇本 三尺モノ 三名

五月二十四日 二二二本 二尺モノ 三名

建設五月二十九日從來ハ脚部上ニ三尺モノ二本ヲ架シ上部ニ四本ヲ載セタルモノヲ本年度ヨリ三本トシ一本ヲ減シタリ  
新ハ附着夥多ト成長ノ點ニ考慮シタルモノニシテ當日十七名ノ人夫ヲ使用シ第二養蠶場ニ至リ一反半建設終了セリ  
稚貝成長度

六月十六日調査 殼高〇、三二種 殼長〇、二六種(十個平均) 建設後十八日  
六月二十六日〇、七八種 〇、七五種(〃) 〃 二十八日  
七月十三日〇、一五種 〇、一二七種(〃) 〃 四十五日  
七月二十八日〇、一九八種 〇、二二種 殼幅〇、三七(〃) 〃 六十日  
上述ノ如キ成長ヲ示シ且ツ稚貝ノ附着極メテ多ク殆ド各面ニ對シ餘地ナキニ至レリ

(ハ) 收支 經濟  
昭和四年度建設セシ一反半ヲ昭和五年十二月五日競争入札ニ附シタリ其ノ收支左ノ如シ

支出 金參百拾四圓九拾四錢貳厘

内 譯

名稱	數量	單價	金額	備考
セメント	一立坪 一合	一合六、〇〇〇	五九、六〇〇	
砂	一立坪 一合	一合一、三〇〇	一四、三〇〇	
小礫	一立坪 一合	一合四、五〇〇	四九、五〇〇	
鐵筋	八一六組	一組 〇、六四	五二、二二四	二尺九寸モノ三本ヲ三ヶ所鐵二十番線ニテ縛シタルヲ一組トス
"	四〇八組	" 〇、六五	二〇、一九〇	
"	五四四組	" 〇、四七	二五、五六八	一尺九寸モノ三本ヲ三ヶ所鐵二十番線ニテ縛シタルモノヲ一組トス
"	八一六本	一本 〇、一〇	八、一六〇	一尺九寸モノ人夫ヲ掛ケズシテ組合ス
針金	八貫匁	一匁 一、〇〇〇	八、〇〇〇	建設時結縛用
混土製	一七人	一人 二、〇〇〇	三四、〇〇〇	
作人	一隻	一隻 七〇〇	二、八〇〇	
運搬代	四隻	一隻 七〇〇	二、八〇〇	
塗抹油	三罐	一罐 三、〇〇〇	九、〇〇〇	
建設人夫賃	二人	一人 一、八〇〇	二一、六〇〇	

收入 金四百五圓拾三錢  
即チ一反歩金二百拾九圓八拾九錢二厘  
半反歩 金九拾五圓五錢ノ入札金合計ナリ  
差引純利益 金九拾圓拾八錢八厘  
一臺當リ建設ニ要スル費用金壹圓五拾四錢四厘弱  
一臺當リ純利益金四拾四錢二厘

剥身調査 混凝土一臺當リ 昭和四年五月二十九日建設モノ

調査月日	調査場所	殻付牡蠣		空殻		剥身		剥身状況
		重量	容積	重量	容積	重量	容積	
昭和五年十二月二十日	第四養蠔場	100.4	一八	七三.〇	一八	二〇.五	一、三	白色ニ充實セルモノ九分通り
昭和六年二月四日	第四養蠔場	二四.五	一八	九.九	一八	一四.五	一、四	青色ノ肉身ノモノ稍交リ充實ノ点稍劣ル

二、丸型土管牡蠣經濟試驗(前年度繼承)

(イ) 右附着器ヲ使用セシハ當伊勢灣ニ於テハ拾數年以前ニシテ昭和二年度ヨリ之ガ經濟的ニ試驗ヲ施行シ來リ約六反半ヲ割シ土管約六千本餘ヲ使用セリ、爾來今年度迄三回青田賣ニ爲シタリ年々採取ヲ行ヒシモ倭小稚貝ハ其儘ニシ翌年採取期ニ至レバ相當ノ大サニ成長スルヲ以テ毎年輪採的採取ヲナシ來レリ

(ロ) 收支經濟

第二養蠔場 三反五畝ノ分  
支出 金五百參拾圓拾壹錢五厘

内 譯

金五百圓壹錢五厘

金參拾圓拾錢

收入 金貳千六拾五圓三拾五錢

内 譯

金壹千貳圓參拾五錢

金六百貳拾圓

金四百四拾參圓

土管杭建込入夫賃  
杭及入夫賃(第一回修理)

一反歩一三五三本ノ割四五三五五分

第一回青田賣 昭和三年十二月

第二回〃 昭和四年十二月

第三回〃 昭和五年十二月

差引 金壹千五百參拾五圓貳拾參錢五厘 利益(青田賣三回分)

一反歩純利益 金四百參拾八圓六拾參錢八厘 (青田賣三回分)

第四養蠔場 一反一畝ノ分

支出 金壹百七拾參圓貳拾九錢五厘

内 譯

金壹百六拾壹圓六拾九錢五厘

金拾壹圓六拾錢

備考 第二回ハ支出ナシ

收入 金七百七拾貳圓拾錢

内 譯

金參百參拾圓

金貳百九拾圓

金百五拾貳圓拾錢

差引純利益 金五百九拾八圓八拾錢五厘 (青田賣三回分計)

(ハ) 剥身調査 五本ヲ以テ調査材料

昭和四年十二月青田賣後成長セシモノ

調査月日	調査場所	殻付牡蠣		空殻		剥身		剥身状況
		重量	容積	重量	容積	重量	容積	
昭和五年十二月二十日	第四養蠔場	二〇.六	三、六	一三.六	一八	一六.七	一、八	白色充實ス
昭和六年二月二日	〃	五.四	一〇.八	四.五	一〇.八	一〇.七	一、〇	〃

三、松丸太棚式牡蠣經濟試驗  
昨年度試驗經過

從來使用シタル松丸太材料ハ徑二寸五分前後ノ丸太ニシテ一年半餘ニシテ大部分腐朽シ終ルモノ多ク、爲ニ附着牡蠣ハ埋沒斃死多キニ鑑ミ昨年度ヨリ徑三寸以上ノモノヲ使用シ少クトモ四、五年附着器トシテ使用ニ耐エシムベキ目的ヲ以テ百八拾六臺ヲ五月九日第四養蠔場ニ建設セリ  
一臺當リハ從來ノ方法ニヨリテ二尺三寸ノモノ四本ヲ脚部用トシ三尺四方ニ建設シテ之ニ四尺五寸ノモノ二本ヲ渡シ此上ニ五本ヲ載セ釘打ス  
其後稚貝ノ附着頗ル良好ニ向ヒムシロ夥多トナリ且ツ松丸太表皮ハ一部脱落ヲ見何レモ各臺下ハ落牡蠣多シ且建設場所ニ近キ濘路ハ出水ト共ニ砂ノ沈降ヲ見其ノ影響ヲ過分ニ受ケ一部臺ノ脚部ハ殆ド埋沒シタルモノアリ然シ乍ラ一般ニ成長順調ニシテ昭年五年四月十六日調査ニヨレバ殼高六、九種殼長四、一種殼巾二、〇種ニ成長シ、十二月五日從來ノ方法ニヨリ入札ニ附ス

收支經濟

支 出	名 稱	數 量	單 價	金 額	備 考
松丸太	一四〇〇本		一〇五	一四七、〇〇〇	徑三寸 長四尺五寸
	五六〇本		〇五〇	二八、〇〇〇	徑二尺五寸
釘	一樽半		一、五七〇	一三、六八〇	五寸
運搬船代	四隻		七〇〇	二、八〇〇	
施設人夫賃	一六人		一八、〇〇〇	二八、八〇〇	

收入 金七百五拾八圓九拾五錢  
差引純利益 金五百參拾八圓六拾七錢也

一臺當リ支出 金壹圓拾八錢四厘  
一臺當リ純收入 金貳圓八拾九錢六厘

本年度試驗

本年度モ昨年度使用セシ材料ト同様末口三寸長サ四尺五寸ノモノ九六〇本脚部用トシテ二尺五寸ノモノ五五〇本ヲ以テ松丸太附着臺一反歩一三六臺ヲ五月二十八、九ノ兩日第二養蠔場ニ建設セリ。六月二十六日ノ附着狀況ヲ調査スルニ、フジツボノ附着多ク稚貝ハ極メテ少ナク當時ノ成長度殼高〇、四八種殼長〇、三八種ニ達ス、其後漸次稚貝ノ附着ト共ニ成長モ順調ニ進ミツ、アリ

剥身調査

採取月日	殼付牡蠣		空殼		剥身		剥身狀況
	重量	容積	重量	容積	重量	容積	
昭和五年十二月二十日	五、六〇五	七、三立	三、七五五	七、三立	九、〇〇五	七、六立	剥身良好ナリ、剥身大サ大三分 中六分 小一分ノ割合ナリ
昭和六年一月十九日	三、九三五	五、七、六	二、〇〇〇	五、七、六	六、三七五	五、四	前月ニ比シ剥身稍劣ル

二、杭打式準垂下法試驗

本試驗ハ垂下式筏及地撒或地上近キ附着物建設トノ中間ヲ利用シ稚貝ノ附着ト實入トヲ併セ行フ方法ニシテ材料ハ鐵筋混凝土三角柱ヲ用ヒ高サ一、二一種 上ニ一八二種 又ハ一〇五種 ノモノヲ格子形ニ組合セ之ニ九一種ノ長サニ牡蠣空殼及女竹トヲ交互ニ亞鉛引二十番線ニ通シ柱ニ結ビタリ  
右ハ六月二十日第四養蠔場ニ於テ拾貳臺建設シ七月六日ニ至リ稚貝ヲ發見シ主トシテ地上ニ近キ程附着多ク且成長ノ點ニ

於テモ良好ナリ上方ニ至ルニ從ヒフジツボノ密着多ク且ツ概シテ稚貝少ク且成長微々ナリ更ニ此ノ附近ハ滿潮時前後船ノ航行多ク屢々衝突全臺倒壞ノ難ヲ見、本年度ニ至リテ前記ノ難ヲ受ケツ、修理ノ回ヲ重ネル毎ニ稚貝ノ脱落多ク一臺ニ對シ到底満足ナル試験ヲ行フ事不可能ナル狀態ニアリ來年度材料ノ一部ヲ改良シ繼續試験ヲ行ハントス

### 三、牡蠣空殻棚狀採苗試験 (前年度繼承)

#### 一、昨年度經過

昭和四年度試験ノ牡蠣空殻採苗臺ハ新設セルモノ拾臺舊設ノモノ四臺ヲ以テ六月空殻ヲ亞鉛引十二番線ノ針金一丈ニ密ニ通セシモノ四七〇連ヲ懸垂シ採苗ニ勉メタリ、附着成長共ニ良好ニシテ同年八月中旬ノ成長度平均殻高二、一糎殻長一、七糎ニ達セリ、斯クテ同年十二月初旬一部ヲ知多郡日間賀島ニ新設ノ筏ニ垂下試験セリ然ルニ風浪ノ爲メ筏ノ移動ト共ニ殆ド全部脫離墜落シ不成功ニ終リタリ

昭和五年六月ニ至リ採苗ノ全部ヲ二回ニ互リ知多郡龜崎へ作業船金鯨丸ニ積載シ龜崎ノ漁業組合ニテ新設セル懸垂臺五十臺ニ全部懸垂セシメタリ、懸垂後ノ成長良好ナリ

#### 本年度ノ試験

昭和五年六月下旬昨年度迄建設セシ採苗臺ノ大修理ト共ニ二臺ヲ更ニ増設シ七月上旬約四十石ノ空殻ヲ針金ニ通セシモノ四〇八連ヲ懸垂作業終了シ更ニ採苗ヨリ實入迄試験セン爲メ二臺ヲ新設シ空殻ト女竹ト交互ニ通シタルモノ四十連一臺當リ二十連懸垂セリ

更ニ二臺ヲ使用シ昨年度採苗セシモノヲ女竹ト交互ニ二十連ヲ作り懸垂シ實入狀況並ニ連ニ對スル剝身量ヲ試験セリ、採苗臺ハ何レモ前年ト同様ノ構造ニシテ上下二段ニ懸垂セリ七月下旬ニ至リ稚貝ノ附着ハ主トシテ下段ニ多ク上段ハ一搬ニフジツボノ附着頗ル多ク且ツ針金ノ切斷トニヨリ大部分墜死セリ、十月上旬三十二連ヲ知多郡大野町漁業組合ニテ垂下筏式ノ設置ト共ニ種苗トシテ更ニ十二月初旬福井縣へ約三十連ヲ送り又幡豆郡吉田町宮崎ノ垂下筏ノ種苗トシテ三十連ヲ送り又、昭和六年三月中旬渥美郡大崎作業場ニ於テ各地先ニ懸垂試験用トシテ又寶飯郡西浦地先ノ垂下用筏ノ垂



搬ニフツボノ附着願ル多ク且ツ針金ノ切斷トニヨリ大部分墜死セリ、十月上旬三十二連ヲ知多郡大野町漁業組合ニテ  
 垂下筏式ノ設置ト共ニ種苗トシテ更ニ十二月初福井縣ニ約三十連ヲ送り又礪豆郡吉田町宮崎ノ垂下筏ノ種苗トシテ三  
 十連ヲ送り又、昭和六年三月中旬礪豆郡大野町作樂場ニ於テ各地ニニ懸垂式筏ヲシテ又礪豆郡吉田町宮崎ノ垂下筏ノ種苗トシテ三

一 鐵筋混凝土棚式 牡蠣附着器建設場所



下トシテ全部採取シテ送付セリ  
種苗四〇八連ヲ一俵平均拾貫毎俵積トシテ百五十俵ノ生産ヲ得尙前記昭和四年六月牡蠣空殻ヲ懸垂シ種苗ヲ附着セシメ  
昭和五年十月初旬之ノ種苗ヲ女竹ト交互ニ針金ニ通シ更ニ懸垂セシメタモノ十一月中旬ニ採取シ剝身量ヲ檢スルニ一連  
ノ個數七六個之ノ殼付重量ノ三〇八二瓦五剝身重量六六七、五瓦同容積六三〇ccニ達シ實入頗ル良好ナル結果ヲ得タリ

### 三 河 灣 ノ 部

趣 旨 碧海郡及幡豆郡ニ於ケル牡蠣養殖ハ從來古海苔粗朶ニ附着セル牡蠣ヲ附着後一ケ年後ニ於テ地盤硬キ地ニ撒布シ  
滿三年ニ至リテ取揚グル極メテ粗放的養殖法ニシテ之ニ適宜ナル養殖方法ヲ行フナラバ更ニ兩郡養殖上其發達大ナルモ  
ノアリコ、ニ於テ今年度本所養蠣試驗地ニ於テ優良ナル成績ヲ得ツ、アル鐵筋混凝土柵ヲ設置シ附着成長實入ノ點ニツ  
キ試驗ヲ行フ事トセリ

一、碧海郡前濱新田地先鐵筋混凝土柵式牡蠣附着實入試驗

一、試驗地ノ環境 前濱新田ノ西北端蜷川ノ川口ニ近ク試驗地ヲ設ク此ノ附近一般砂質ニシテ淡水トシテハ蜷川ヲ主ナ  
ルモノトシ其外沿岸ハ一帶ニ新田ニシテ淡水ハワズカニ水門ニヨリテ多小排出スルノミ

二、建設月日 昭和五年七月六日

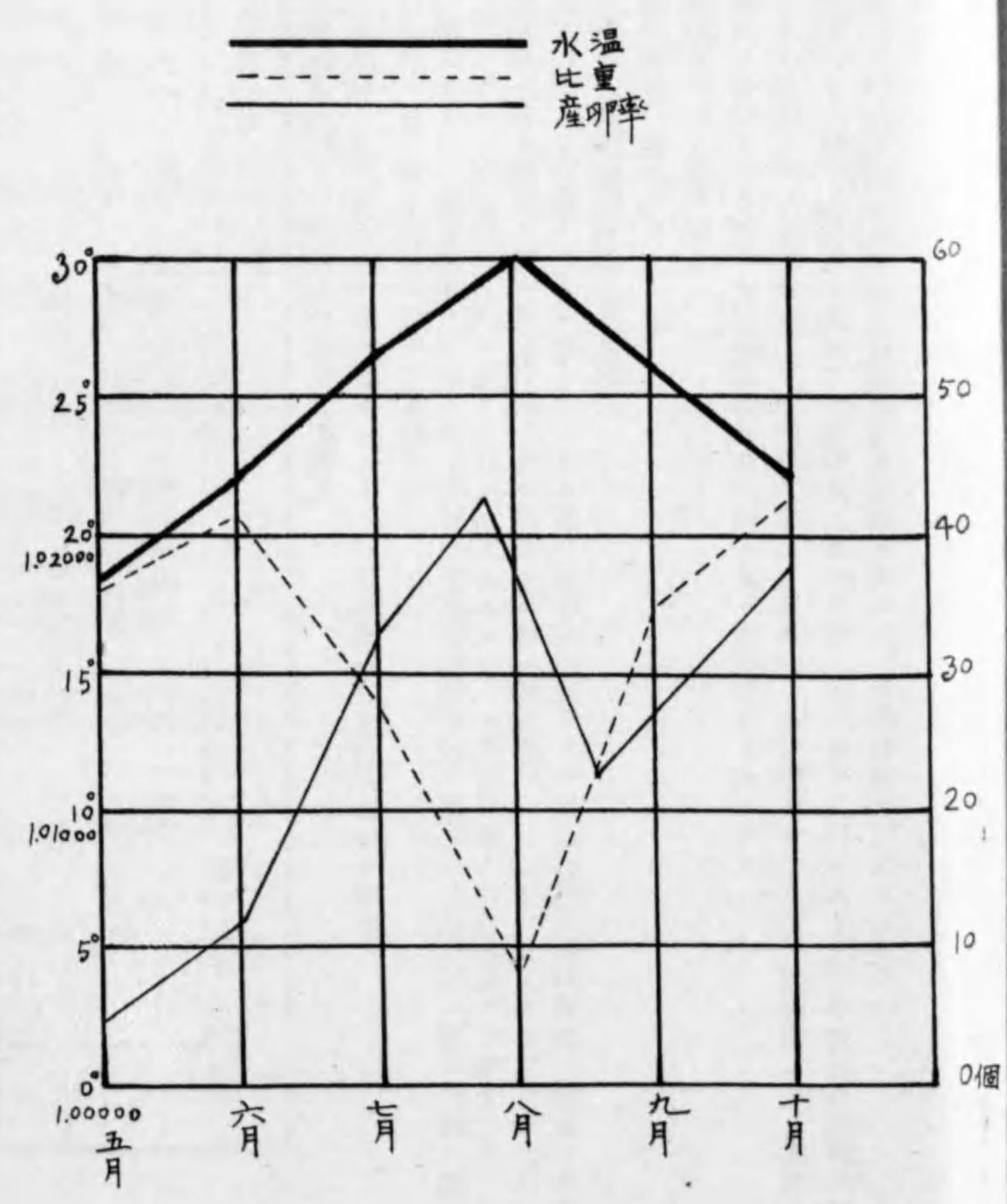
三、建設數量 三十四柵

四、建設場所及建設方法 前記前濱新田ノ西北端ニシ堤防ヨリ約四間沖合ニ向ケ堤防ト平行ニ拾七柵ヲ設置シ更ニ二間  
(三、六米突) 沖合ニ拾七柵ノ二列ニ建設セリ各柵間ハ三尺(九一、〇糎)ノ距リトス、柵ハ脚部二尺(六〇、五糎)ノモ  
ノヲ二尺(六〇、五糎)四方ニ立テ之ニ三尺(九一、〇糎)ノモノヲ二本架シ更ニ上部ニ三本ヲ載ス脚部ハ地上ヨリ三十  
四糎ニナシ柵ノ最上部迄ハ五十糎ノ高サトセリ、混凝土一本ハ三角柱ニシテ一邊ハ三寸幅トス

五、水深及干出度 滿潮時五尺(一米五〇)前後ニ達シ干潮時露出ス

六、底質 砂及貝殼片トス





調査日	個数	長さ	体重	年齢	雌雄別	生	殖	線	發	達	狀	況
四月十六日	五	五.四	六.五	二年	雌		2	2				
五月三十日	五	四.三	六.六	"	雌				1	1	5	
六月三十日	七	四.〇	五.一	"	雌				2	6	11	15
七月二十八日	六	四.三	五.二	"	雌				2	3	2	3
八月二十五日	五	三.七	六.一	"	雌				1	3	4	7
九月八日	五	三.八	三.五	"	雌				1	5	1	5
十月九日	六	四.一	五.〇	"	雌				1		3	9
									38	9	14	19
									5	6	3	17

かき連絡調査  
本調査ハ昭和五年全國統一的ニ實施スル事トナリ本所トシテ之ガ調査項目ニ基キ調査セル一部分ニ付キ記載ス

一、産卵期調査

備考 + ..... 普通  
レ ..... 稀  
レ ..... 極稀  
トス

Cymbella  
Pterostigma  
Nitzschia Lousissima  
Melosira  
Nitzschia

備考 I 未ダ全ク卵ヲ形成セザルモノ II 卵ヲ形成スルモ未ダ個々ニ分離セザルモノ III 大部分ノ卵ハ楔形ニシテ角張リ不整形ナルモノ IV 卵ハ角張リタルモノト梨形ニ稍整ヒタルモノト相半スルモノ V 卵球形ニ近ク整ヒ角張リタルモノ極メテ少キニ至レルモノ VI 卵半數ヲ放出セルモノ VII 卵全部ヲ放出セルモノ

以上ノ結果ヲ見ルニ四、五兩月ニ互リテハ雌雄共大部分未熟ノモノ多ク五月ニ入りテ稍半數近ク成熟ノ域ニ達ス六月ニ入りテハ成熟ノモノ大部分ニシテ七月中旬頃其ノ最高潮ニ達ス然シテソレヨリ放卵後ノモノ多ク八月下旬頃殆ンド大部分放卵後ノモノトナリ更ニ九月中旬頃ヨリ十月ニ互リ産卵ヲナスモノアリ

海況ト産卵狀況ハ次ノ表ノ如シ

但シ檢鏡牡蠣五〇個トセリ

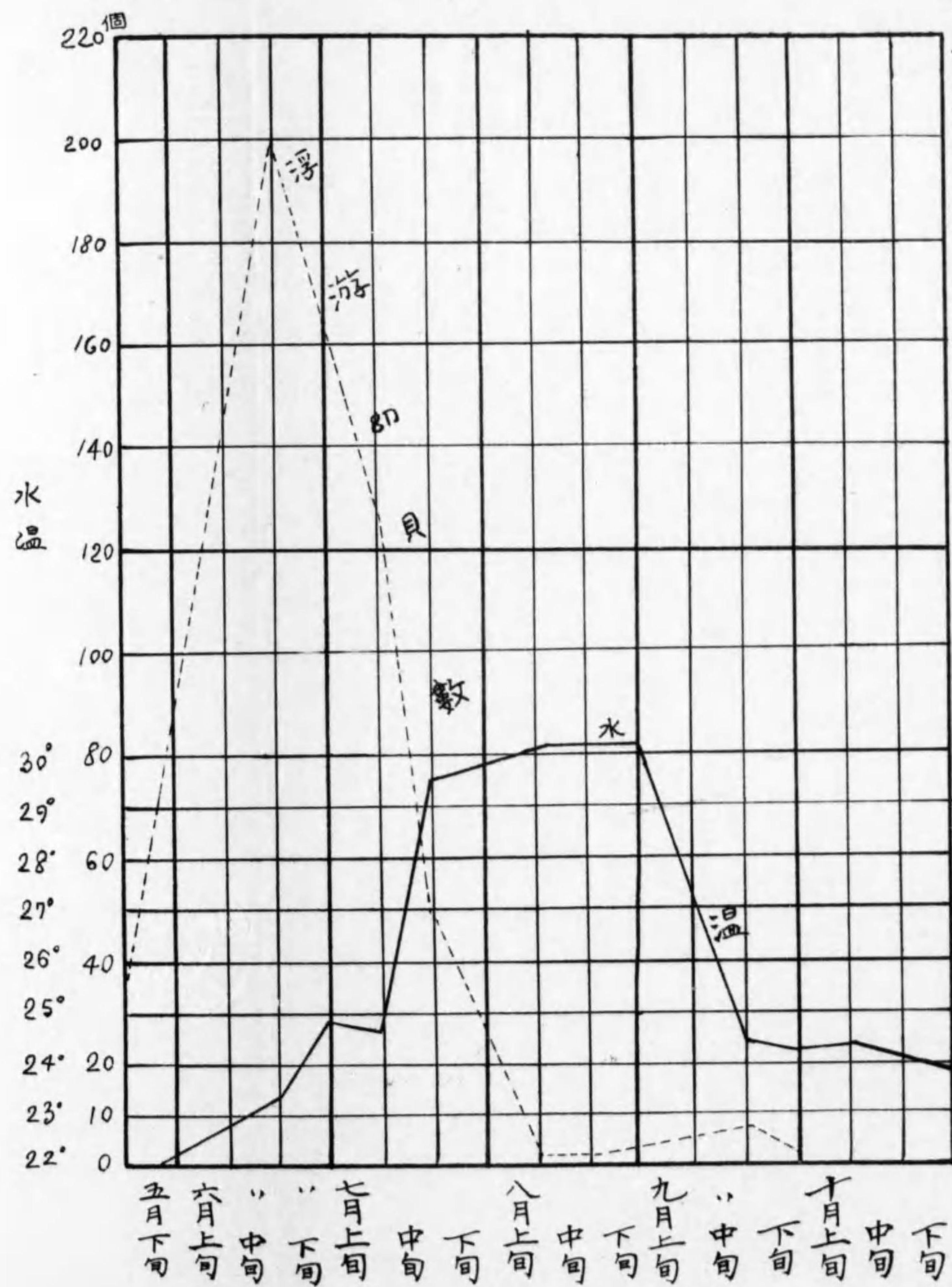
二、干潟ニ於ケル種員附着時期及成長度

連絡調査ノ方法トシテ定マリタル枠及スレート等ヲ使用シ四月ヨリ十月迄毎月大潮小潮時ニ設置シ月別ニヨル種苗ノ附着及成長度等ニ付キ調査ノ管ノ所材料等ニツキ遅延シ其第一回設置ハ六月二十六日トナリ之ヨリ十月ニ互リ調査及材料ノ設置ヲ行ヒタリ、昭和六年三月ニ至リ各月ニ挿入セルスレート附着牡蠣ノ數及成長等ヲ調査スルニ自六月下旬至七月上旬迄ニ挿入セルモノ附着率極メテ多ク七月下旬ヨリ附着成長等急ニ減少シ八月下旬ニ於テハ更ニ減少ヲ示ス九月下旬ヨリ十月上旬ニ互リ稍々附着ヲ見ルノ狀態ナリ

昭和六年三月上旬調査ニヨル各月挿入スレート附着牡蠣成長並附着數左ノ如シ  
昭和五年附着器建設 昭和六年三月五日調査

數量	殼長		附着器建設月日
	平均	最大	
平均	二二〇	二四〇	六月 二十六日
最大	二二〇	二四〇	七月 七日
平均	一九七	二〇六	七月 十日
最大	一九七	二〇六	七月 二十八日
平均	一八〇	一九二	八月 十日
最大	一八〇	一九二	八月 十八日
平均	一七五	一八六	八月 十八日
最大	一七五	一八六	八月 十八日
平均	一六三	一七三	九月 八日
最大	一六三	一七三	九月 十三日
平均	一五九	一七〇	九月 十三日
最大	一五九	一七〇	九月 十三日
平均	一四八	一六〇	十月 六日
最大	一四八	一六〇	十月 二十二日

自五月至十月牡蛎稚貝ノ出現多寡(海水百立中)



種苗附着量	附 端			上		附着器建設月日
	長		殼	地上ヨリノ高さ	全 長	
	平 均	最 小	最 大			
一個	0.8 種	0.8 種	0.8 種	1.4 米突	1.4 米突	昭和五年六月二十六日
一個	0.3 種	0.3 種	0.3 種	1.4 米突	1.4 米突	七月十日
十一個	0.8 種	0.7 種	0.9 種	0.4 米突	0.4 米突	八月十日
七個	0.4 種	0.3 種	0.3 種	0.4 米突	0.4 米突	九月八日
七個	0.4 種	0.3 種	0.3 種	0.3 米突	0.3 米突	十月六日

三、鹹度好適地ニ於ケル干出時ト種苗附着數量及生長度トノ關係  
 右調査ヲ本所第二養蠔場ニ於テ行フ、該地ハ滿潮時水深二米突一〇ニ達シ從來牡蠣ノ成長並實入等ニ於テ他ノ養蠔場ニ  
 比シ優良ナル地ニシテ此ニ四寸角高サ六尺ノ杭ヲ建テ之ノ四面ニ各調査用スレート縦十五種横十一種ノモノ八枚宛釣ニ  
 テ止メ其ノ間隔ヲ五種ニ保ツ然シテ月別ニヨリ各スレートニ附着稚貝ノ數量及成長等ヲ調査セリ、第一回建設六月二十  
 六日第二回七月十日第三回八月十日第四回九月八日第五回十月六日ノ五回ニ建設セリ斯クテ昭和六年三月五日全部ニツ  
 キ觀察スルニ附着層ハ地上一米突四〇ノ點ニ迄達シ得ルモ最モ附着良好ナル層ハ地上五〇種以內ニシテ最モ附着多キハ  
 前記大サノスレートニテ一七〇個ニ達スルモノアリ又成長ノ點ニ於テ地上二一種ヨリ五〇種ニ至ル範圍ヲ良好ト認ム、  
 尙五〇種以上ノ高サニ於テ成長ノ良キモノアレド附着ノ點極メテ僅少ナリ又自六月至十月內六、七兩月建設ハ附着層及  
 數量最モ良好ナリ

		層				着				
端		下			部					良
種苗附着量	長		殼	地上ヨリノ高さ	種苗附着量	長		殼	地上ヨリノ高さ	中心点ノ長さ
	平均	最小	最大			平均	最小	最大		
一個	0.8 糎	0.5 糎	1.0 糎	0.05 米突	四〇個	1.5 糎	1.1 糎	1.6 糎	0.6 米突	0.5 米突
			ニ合ス	附着量ハ地上ヨリナルヲ以テ良好部	四二個	1.5 糎	0.6 糎	2.4 糎	0.3 米突	0.5 米突
			後流失ス	十月六日調査其	十二個	1.5 糎	0.5 糎	2.3 糎	0.3 糎	0.5 米突
					"	"	"	上端ニ同シ		
三個	0.9 糎	0.3 糎	1.6 糎	0.10 糎						
			一月八日調査							

四、浮游生物  
 連絡調査材料附近ニ於テ潮間観測上ヨリ得タル主ナル浮游生物左記表ノ如シ

但々 3..... 最多 0..... 多 +..... 普通 1..... 稀 2..... 極稀 3..... 極稀 4..... 極稀

浮游生物名	採取月日	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
<i>Coscinodiscus</i>		2.2	2	2	0	0	2		2		2
<i>Nitzschia</i>		2	2								
<i>Pleurosigma</i>		2	2		2.2	2.2	2		2		
<i>Biddulphia</i> sh		2	2	+	2						
<i>Chaetoceros</i>		+		2	+	2			2		2
<i>Laemophora</i>		2	2			2		2			2
<i>Cymbella</i>						2.2					
<i>Cocconeis</i>		2		2	2						
<i>Nitzschiane</i> lla							2				
<i>Rhizosolenia</i>		2	2		2	2			2		2
<i>Thalassiothrix</i>			+		+	2	2	2	2		2
<i>Stelethemma</i> costatum					2.2	2					
<i>Stephanopocis</i>					2.2	2					
<i>Nitzschia</i> Longissima			2.2		2		2		2		2
<i>Ditylum</i>			2.2	+	2.2	2	2		2		
<i>Melosira</i>			2.2			2.2			2		2

<i>Nitzschine</i> riata		2	2	2	2								
<i>Guinardia</i>			2		2				2			2	
<i>Amphiprora</i>			2										
<i>Navicula</i>			2	2	+							2	
<i>Bacterisira</i> varians					2								
<i>Surirella</i>		2.2											
<i>Tintinopsis</i>			+	0	2	2	2						
<i>Vitrochelis</i> Eh			2	2	2								
<i>Ceratium</i>			2	2	2	2							
<i>Peridinium</i>		2	2	2	2	2							
<i>Ceratium</i> fusus			2	2		2.2							
<i>Dinophysis</i>			+										
<i>Haemieris</i>					2.2	2.2							
<i>Eradone</i>			2										
<i>Copepoda</i>		C.C	C.C	0	+	+	+		2		2		2
<i>Noctua</i>					2.2								
二枚貝			C.C	+	2	2					2		
枝角類			2										



海裳藻		+													
Sargassum		∨ ∨ ∨													

五、浮游幼貝分布状況

毎月潮間観測ノ際浮游生物ヲ採取シ牡蠣ノ浮游幼貝數ヲ調査セリ尙浮游生物ノ採取ハ干潮ヨリ満潮ニ向フ一時間毎ニ採取ス

之ノ檢鏡ノ結果六、七ノ兩月ニ互リ最モ多ク且ツ一般ニ満潮時ニ接近シテ多數採取サレ且ツ上層近ク浮游スルモノ、如シ

六、餌料ノ種類自一月至十二月毎月二年乃至三年生牡蠣五個ヲ採取シ餌料ヲ調査スルニ左ノ如シ

c.....夥多 c.....多 +.....普通 ∨.....稀 ∨.....極稀トス

餌料名	調査月日	一月二十三日	二月三日	三月三十一日	四月十六日	五月終	六月十日	七月二十八日	八月十八日	九月八日	十月十一日	十一月十六日	十二月十六日
Coelodiscus		∨	∨ ∨ ∨		∨ ∨ ∨	+	∨ ∨ ∨	∨ ∨ ∨	∨	∨	∨	+	
Coconites		+	∨	∨	0	+	+	+	G.O	G.O	G	0	
Pleurosigma		∨			∨ ∨ ∨		G.O	∨		+	0	+	+
Nitzschia		∨	∨	∨									+
Chaetoceros		∨	∨ ∨ ∨	∨									
Skeletonema costatum		∨		∨									+
Navicula			∨		+		∨	G.O	∨	G.O	G.O		∨

Cymbera				∨	+		∨	∨	∨ ∨ ∨	+	0	+	
Synchaeta				∨	+		∨	∨					∨
Leptophora					∨			0					∨
Nitzschia longissima					∨				0				∨
Melosira							∨ ∨ ∨			∨	∨	∨	∨
Nitzschia seriata							∨	∨					∨
Amphipora								∨ ∨ ∨					∨
Rhizosolenia									∨ ∨ ∨				
Thalassothrix										∨		+	
Eucampia													∨
Codonella			∨ ∨ ∨										
Copepoda			∨ ∨ ∨	∨ ∨ ∨			∨	∨		∨ ∨ ∨			
Tintinnopsis							∨ ∨ ∨	0		+	+	∨	
二枚貝ノ仔虫								∨ ∨ ∨					
Gyrodactylus Ehl										∨ ∨ ∨			
Didymo											∨		
Glenodinium													∨
Supercilia											+		



10、平均一株ノ生産 八枚  
 11、増殖中概況 築建込後フチツボ附着極メテ多ク海苔胞子附着不良ナリ、又附着ノ良好層ハ例年ヨリモ高所ニアリテ其ノ範圍モ又狭ク三月上旬ニハ眞鍮色ニ變ル、因ニ既往試験ニ於ケル附着層ト生産枚數トヲ比見スルニ次ノ如シ

年 度 別	附 着 範 圍	附 着 層	附 着 良 好 範 圍	良 好 層	地上ヨリノ高サ	平年一株當リ生産枚數
大正十三年度	地上四寸ヨリ五尺九寸ノ處迄	五尺五寸	地上二尺五寸ヨリ四尺ノ處迄	二尺五寸	六尺	六一枚
大正十四年度	地上二尺三寸ヨリ四尺六寸ノ處迄	三尺	地上二尺三寸ヨリ三尺三寸ノ處迄	二尺	六尺	一三枚
昭和元年度	地上五寸ヨリ四尺ノ處迄	三尺五寸	地上二尺ヨリ三尺ノ處迄	二尺	六尺	一六枚
昭和二年度	地上二寸ヨリ五尺二寸ノ處迄	四尺	地上三尺ヨリ五尺ノ處迄	二尺	六尺	三枚
昭和三年度	地上二寸ヨリ四尺五寸ノ處迄	三尺五寸	地上二尺五寸ヨリ三尺五寸ノ處迄	二尺	六尺	一一枚
昭和四年度	地上五寸ヨリ五尺六寸ノ處迄	五尺一寸	地上二尺二寸ヨリ三尺五寸ノ處迄	二尺三寸	六尺	一八枚
昭和五年度	地上二尺ヨリ四尺五寸ノ處迄	二尺五寸	地上二尺八寸ヨリ四尺二寸ノ處迄	一尺五寸	五尺	八枚

此ノ表ニヨリテ見ルニ築下層部ヨリ多クノ附着ヲ見ル年ハ豊年ニシテ上層部ニ見ル年ハ比較的不作ノ如シ

12、一反歩當リ收支經濟

收入 金四拾壹圓五拾參錢也 但シ抄製品貳千七百四拾枚代  
 支出 金五拾九圓貳拾八錢也

内 譯

金壹圓六拾五錢 器具一ケ年消耗見積價  
 金 六 圓 海苔簀一ケ年消耗見積價  
 金貳拾八圓 粗菜參百四拾壹株代

人夫八名代  
 雜費  
 販賣手數料及證紙代  
 差引金拾七圓七拾五錢也  
 缺損

二、移殖海苔經濟試驗 (渥美郡高師村大崎種苗)

- 1、試驗場位置 海部郡飛島村地先蟹江川落東
- 2、試驗面積 三百坪
- 3、附着材料 樫三百四十一株 此代金八拾壹圓八拾四錢
- 4、築建時期及移殖月日 昭和五年九月二十五日築建 全年十一月八日移殖
- 5、附着及成長狀況 附着ハ肉眼ニテ判然タルモノ多少見受ケタルモ大体ニ於テ死苗ノ附着少ナキ感アリ附着層又低シ
- 6、摘採 昭和六年一月二十日初摘 全年三月二十五日摘終
- 7、摘採量並ニ抄製數 生海苔六十八貫匁抄製品六千五百枚
- 8、平均一株ノ生産數 約十九枚
- 9、試驗地附近ノ海況

調 査 月 日	氣 溫	水 深	水			比		
			表面	中層	底	表面	中層	底
昭和五年九月三十日	三三・八	二・八〇米	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
" " 十月十五日	三三・八	二・八〇米	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
" " 十月二十一日	三三・八	二・八〇米	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
昭和六年四月十六日	三三・八	二・八〇米	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三

10、増殖中ノ概況 移殖後相當ニ成長シ十二月下旬ニ幾分ノ摘採ヲ豫想セルニ十二月中旬之レガ殆ンド流失シ一月二十

日頃ニ至リ初摘ヲ見ルニ至レリ例年ヨリ約一ヶ月摘採遅レ不作ナリ

11、一反歩當リ收支經濟  
收入 金壹百參拾參圓九拾錢也 但シ抄製品六千五百枚代  
支出 金壹百參拾四圓四拾參錢也

内 譯

金壹圓六拾五錢 器具一ヶ年消耗見積價  
金六 圓 海苔簀一ヶ年消耗見積價  
金八拾壹圓八拾四錢 粗朶代三百四十一株  
金貳拾九圓八拾錢 人夫十六人代  
金四圓五拾八錢 雜費  
金拾圓五拾六錢 販賣手数料及證紙代  
差引金五拾參錢也 缺損

三、移殖海苔經濟試驗 (伊勢灣知多郡養父地先種苗)

- 1、試驗場位置 大崎種苗移殖場ニ隣接
- 2、試驗面積 三百坪
- 3、附着材料 樫三百四十一株
- 4、建込時期及移殖月日 十月六日建込 十一月八日移殖
- 5、附着狀況 附着ニシテ良好ナリ附着層三尺五寸内外アリ
- 6、移殖當時ノ大サ 長サ一ミリメートルヨリ六ミリメートルニ成長セルモノアリタルモ〇、一五—〇、四ミリメートル内外ノモノ極メテ多シ

7、摘採 昭和六年一月七日初摘 全年四月十七日ニ摘終ル

8、摘採量及抄製數 生海苔壹百拾八貫 抄製品壹萬壹千貳百枚

9、試驗場附近ノ海況 前者ニ同ジ

10、増殖中ノ概況 移殖後成長順調ニシテ増殖期間中被害ナク作柄良好ニシテ摘採期間大崎種苗移殖ヨリモ長シ色澤共ニ良好ナリ

11、一反歩當リ收支經濟

收入 金貳百拾參圓貳拾貳錢也 但シ抄製品壹萬壹千貳百枚代  
支出 金壹百五拾九圓〇五錢也

内 譯

金壹圓六拾五錢 器具一ヶ年消耗見積價  
金六 圓 海苔簀一ヶ年消耗見積價  
金八拾壹圓八拾四錢 粗朶 三百四十一株  
金四拾六圓八拾錢 人夫賃二十六名  
金四圓五拾八錢 雜費  
金拾八圓拾八錢 販賣手数料及證紙代  
差引金五拾四圓拾七錢 純 益

四、伊勢灣海苔増殖經濟試驗累年收支比較表 (一反歩當リ)

(1) 地子海苔増殖試驗之部

年度	大正十二年	十三年	十四年	十五年	昭和二年	三年	四年	五年	平均
事項									
生産枚數	945	24,986	5,020	6,445	1,210	4,760	7,200	2,740	6,675

収入	大正十二年		"十三年		"十四年		"十五年		昭和二年		"三年		"四年		"五年		平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
生産金額	13,545	424,762	93,147	147,740	26,650	86,400	202,982	41,530	134,807	129,594							
古法費却代	2,000		6,000	5,700													
計	15,545	427,762	99,147	153,440	26,650	114,400	202,982	41,530	134,807	129,594							
器具消耗費	10,509	26,595	45,286	16,681	35,914	32,369	13,629	7,650	23,578								
賃代	36,155	20,595	46,170	77,700	62,400	63,120	38,540	28,000	48,835								
人夫賃	28,500	75,774	46,100	31,900	34,200	33,200	52,200	14,400	39,534								
雑費	1,400	5,350	5,767	4,150	3,605	2,680	1,137	9,230	4,165								
計	76,564	128,219	161,323	130,431	136,119	131,369	105,504	59,280	116,101								
純益		296,543		23,009													
欠損	61,019		62,176		109,469	16,960		17,750									
一ヶ年平均純益																	18,706

(2) 伊勢灣に於ける海苔養成試験

事項	大正十二年		"十三年		"十四年		"十五年		昭和二年		"三年		"四年		"五年		平均
	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	
生産枚数	11,848	7,436	10,525	6,124	14,120	12,390	7,620	11,200	10,158								
生産金額	291,280	126,406	475,272	125,770	335,250	235,900	201,294	213,220	250,549								
古法費却代	7,500								35,000								
計	298,780	126,406	475,272	125,770	335,250	270,900	206,294	213,220	256,486								

支出	大正十二年		"十三年		"十四年		"十五年		昭和二年		"三年		"四年		"五年		平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円		
器具消耗費	10,509	26,595	22,642	16,680	35,914	32,369	13,627	7,650	20,749								
賃代	127,875	120,833	126,900	135,300	123,000	123,000	102,500	81,849	117,657								
人夫賃	46,325	75,775	74,600	35,600	55,600	79,800	49,600	46,800	58,011								
雑費	1,850	5,350	2,883	4,150	3,605	2,600	1,137	22,760	5,543								
計	186,559	228,553	227,025	191,730	218,119	237,849	166,864	159,050	201,960								
純益	112,221		248,247		117,131	33,051	39,430	54,170									
欠損		102,147		65,960													
一ヶ年平均純益																	54,526

備考 伊勢灣ニ於ケル地子並ニ移殖各一反歩當リ收支經濟ヲ闡明ナラシムル爲メ既往ハケ年試験續行シ來リ其ノ成績前表ニ見ル如ク地子移殖共ニ年ニヨリ豊凶アリテ何時モ利益計リヲ見ルコトナクシテ一様ナラズ或年ハ移殖シテ好成绩ナルコトアリ又不況ナルコトアリト雖モ地子ノミノ増殖ニ比スレバ不況ノ程度極メテ少ナシ  
尤モ伊勢灣奥部ハ大体ニ於テ(或一部分ヲ除クノ地)地子附着少ク年々確實ニ生産ヲ舉グルコト得ザル現況ニアリ從ツテ之ガ不況ノ補給策トシテ移殖養成ヲ併行スルノ必要ヲ認ム

五、海苔地子増殖豫備試験 (前年度繼承) 試験概況

試験地位	位置	建込月日	附着材料	附着数量	附着發見月日	附着層	生産数量	摘採初日	摘要
海部郡飛鳥村地先	昭和五年ハゲシバリ	十月八日	竹	一八九株	昭和五年十二月六日	地上三尺五寸	五五〇枚	昭和六年三月六日	フチツボ附着甚シク海苔附着極メテ少ナシ而レトモ色澤良好ナリ
知多郡横須賀町地先	昭和五年ハゲシバリ	十月七日	竹	一〇〇株	昭和五年十一月一日	地上三尺二寸ヨリ上へ三尺四寸	九一〇枚	全年二月二十三日	へ移殖セリ品質良好ナリ

六、海苔筏代用試験（前年度繼承）

一、種類ひめやしやぶし及椰子網（東京椰子製網株式會社製）トノ二種ニツキ試験セリ

1、ひめやしやぶしハ長サ八尺内外トシテ太キサハ一本細キハ二、三本ヲ結ビ一株トシテ飛島地先百八十九株横須賀地先ハ百株建込セリ（概況ハ海苔地子増殖豫備試験ノ項参照）

試験經過 建込後女竹ト殆ンド變リナク終期迄損折スルコトナク耐久力強シ、飛島地先ニテ試験セルモノハフヂツボ附着多ク不作ナリシモ品質良好ニシテ女竹ヨリモ樹皮ノ混入ナク枝條混雜セザル爲メ摘採ニ便ナリ

2、椰子網（東京椰子製網株式會社製）長サ二十間幅三尺五寸網目八寸ノモノ三反試験ス

試驗場所 知多郡養父地先二反 飛島地先二反敷設

試驗月日 知多郡養父地先ハ十月七日、飛島地先ハ十月九日敷設ス

敷設方法 伊勢灣奥部ハ比較的海苔種苗少ナク殊ニ年ヨリ附着層及附着ノ程度ニ濃薄アルヲ以テ可成附着良好層ニ位置シ採苗シ以テ移植養成ヲナス可ク左ノ方法ニヨリ建設セリ

(イ) 横須賀地先ニ建設セルモノハ長サ八尺ノ杉丸太二本ニ長サ三尺ノ丸太二本ヲ三尺間ニ取付ケ枠型トシ之ニ海苔

網一反ヲ卷付ケタリ（略圖参照）

(ロ) 他ノ一反ハ地上二尺ノ位置ニ一尺ノ高差ヲ以テ波狀型ニ敷設シタリ

(ハ) 飛島地先ニ建設セルモノハ長サ九尺ノ丸太二本ニ長サ六尺ノ丸太二本ヲ取付ケ(イ)ノ如キ型トシ之レニ海苔網ヲ

横ニ卷付タリ

附着狀況 十二月一日横須賀地先ニ建設セル枠型ニハ一ミリメートル、五ミリメートル内外ノモノ少數附着セルヲ見受ケタルモ波狀型ニ敷設セルモノニハ附着ヲ見ズ

飛島地先ニ建設セルモノハ十一月十日一ミリメートル—三ミリメートル内外ノモノ少數附着セルヲ見タリ

移植 十二月二十日三反共海部郡南陽村地先千鳥新田地先ニ移植平面張リトス

經過 横須賀地先ニ枠型ニ建設セルモノハ十二月二十日ノ移植前ニ漁船ニヨリテ網破ラレ散亂シ充分ナル試験好果ヲ見ルニ至ラズ他二反ハ何レモ海苔附着少ナクシテ收納ヲ見ルニ至ラザリキ

備考 海苔増殖中ニ於ケル被害 試驗地ニテハ被害トモ見ルベキモノナキモ名古屋港西突堤第二號、第三號水道以西下之一色漁業組合新規海苔増殖場ニ於テ十二月十五日頃ヨリ粗朶一面ニ厚サ〇、一五<sup>m</sup>ノヨゴレ恰モ樹皮ノ覆フガ如ク附着シ而モ此ノヨゴレハ幾分ノ粘リ氣味サヘアリテ水中ニアル粗朶ヲ左右ニ極メテ強ク動カシ又ハ抜き取リテ其ノ粗朶ヲ以テ水面ヲ強ク敲クモ其ノ離散極メテ少ナシ中ニハ長柄ノたわしヲ以テ洗流スルモノサヘアリタリ

此ノヨゴレヲ水ニ溶解シ檢鏡セルニ浮泥、硅藻類中ナビキエラーノ群集、綿狀纖維ノ合着ナリ、ナビキエラト綿狀纖維ハ壁土ニ於ケル壁藥ノ如クニシテ一ツノ壁狀ヲナスコノヨゴレニ包マレタル處（粗朶肌）ニハ殆ンド海苔幼芽ノ附着セルヲ見受ケズ

此ノヨゴレノ附着ニヨリテ移植後ニ於ケル所謂冬至芽、寒芽ノ附着ヲ全ク妨ゲラレ豫想外ノ不況ヲ見ルニ至レリ、尙當時相等ニ成長セル海苔ノ葉先ニ迄此ノヨゴレノ附着ヲ見製品モ又白點（俗ニ鳩糞ト云フ）アリテ良好ナラズ然レドモ其ノ後氣温並ニ水温ノ降下ト強キ西北風偶々アリ其ノ都度幾分宛離散シ三月上旬頃ノ製品ハ白點ヲ見ルコト稀トナリ粗朶ニハ馬鹿芽ノ點々ト附着スルヲ見ルニ致レリ

此ノ現象ハ平年主トシテ淡水ノ影響多ク底質、泥又ハ泥砂質ニテ比較的波靜ニシテ潮流ノ緩漫ナル海苔場ニ於テ海苔ノ終期即チ三月中旬頃ヨリ偶々見ル事アリ

本年度ニ於ケル下之一色漁業組合ノ海苔養殖面積ハ四萬八千九百坪ニシテ築建込數ハ五萬五千五百八十三株ナリ而シテ之ヨリ生産セラレタル數量ハ百八萬二千二百九十枚ニシテ此ノ賣揚金ハ壹萬七千四百四十圓ナリ

被害當時並ニ前年度ニ於ケル當時氣温ノ高低ヲ見ルニ次ノ如シ

月別	昭和三年年度				昭和四年年度				昭和五年年度			
	午前十時ニ於ケル	最高	最低	午前十時ニ於ケル	最高	最低	午前十時ニ於ケル	最高	最低	午前十時ニ於ケル	最高	最低
上旬	一六、三	三、一	四、〇	一三、八	一六、七	八、〇	一三、四	一五、九	五、七			

拾貳月			拾壹月		
平均	下旬	中旬	平均	下旬	中旬
一四	一〇	五、八	一三	〇、三	一三
八、七	六、八	一〇、一	八、三	七、一	七、六
〇、九	零下三	〇、八	一、八	二、三	三、三
九、三	四、五	一、三	一、二	〇、一	〇、三
一五、三	〇、三	〇、七	一五、九	〇、四	一五、六
四、六	〇、九	九、〇	四、〇	三、五	六、八
七、八	六、〇	九、四	八、〇	一、一	一、一
一、五	〇、〇	一、〇	一、三	〇、五	〇、一
〇、二	一、〇	一、一	一、四	〇、三	〇、四

七、海苔種子場探究

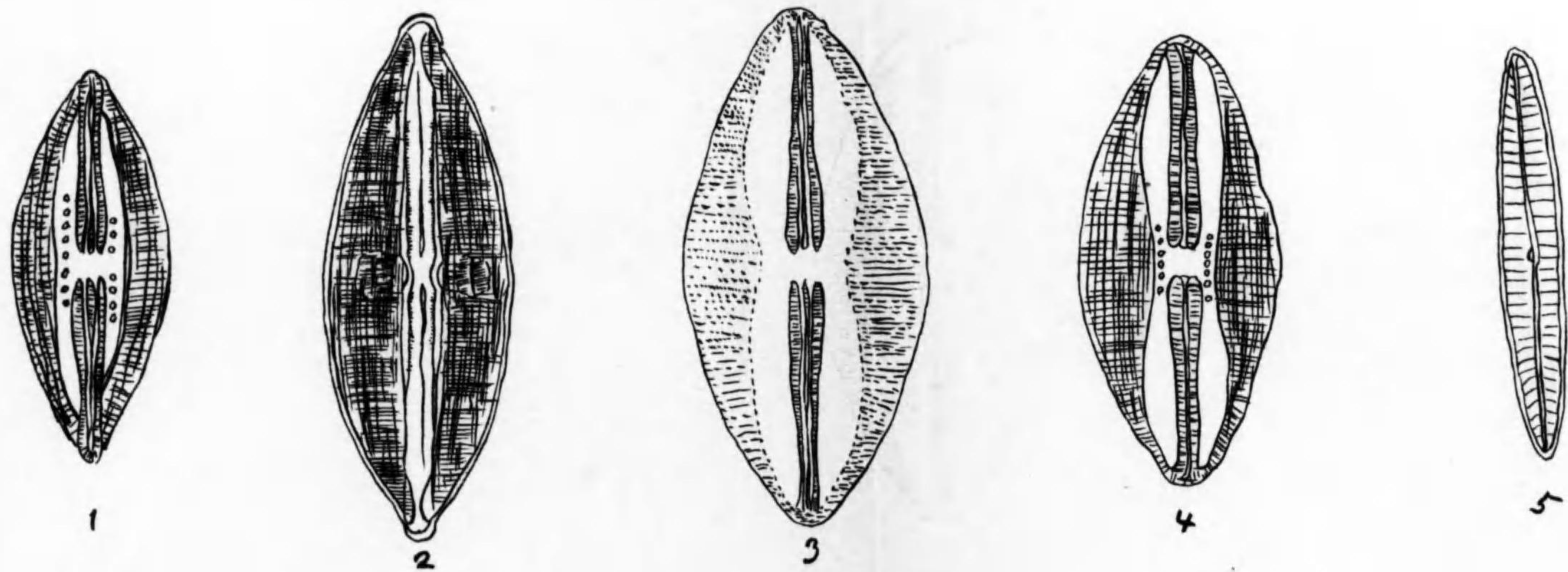
近來伊勢灣方面ノ海苔養殖著シキ發達ニ伴ヒ益々種子場ノ需要増加スルニ到リ從來渥美郡牟呂吉田村地先通稱三號地ニ於テ此等種子場ヲ供給シ來リシカ漸次種子場ノ狹隘ヲ來シ延イテ種子場借地料モ頓ニ高騰スルニ至レリ、從ツテ種子場モ密植ニ陥リ爲ニ種子ノ附着ニ遺憾ノ點多キモノアリ延イテハ海苔養殖業ノ確實ナル發展ヲ阻害スルニ至レリ、サレバ新ラシキ種子場ヲ探究シテ附着良好ナルモノヲ比較ノ廉價ニ供給スルヲ得バ斯業ノ圓滿ナル發達ニ資スルコト大ニシテ目下ノ急務ナルヲ知リ前年度ヨリ引續キ本試驗ヲ施行セリ

昭和五年度ハ既ニ報告ノ通り渥美郡牟呂吉田村神野新田沖合ノ距岸二百間乃至三百間ノ各所ニ千五百株ヲ十三ヶ所ニ分植シテ試驗ヲ行ヒタリシガ曾テ豫想ダニ及バサリシ沖合ニ於テ海苔ノ附着良好ニシテ且ツ成育モ亦從來ノ養殖場ニ劣ラザル成績ヲ示シ本地附近ニ於ケル海苔種子場ニ一新機轉ヲ劃セリ

本年度ハ前年度ノ成績ニ鑑ミ更ニ沖合ニ試驗ヲ施行シ其ノ附着率ニ關シ資料ヲ得ントセリ以下其ノ試驗ノ成績ヲ







1. *Navicula bullata*, Norman, var. *carinata*, nov.

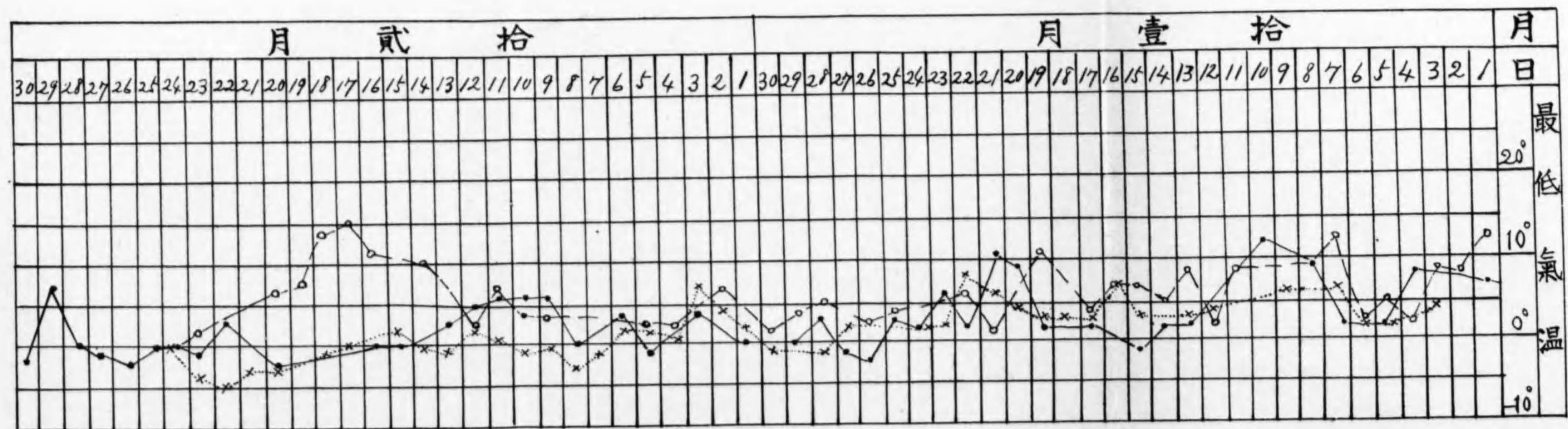
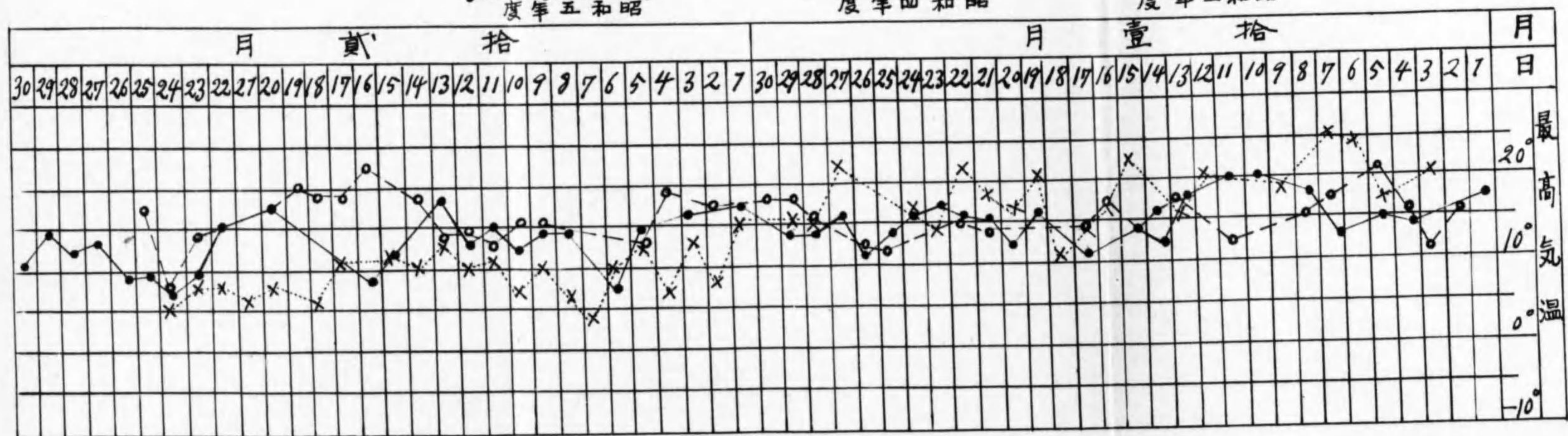
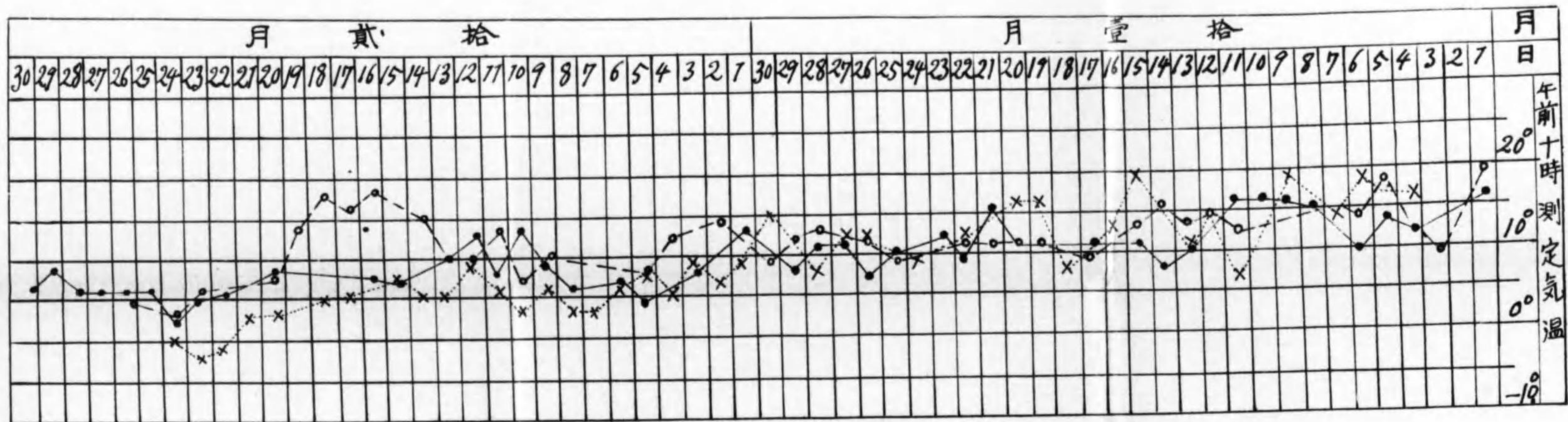
2. *Navicula zanzibarica*, Grev., var. *zebuana*, nov.

3. *Navicula spectabilis*, Grev., var. nov..

4. *Navicula bullata* Norman, var. *obtusa*, nov. .

5. *Navicula* (?) *jejuna*, A. S. var. nov.

$\frac{1}{2}$  0.12 - 0.17 mm  
 $\pi$  0.07 mm 以外



被害當時の気温と前年度の気温比較表



記述セントス

一、試験場所

前年度試験場所ヨリ平均百五十間沖合ニシテ殊ニ通稱三號地ヨリ西南ニ發達セル砂嘴ニテハ從來利用セル區域ヨリ約六百間ヲ距リタル個所モアリ(別圖實測圖參照)

水深ハ滿潮時二米三〇乃至二米八ニシテ底質ハ砂質ニシテ四號樋門沖合ニ至ルニ從ヒ稍々細砂ヲ加ヘ少量ノ泥分ヲ含ム

二、試験方法

(イ) 本試験ハ前述ノ趣旨ニ依リ材料ハ「ハゲシバリ」ヲ使用セリ、材料建込其他ハ全部試験場負擔シ種子附着スレバ大部分ヲ知多郡東海岸ノ海苔養殖未開地ニ移殖シテ同地方ノ斯業開發ノ資ニ供セントセリ

(ロ) 築建時期

本地方ニ於ケル築建時期ト水温比重トノ關係ヲ闡明ナラシムル目的ヲ以テ同地ノ海洋觀測ノ結果ヲ基礎トシテ前後二回ニ互リ建込ミヲナスコト、ナシ第一回ヲ九月二十一日、二十三、二十四日、ニ第二回ヲ十月五日、十日ニ實施セリ

建込日	引込位置		株
	深	水	
昭和五年九月二十一日	1	二八米	一五〇
" 九月二十三日	2	二四	一五〇
" 九月二十四日	3	二八	一五〇
" 十月五日	4	二二	一五〇
" 十月十日	5	二四	一五〇
計	6	二七	一五〇
	7	二七	一〇〇
	8	二五	一〇〇
	9	二六	一〇〇
	備考		靜穩 西風稍々強シ 夜風強ク波高シ 全上 抜ケルモノアリ 夜沙ニ建込ミタリ 總計二、七〇〇株

九月二十三日ハ西風強ク波浪高ク附近業者ノ海苔簀ハ合計三萬八千株位抜ケテ流出セリ  
 (一) 建込方法 株間六尺、棚間九尺、一棚ニ五十株建棚ノ方向ハ殆ンド陸ニ直角トス  
 (二) 建込當時ノ海況

観測位置	観測月日	水深	水温			備考
			表面	中層	底	
三號角ヨリ西南方 四百間ノ處	昭和五年九月二十三日 昭和五年十月五日	一、四〇 一、一〇	一、四〇	一、四〇	三、七	三、四六
			三、〇	三、〇	三、〇	三、七
			三、九	三、九	三、三	三、六
			三、九	三、九	三、三	三、六
全		一、三	三、八	三、一	三、五	三、八三
全		一、五	三、八	三、〇	三、五	三、八三
全		一、八	三、八	三、〇	三、五	三、八三
全		二、一	三、八	三、〇	三、五	三、八三
全		二、三	三、八	三、〇	三、五	三、八三
全		二、三	三、八	三、〇	三、五	三、八三

(ホ) 海苔附着ノ狀況

十月二十二日調査シタルニ各所共海苔ノ附着ヲ見ル而シテ九月二十三、四日ニ建込ミタルモノハ最大八糎最小〇、〇  
 二糎ニ成育セルヲ認メ十月五日又ハ十日ニ建込ミタルモノニハ最大二糎最小〇、〇一糎ニ達セルヲ認ム、而シテ各所  
 共良好ナル附着率ヲ呈セリ  
 九月二十一日ト九月二十三日建込ノモノハ稍フデツボノ附着多ク其他ノモノハ少シ、本年ノ海苔發生時期即チ秋ノ彼  
 岸頃ニ於テハ一般ニ比重高キト水温高過キタルヲ以テ九月二十四日ヨリ九月二十七日頃ハ最モ良キ水理状態ヲ示セル  
 ガ如ク此ノ期ニ建込ミタル業者ノ簀ニ於テモ附着良好ナル結果ヲ呈セリ之ハ一ハ其ノ頃ニ於テ近年稀ナル強サノ西  
 風吹キ荒ヒタルヲ以テ濱ノ流出ヲ免レ難ケレトモ海苔胞子浮上附着ニハ最モ好條件ヲ呈セリ、以下其ノ附着成育ノ狀  
 況ヲ表示スレバ次ノ如シ





### 三、蛭増殖試験

一、前年度試験ノ概要

本試験ハ極メテ小型ナル種苗ヲ以テ成育並ニ經濟關係ヲ闡明ナラシムルニアル

(イ) 試験地政成新田沖合約二、五〇〇米突ノ地點三、〇〇〇坪  
 (ロ) 試験地ノ概況

底質 表面(中砂一、一%小砂二、二%細砂五、二、五%泥一、四、五%  
 五寸下(大砂二、〇%中砂二、〇%小砂四、二、〇%細砂五、二、〇%泥二、〇%)

底棲生物、蛤沙吹等發生棲息シ、あじも、えびも等點在ス

水深及干出度 大潮時滿潮水深二、四〇米内外春秋ノ大潮ニ干出二日乃至三日間

(ハ) 種苗産地 三河灣六條潟四號樋門附近

(ニ) 移殖數量及其金額

四十五石四斗 價格九拾圓八拾錢 (外ニ運賃四拾圓)

(ホ) 蒔付月日 昭和四年十一月十八日

(ケ) 種苗ノ成長度 (三十個平均)

調査月日 蒔付種苗	大			中			小			切樹一升粒數並重量	
	粒位	大	中	粒位	大	中	粒位	大	中		
昭和四年十一月	一、九三弱	一、四四弱	〇、六六強	一、八四弱	一、一〇弱	〇、七〇強	一、二九強	一、〇三弱	〇、六九強	一、八七個 一、九二個	三、九九三個 一、六九個
昭和五年四月十五日	二、八二弱	二、〇九	一、三九弱	二、五三	一、八七	一、一〇強	二、一〇	一、六三	一、〇七強	一、三六個 一、四九個	一、六七個 一、六〇個

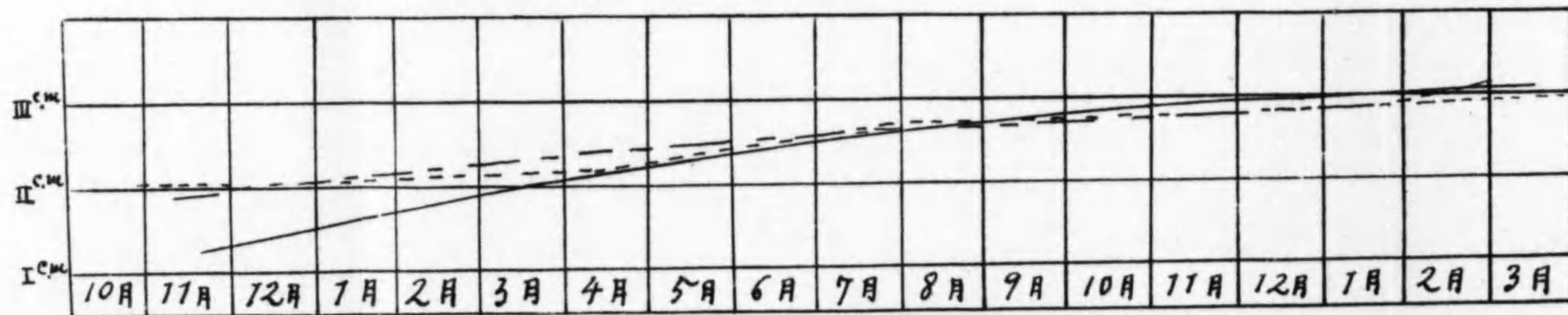
一、三六個	一、六七個
一、六〇個	一、六〇個
一、七七個	一、六九個
一、〇五五瓦	一、六九五瓦
一、四四三瓦	一、五七五瓦

籠(腰捲キ)ヲ

養育試験シ明年

同大ノ大キサニ  
トシテハ小型ノ

### 大型小型種苗成長率



--- 大正十五年度蒔付種苗 1.500瓦 = 対ル粒位 888個平均一個殼長 2.9種。 昭和三年三月二十四日迄 成長度 1.500瓦 = 対ル粒位 267個平均一個殼長 2.9種。  
 --- 昭和三年度蒔付種苗 1.500瓦 = 対ル粒位 986個平均一個殼長 1.9種。 昭和五年三月十七日迄 成長度 1.500瓦 = 対ル粒位 250個平均一個殼長 3.1種。  
 — 昭和四年度蒔付種苗 1.500瓦 = 対ル粒位 2993個平均一個殼長 1.29種。 昭和六年三月三日迄 成長度 1.500瓦 = 対ル粒位 244個平均一個殼長 3.14種。

(水) 四十五石四斗 價格九拾圓八拾錢 (外ニ運賃四拾圓)  
 蒔付月日 昭和四年十一月十八日  
 種苗ノ成長度 (三十個平均)

調査月日	粒位			切掛一升粒數並重量
	大	中	小	
昭和四年十一月蒔付種苗	一、五弱	一、四弱	〇、六強	一、八七個 一、三三瓦
昭和三年三月二十四日	一、五〇	一、一〇	〇、七〇	—
昭和五年三月十七日	一、三九	一、〇三	〇、六〇	—
昭和六年三月三日	一、八七	一、三三	一、〇三	—



升粒數並重量	中粒	小粒
	一、三九五個	一、六九九個
	一、四六六個	一、六七七個

全年	七月二十九日	三、二弱	三、五強	一、五七	三、九五	三、一四	一、一六	三、六六	一、九六	一、三六	一、三六個	三、六〇瓦個	三、九七個
昭和六年	一月二十二日	三、八弱	二、七〇強	一、九〇強	三、四三	二、五三	一、七〇	二、八四	三、二一	一、四三	一、八八個	一、七五瓦個	二、七〇個
全年	三月三日	三、〇	三、八九	二、三三強	三、五九強	二、七三	一、八六強	三、四強	三、三五強	一、五七強	一、五七個	一、三三個	一、五五瓦個
											一、五五瓦個	一、五五瓦個	一、五五瓦個

(b) 大型ノ種苗ト小型ノ種苗トノ成長度比較 (圖表参照)  
 (c) 養成中ノ海況 昭和五年九月ヨリ大小潮時ニ於テ潮間觀測ヲ施行ス (圖表参照)  
 (d) 收納 昭和六年三月三日ヨリ第一回ノ收納ヲナシ以後大潮時毎ニ第十回迄ノ採捕ヲナセリ、方法ハ蛤籠(腰捲キ)ヲ使用ス

採捕數量 七拾八石九斗 (山盛壹斗樹)  
 其價格 四百六拾貳圓五拾貳錢

備考 全部取揚グル所ナレドモ小型ノモノハ蛤籠(目八分)ヨリ漏ルモノ相當アリ依ツテ殘存貝ハ尙引續キ養育試驗シ明年度經濟關係ヲ報告セントス  
 右試驗ノ結果大型、小型ノ成長割合ヲ觀ルニ小型ノ種苗ハ成長率旺盛ニシテ一ケ年以後ニテ大型ノ種苗ト同大ノ大キサニ成長スルヲ觀ル之レ即チ或ル一定ノ限度大ニ達スル時ハ其ノ生長率僅少スルニ基因スルモノナルベク種苗トシテハ小型ノモノハ比較的良好ナル成績ヲ收ムルコトヲ得ベキナリ

#### 四、藻貝増殖試験

前年度試験概況

前年度概報ニ記載シタル如ク昭和五年三月伊勢灣奥部新川沖合千米突ノ地點ヘ適地七百坪ヲ選ビ島根縣中海産種苗五石ヲ蒔付ケタリ然ルニ七月下旬ヨリ八月中旬ニ於テ降雨量多ク、爲メニ新川並ニ附近河川ノ増水ニ依リ水埋状態ノ異狀ト浮泥ノ沈積トニヨリ斃死セルモノ約四割ノ見込ミナリ然レドモ生存セルモノハ良好ナル成育ニシテ容量ニ於テ四、九二倍ヲ示シ且ツ肉身肥滿シ一ケ年ニテ充分市販ニ供シ得ルノ状態ナリト雖モ尙本年ハ比重水溫ニ對スル生活限度ヲ悉知スル目的ノモトニ引續キ養殖試験セントス

一、種苗ノ成長 (自昭和五年三月至昭和六年五月)

調査月日	大			中			小			大中小混合切樹一升		
	殻長	殻高	殻巾	殻長	殻高	殻巾	殻長	殻高	殻巾	重量	個數	
昭和五年三月 月蒔付種苗	三、〇四	二、七〇	二、三〇	二、三〇	二、一〇	一、八〇	一、八四	一、六四	一、六四	一、七五	三六二合五勺	全上重量 四〇五
昭和五年 五月一日	三、二〇	二、六〇	二、三〇	二、三〇	二、一〇	一、八〇	一、九二	一、六四	一、六四	一、七〇	三七	
昭和五年 七月七日	三、七〇	二、七強	二、三	二、六弱	二、〇	一、九弱	二、七〇弱	二、五強	一、八強	一、七〇		
昭和六年 五月五日	四、二弱	三、四強	二、八強	三、六強	三、一	二、五強	三、五〇弱	二、九弱	二、四弱	一、七〇	八二合三勺	三七五

#### 二、海況

本試験地附近最近三ケ年ニ於ケル自六月至十月迄ノ平均水理状態ト本年ノ其レトヲ比較スルニ八月ノ比重例年ニ比シ著シク低下セルヲ觀ル之レ藻貝ノ生棲ニ甚大ナル影響ヲ與ヘタルモノニシテ比重一、〇一〇〇以下ニテハ其ノ生命ヲ全ツタカラシムルコト難カラシモノト思惟セラレ

調査月日	年別	表面		底	
		水溫	比重	水溫	比重
六月	三ケ年平均	一九、七	一八、五	一七、四	二〇、九
七月	全年平均	二〇、四	二〇、六	一七、九	二〇、九
八月	全年	二五、八	二二、六	二四、九	二五、四
九月	全年	二五、七	二二、六	二四、九	二五、四
十月	全年	二五、八	二二、六	二四、九	二五、四

#### 五、三河灣淺海利用適地調査

調査概況

調査場所 幡豆郡沿岸一帯

調査月日 昭和五年八月二十三日ヨリ八月二十八日ニ至ル

一、地勢 海岸線ハ東西延長四十四軒ニ達シ大小五川ノ注流アリ沿岸ノ中央吉田町以西矢作川間ハ干潟多ク中央以東ハ干

潟極メテ少ナク大小四ツノ島嶼アリ

二、水質ニ關スル調査 水溫比重ノ分布

1、沿岸観測 自平坂町奥田新田地先至幡豆村洲崎地先二十六點

2、横断観測

- (1) 幡豆郡幡豆村洲崎地先ヨリ渥美郡泉村伊川津辨天鼻地先ニ至ル線八點
- (2) 自幡豆郡吉田町宮崎地先至渥美郡福江町小中山立馬崎地先線七點
- (3) 全上ヨリ地先知多郡大井町地先海田鼻ニ至ル線六點
- (4) 自渥美郡福江町立馬崎地先至知多郡大井町海田鼻線五點(基點外)
- (5) 自幡豆郡一色町地先至知多郡河和町古布地先線六點
- (6) 自幡豆郡平坂町奥田新田地先至知多郡河和町布土地先線四點

右調査ノ結果次ノ如シ

1、沿岸観測(自平坂町奥田新田地先至幡豆村洲崎地先線)二十六點

観測月日	位置	時間	気温	水深	水			比		
					表面	中層	底	表面	中層	底
八月二十七日	寺津 閃前	八、一五	三〇、三	二、八〇	二九、三	二八、九	二九、四	二、六六	一四、三	一九、七八
"	中根 閃前	八、三〇	二八、〇	二、八〇	二九、八	二九、〇	二九、二	一六、三三	一六、二九	一九、三三
"	奥田新田西角	八、三八	二、三〇	二、三〇	二九、三	二九、三	二八、五	一八、四四	一八、九二	一九、五九
"	全 新田東角	八、四〇	二、五〇	二、五〇	二八、〇	二八、一	二七、六	一五、三三	一九、四八	二、七四
"	細 川口	八、四四	二、八〇	二、八〇	二九、〇	二八、六	二八、〇	一八、三八	一九、七一	二、五〇
"	西實録新田	八、四七	二、五〇	二、五〇	二八、九	二八、五	二八、三	一九、〇四	一九、五四	二〇、五二
"	東 方	八、五二	二、七〇	二、七〇	二八、八	二八、五	二八、〇	一九、三二	二〇、五七	二〇、七二
"	東實録新田	八、五六	二、〇〇	二、〇〇	二九、四	二九、五	二九、五	一八、五八	一八、七一	一八、六五

"	燈 臺下	九、〇四	二、三〇	二、三〇	二九、〇	二九、三	二九、二	一八、〇八	一八、三	一八、四二
"	郷新田西方	九、〇八	二、八〇	二、八〇	二九、〇	二九、三	二九、三	一七、三三	一七、九二	一八、五五
"	沖新田閃江前	九、一四	二、五〇	二、五〇	二九、三	二九、三	二九、〇	一八、三三	一八、三三	一八、六五
"	眞野新田	九、一九	一、九〇	一、九〇	二九、三	二九、〇	二九、三	一九、六四	二〇、六四	一九、七七
"	千生新田西角	九、二四	一、八〇	一、八〇	二九、二	二八、八	二八、九	一八、八	一八、九二	二〇、四七
"	千間 角	九、三三	七、〇〇	七、〇〇	二九、九	二八、七	二五、七	一六、三三	二三、〇三	二三、三六
"	高島新田	九、四三	一、八〇	一、八〇	二九、九	二八、七	二八、三	二〇、五二	二〇、七二	二〇、〇六
"	豊丘 東角	九、四三	三、〇〇	三、〇〇	二九、三	二九、三	二九、二	二〇、五七	二〇、九四	二〇、四四
八月二十八日	吉田 川	九、四四	二、四〇	二、四〇	二九、四	二九、〇	二九、〇	二二、三六	二二、一七	二〇、三三
"	白 濱	九、五〇	七、〇〇	七、〇〇	二九、一	二九、一	二九、〇	二二、四四	二二、三六	二二、四八
"	寺 部	九、五三	六、七〇	六、七〇	二九、三	二九、三	二九、二	二二、五七	二二、七七	二二、五〇
"	東幡豆	一〇、〇八	六、九〇	六、九〇	二九、三	二九、三	二九、二	二二、五七	二二、七七	二二、五〇
"	中柴間	一〇、一八	六、九〇	六、九〇	二九、三	二九、三	二九、二	二二、五七	二二、七七	二二、五〇
"	洲崎間	一〇、一四	八、〇〇	八、〇〇	二九、二	二九、二	二八、二	二二、三五	二二、三三	二二、七四
"	洲崎	一〇、二五	六、五〇	六、五〇	二九、二	二九、一	二八、五	二二、〇一	二二、三七	二二、四七
"	西 浦	一〇、三三	五、〇〇	五、〇〇	二九、三	二九、二	二八、九	二二、一七	二二、三七	二二、三三

2、横断観測 (1) 幡豆郡幡豆村洲崎地先ヨリ渥美郡泉村伊川津辨天鼻地先ニ至ル 八點



幡豆郡平坂町奥田新田地先ヨリ知多郡河和町布土地先ニ至ル線 四點

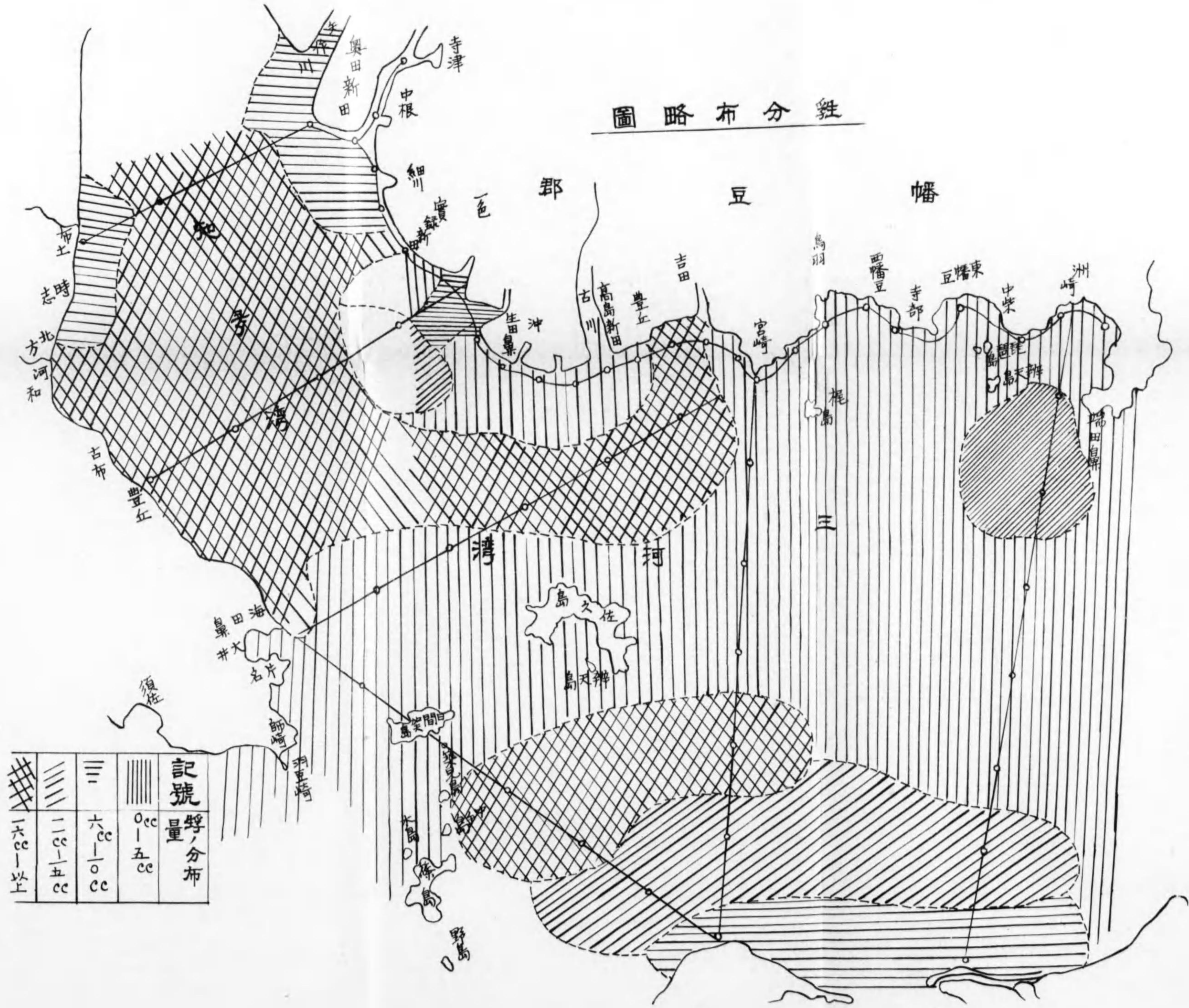
觀測月日	位置	時間	氣温	水深	水面		比		重
					表	裏	表	裏	
八月二十七日	奥田新田	八、六	三〇、三	二、三	二九、三	一八、四	一八、五	一九、六	
八月二十九日	前	九、七	二六、五	六、九〇	二七、七	一八、四	一八、四	三、三	
"	布土	九、三	二〇、〇	一、〇〇	二七、七	二六、四	二〇、四	三、八	
"	布土	九、三	二〇、〇	一、〇〇	二七、五	二六、〇	一九、三	三、八	

三、底質ニ關スル調査、海洋觀測並ニ底棲生物調査地點ニ於テ採泥調査セリ

位置	百分率				査定名稱	備考
	大砂	中砂	小砂	細砂		
矢作川沖	〇、二	〇、八	三九、八	四六、九	砂質	
小名木新田前	二〇、〇	三〇、八	二五、六	二三、六	礫砂質	
中根新田先	〇	六、〇	三三、五	二六、〇	砂泥質	牡蠣養殖場
南奥田新田先	〇、一	二、三	四六、二	二八、三	砂質	
大岡新田先	〇、四	二、〇	一四、八	一七、六	泥砂質	
西實録新田先	〇、六	二、三	四三、六	一九、四	砂質	
一色町坂田新田先	〇、八	六、八	二六、八	二七、六	泥砂質	
眞野新田	三、六	一、六	一七、六	一七、六	泥砂質	
千生新田	〇、四	一五、二	五五、六	二五、六	砂質	海苔、蛸蛤、養殖地
西大洲		三、三	七三、一	三、二	礫砂質	



豆 幡 郡 分 布 略 圖



記號	量	分布
	一六cc	以上
	二cc	一五cc
	六cc	一〇cc
	〇cc	一五cc

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

高島新田	〇、八	三、〇	六、三	一四、四	〇、八	砂質
宮崎白濱地先	〇、五	二、六	三、〇	四、八	二、二	砂質
吉田町地先	二、四	一八、〇	四、三	三、六	八、四	砂質 海苔養殖場
鳥羽地先	四、〇	三、六	三、三	四、六	三、三	泥砂質 海苔養殖場
洲崎地先	五、六	二、三	八、三	三、一	七、四	二、三 礫砂質

海岸線ニ沿フ干潟ハ砂質、砂泥質、泥砂質、礫砂質等底質種々ナルモ大体ニ於テ吉田町宮崎白濱地先ヨリ以西矢作川口ニ至ル間ハ主トシテ砂質若クハ泥砂質ニシテ干潟ノ幅員大ナリ又白濱地先以東洲崎ニ至ル間ハ礫砂質ニシテ干潟ノ幅員極メテ小ナリ處々ニ岩礁散在セリ

四、埴ニ關スル調査

分布概況

適地調査ニ際シ海洋觀測ヲ爲シタル區域ハ知多半島東海岸布土及對岸幡豆郡矢作川河口ヲ結ビタル線、知多郡海田鼻、日間賀、渥美郡立馬崎ヲ結ビタル線ト、寶飯郡端田鼻ノ先端ヨリ對岸江比間ニ至ル線ヲ結ビタル區域ナリ此ノ區域ハ知多半島及渥美半島ノ各先端狭小ナル灣口ヨリ出入スル外海ノ潮ハ三河灣及知多灣等ニ入ル其ノ分岐點ニ當ルヲ以テ埴ノ種類又多ク其ノ分布上面白キ結果ヲ得タリ埴ノ大体分布區域ヲ定ムル爲メ採集量ヲ0 c.c.ヨリ5 c.c.迄又6 c.c. | 10 c.c.、11 c.c. | 15 c.c. 16 c.c. 以上ト四種ニ區別セリ、分布區域ヲ見ルニ灣口ヨリ佐久島南部ノ海區ニ密集區域アリ又知多灣口ヨリ布土、矢作川口ヲ結ブ線ニ至ル中央大部分ハ又埴ノ密集區域ヲ示ス、就中古川ノ沖合ニ於ケル38 c.c.ハ觀測點中最大量ト爲ス、尙生田鼻及新屋敷ヲ結ブ線ヨリ知多灣奥部ニ向テ何レモ18 c.c. 以上37 c.c.ノ量アリ、此ノ附近ハ大小河川ノ流入多ク且ツ知多灣奥ヨリ流入スル排水等ノ關係上發生發育ニ好適ナル結果ト見ラル此ノ附近ノ種類ハ主トシテ硅藻類タラシオトリツクス、ガイナルデアデテリウム、キートセラズ、バクテリヤストラムバリアンズ、リゾソレニア、以上多、スケレトネマコスタム、シラトウリナ、ビツダルフィア、ニツチャセラアタ、撻脚類、糠藻類以上普通出現此ノ



外約十數種類アリ、尙量ニヨル分布區域ハ圖面參照トシ一般ニ八月下旬此ノ海區ノ蟹ノ主ナル分布種類ハ、タラシオトリックス、バクテリアアストラム、キートセラズバリアンズ、ダイナルディア、リゾソレニア、ビツダルフイア以上ナリトス

五、重要底棲生物増殖漁業狀況調査

(イ) 平坂町地先

位置	底棲生物	増殖漁業狀況	増殖見込水族	其	他
平坂町 矢作川尻	蛸、蛤、大野貝	蛤蛸打瀬延繩漁業	海苔	矢作川増水ノ時ニハ時折貝類等ノ斃死ヲ見ルコトアリ	
南奥田新田	蛸、蛤	蛸種苗五萬桶昨年鹽津蒲郡方面へ搬出セリ	牡蠣		
東奥田新田	蛸	牡蠣築建採苗、撤付養成附着層二尺附着層質入良好	海苔、牡蠣	附着材料ハ海苔古筵ヲ五月下旬ニ建込ム、剥身トシテ販賣	
小名木新田	牡蠣	全上			
二ツ屋越シ	牡蠣	おごのり自然發生年産一萬五千圓 牡蠣附着層一尺内外	海苔、牡蠣	おごのりノ漁期ハ毎月舊曆ノ十五日及二十九日ヨリ各六日間宛採集	

(ロ) 寺津町

位置	底棲生物種類	増殖漁業狀況	増殖見込水族	其	他
寺津町 中根新田	おごのり、牡蠣	海苔、牡蠣、おごのり、 牡蠣附着層二尺内外附着材料海苔 古粗朶筋凝土	海苔、牡蠣 おごのり		
中根新田樋門南	牡蠣		牡蠣、海苔 おごのり	牡蠣種苗多ク、毎年附着過ギル程ナリ	

寺津平坂町地先ニ於ケル牡蠣養殖ハ面積八千六百六十四坪四合、年産額五千圓内外ニ達ス、附着材料ハ海苔古粗朶ヲ五月下旬建込種貝ヲ附着セシメ其ノ儘放置翌年十二月ヨリ三月迄ニ採取シ剥身トシテ名古屋、豊橋、岡崎、西尾方面へ搬出ス

最近平坂川濶内ニ撤付ケ質入ニ努メツ、アリ、又附着材料トシテ鐵筋凝土ヲ試用セリ  
海苔ハ養殖面積拾萬坪ニシテ年産額壹萬圓内外ヲ産ス

(ハ) 一色町地先

位置	底棲生物種類	増殖漁業狀況	増殖見込水族	其	他
榮生大戸閃江	蛸、おほのがひ	鰻漁業蛸打瀬延繩	牡蠣、海苔	満潮水深八尺樋門ニ牡蠣附着セルモ身入不良軟泥ニシテ歩行ニ八寸埋ル	
大岡新田	海苔、蛸、おごのり	おごのり、蛸、海苔、打瀬延繩海苔養殖面積一萬五千坪	海苔、牡蠣、海苔	海苔年産額三千圓内外	
細川閃江	牡蠣、おごのり	おごのり、蛸、打瀬延繩漁業	牡蠣、蛸、おごのり、海苔	牡蠣附着層二尺内外あじも密生ス	
西實録新田	藻貝、海苔、海苔	打瀬延繩漁業 海苔養殖面積二萬三千百坪	藻貝、海苔	あじも密生、防波堤ニ海苔發生スル	

東實録新田	海苔、藻貝	打瀬延繩藻類 海苔養殖面積二萬四千九百坪	藻貝、海苔	沿岸百間沖合ハ小濤多クソレヨリ沖合ハ漸次減少砂質トナル打瀬漁場ナルヲ以テ築堤ヲ忌ム
味濱地先	海藻、蛸、藻貝	打瀬漁業	灰貝、藻貝	
一色川口	蛸、藻貝	打瀬漁業、藻貝	藻貝、いたばがき	あじも密生シ沖合ニ至レバ大藻多シ
坂田新田	藻貝	海苔養殖面積六、七〇三坪	藻貝	蛸ノ稚介發生スルモ汚水ノ爲油臭ク成長不良、海苔又良好ナラズ
西大洲	蛸、海苔	海苔養殖、おごり、蛸	海苔、蛸	西大洲ハ附近海底ヨリ三尺内外高シ此ノ洲ヲ離ルレバ一帯ニ藻場ナリ
東大洲	蛸一坪ニ一個 六、六個	藻打瀬 海苔養殖	蛸、海苔	河水増水ノ場合偶々蛸其他貝類斃死ス
郷新田	藻貝		灰貝、藻貝 いたばがき	一面藻場ナリ
千生新田	藻貝		灰貝、藻貝 いたばがき	一面藻場ニシテ歩行ニ際シ三寸位足ヲ没ス
古千間地先	蛸、磯貝、蛤、蛸	藻打瀬、蛸海苔養殖	蛸、海苔	

一色地先ハ幡豆郡沿岸中干潟ヲ有スルコト第一位ニシテ海苔ハ明治四十二年ヨリ同町字千間地先ニ始マリ大字味濱養殖等之レニ續ク、現在利用面積二十萬坪餘年度額五萬圓ニ達ス尙増殖適地多シ  
 牡蠣養殖適地トシテハ丑新田、大岡新田、細川、治明地先  
 藻貝適地ハ西實録新田、東實録新田、坂田、眞野ノ各新田地先等適地多シ又千生新田、眞野新田、東實録新田、丑新田ノ部分等蛸養殖ニ適當セリ

(二) 吉田町地先

豐丘新田地先	牡蠣、海苔 蛸一坪ニ一個 瑪珂貝ニ三三個 おごり	海苔養殖、蛸年産額三千圓内外 瑪珂貝年産額一千圓 亦貝年産額五百圓 大野貝年産額五百圓 おごり年産額七百圓	海苔、藻貝、蛸 いたばがき おごり	沖合ニハ赤貝、大野貝、鯉ノ採取期十二月ヨリ四月三十日迄古川先ヨリ高島新田先ニ至ル干潟ノ比較的沖合ニハ蛸種苗發生極メテ良好ナリ、而レドモ時折古川出水ニ際シ斃死スルコトアリ
吉田川地先	海苔一坪ニ五個 おごり	海苔養殖場 此處ハ打瀬漁業絶對ニ行ハズ 餌虫(黒鯛の餌)捕採スルノミ 時偶夜藻打瀬ヲ行フコトアリ	海苔、藻貝、蛸 おごり	吉田川先ヨリ豐丘新田角迄一帯ニ小藻多シ岸ヨリ沖合三百間干出ス 軟泥砂ニシテ歩行ニ際シ二寸位埋ス
白濱地先	蛸、藻貝		灰貝、いたばがき 藻貝、いたばがき	餌虫ハ百匁六錢ニテ賣買サル一日一人ニテ五百匁位採捕ス
宮崎地先	天草、海藻	石花菜及海藻採取	石花菜、海藻	岩石点在シ干潟少ナク底質ハ大体砂礫質ナリ
(丸山前) エベス鼻北側	藻貝	藻貝、灰貝	たひらぎ、藻貝 灰貝、いたばがき	底質細砂ニシテ巨岩三十間位迄干出ソレヨリ沖合大藻アリ藻場ノ沖合ニハ鳥貝發生ス
梶島長瀬	海藻、岩がき	海藻ノ附着層三尺内外	海藻、石花菜	
梶島松下	蛸一坪ニ九八個	蛸小型ナルモ美味ナリ	海藻、蛸 石花菜	砂礫質ニシテ黒色テナス
梶イバガ木トケレ	石花菜、海藻	石花菜長サ四五寸ノモノアリ 海藻ノ座多シ	石花菜 海藻もづく	沖合ニハ鳥貝多小發生ス
梶島棧敷岩	海藻、鬼蛸 石花菜	海藻ノ附着層ハ三尺内外 蛸ハ年産額千圓内外ナリ	海藻、石花菜 もづく、ひじき	天草ハ干潮時水深二尺乃至二尺五寸ノ深サヨリ深イ處ニ多ク發生ス

梶島黒山	うちむらさき、鬼 鯛、みるくひ鯛、 海羅、石花菜	海羅ノ附着層ハ三尺内外 鯛ハ年産額千圓内外ナリ	鯛、みるくひ、 海羅、石花菜、 もづく	底質ハ一帯ニ礫砂質ニシテ岩石点在ス、又 岩盤廣キ處モアリ
梶島北口	大野貝、鯛 海鼠	海鼠ハ年産額五千圓位 梶島一帯ニアリ	鯛、いたばがき みるくひ	
梶島下松獅子岩	石花菜、海羅	石花菜ハ一人一日ニ一貫目位採取 ス、一貫ニ付キ一圓四十錢ノ相場	石花菜、海羅、い たばがき、もづく	右ニ全シ

吉田地先ハ一色地先ニ亞グ干潟ヲ有ス、高島新田地先ヨリ吉田川地先迄ノ間砂泥質ニシテ既ニ拾九萬五千坪ノ海苔増殖  
ヲナシ年産額四萬圓余ヲ納ム、又干潟ノ沖合ハ鯛種苗地トシテ適當シ白濱地先ハ泥砂質ニシテ歩行ニ際シ二三寸足ヲ没  
ス、貝類虫ヲ採掘スルノミニテ利用セラレズ海況底質地勢等ヨリ見ルニたひらぎ、藻貝、いたばがき等ノ増殖ニ適當ト  
認メラル、  
宮崎丸山ヨリ以東島羽以西ハ干潟極メテ少ク岩多ク天草、海羅、海鼠、もづく、いたばがき等ノ増殖ニ適當セリ

水 幡 豆 村

位 置	底棲生物種類	増 殖 漁 業 状 況	増殖見込水族	其 他
鳥羽地先	海苔、きしやご 鯛	海苔養殖面積一萬二千坪 年産額貳千五百圓餘	海苔、いたばがき	築ハ四、五尺ノモノ一反當リ四百株乃至五 百株建込従業人員二十一名
松原新田地先	きしやご	肥料用トシテきしやご採取スルノミ	瑪珂貝 いたばがき	底質ハ砂質ナリ
後田地先	大野貝、うすぎ ぬ、たいらぎ	延繩漁業時偶行フノミ	いたばがき たいらぎ	大野貝、たいらぎ等棲息スルモ少ナシ産額 數字見ルヲ得ズ
辨天島附近	鯛、瑪珂貝、藻貝 鳥貝、赤貝、海鼠	打網延繩漁業 角建網漁業	海鼠、藻貝、鯛、瑪 珂貝、いたばがき	島ヲ離レシ處ハ大藻發生シ藻貝良ク發生ス

重要貝藻類分布略圖



辨天鳥附近  
 海鼠、藻類、貝類、海鼠  
 打瀬、延縄漁業、角建網漁業  
 海鼠、藻類、貝類、海鼠  
 数字見ルヲ得ズ  
 島ヲ離レン處ハ大藻發生シ藻貝良ク發生ス

中	柴	石花菜、海鼠、海苔、たばがき	海鼠ハ年産二千圓、石花菜ハ地先組合員及佐久島組合ニ年二十圓ニテ入漁業セシム	海鼠、岩藻、天草、海蘆、たばがき、いたばがき	たばがきハ琵琶島附近淺瀬ニ多ク發生ス、岩海苔ハ辨天島上ヨリ落ツル清水ノ流レ落ル處ニ多ク發生ス
寺	部	蛸、東蛸、うちむらさき	打瀬延繩漁業	蛸、いたばがき	
西浦地先江尻		蛸、うちむらさき、石花菜	海鼠ハ漁期間中一人ニテ百圓位納ム	蛸、海鼠、海蘆、みらくひ、石花菜	干満差 十尺

幡豆村地先一帯ハ干潟極ノテ少ナリ岩石多シ石花菜、海蘆、海鼠、蛸、瑪珂貝、たひらぎ、いたばがき等ノ適地大ナルモ現在利用セル處ヲ見受ケズ

摘要 幡豆郡ノ海岸線ハ延長約四十四軒ニ達シ淺海利用シ得ベキ面積ハ概算壹千貳百五拾四萬坪除テ有シ而シテ現在利用増殖シツ、アルハ海苔、蛸、蛤、牡蠣ノ四種ニシテ之レガ養殖面積及年産額ハ次ノ如シ

海苔	五〇〇、三〇〇坪	一〇〇、〇〇〇圓
蛤	九〇、〇〇〇坪	三、〇〇〇圓
牡蠣	八一、六四四坪	五、〇〇〇圓
蛸	二〇、〇〇〇坪	
見込種類	見込面積	
海苔	四三二、七〇〇坪	
牡蠣	四八〇、〇〇〇坪	
蛤	一五八、〇〇〇坪	
藻貝	六〇、〇〇〇坪	
	二〇〇、〇〇〇坪	

右ノ他利用シ得ベキ面積ハ尙壹千貳百貳拾四萬八千坪余ニシテ之レヲ各種類毎ニ大別スレバ

瑪珂貝 二〇、〇〇〇坪  
其ノ他 一〇、八九七、〇〇〇坪  
石花菜、海蘿ノ如キハ繁殖範圍廣キヲ以テ之レガ積極的ニ増殖ノ方法ヲ講ズルニ於テハ相當金融關係ヲモ圓滑ナラシム  
ルト共ニ疲弊セル漁村救済ノ一端トモナル可ク思考セラレ

### 六、伊勢灣橫斷觀測

本觀測ハ別紙ノ通りノ觀測線ヲ前後二回ニ互リ觀測セルモノニシテ滿潮時——干潮時迄灣奥部ヨリ灣口ニ向ヒ干潮時ヨリ  
滿潮時ニ互リ灣口部ヨリ灣奥部ニ向ヒ觀測ヲ行ヒ而シテ潮流ノ關係及水溫比重ノ分布狀態ヲ調査シタリ其ノ概要次ノ如シ  
水溫及比重

#### 第一回觀測

(1) 自滿潮至干潮時(自昭和五年八月四日至同年同月八日)

#### 表面

水溫ハ灣奥部ニ於テ低ク灣口ニ向フニ從ヒテ漸次增加スルモノ、如ク揖斐川、木曾川尻沖ニ於テ二十六度ヲ示セルニ  
漸次沖合ニ向フニ從ヒ增加シテ二十八度内外トナリ特ニ知多郡沿岸ニ近ク高水溫分布シ比較的伊勢ノ沿岸ハ高水溫ノ  
處沖合ニアリ

比重ニ於テハ水溫ノ變化ト殆ンド同様ニ揖斐、木曾兩川尻附近ハ低ク一、〇〇三〇〇内外ヲ示シ、且ツ伊勢沿岸ニ沿  
ヒテ沖合ニ伸ビ知多郡沿岸ニ於テハ高比重ヲ示シ一、〇一〇〇〇乃至一、〇一八〇〇ヲ示シ知多南端ニ至ル迄漸ク

#### 下層

水溫ハ伊勢灣ノ中央部ハ比較的水溫低キ揚所多ク二十五度内外ヲ示セルガ兩沿岸ニ於テ高ク知多郡沿岸ハ二十七度伊  
勢沿岸ハ二十六度ヲ示セリ

比重ハ三重縣川越村沖ヨリ伊勢沿岸ニ沿ヒテ比重低ク一、〇一五〇〇ヲ示シ漸次東ニ向フニ從ヒ比重ヲ增加シ伊勢灣  
中央部ニハ一、〇二〇〇〇ノ處灣奥部ヨリ灣口ニ向ツテ起リ愛知縣鍋田村沖及鬼ヶ崎ト千代崎間約中央部ニモ一、〇二三  
〇〇ノ高比重ヲ見ル。又津ヨリ篠島ニ至ル線以南ニ於テ一、〇二三ノ比重ヲ示ス

#### 表面

(2) 自干潮至滿潮(自昭和五年八月八日至同年八月十一日)

灣奥部ニ於テハ二十九度内外ニシテ伊勢沿岸ハ比較的高ク三十度ヲ示シ知多郡沿岸ハ二十九度半ヲ示ス、比重ハ伊勢  
沿岸ノ木曾、揖斐川尻附近ニ於テハ一、〇一〇内外ニシテ其ノ沖合ハ漸次高ク一、〇一五〇〇ノ部分ハ遠ク灣口ニ進ミ  
野間——津、津——師崎間ニ於テ西北風強カリシ爲メ全比重線ハ知多郡野間——師崎間ニ接近セリ。又揖斐——日長  
間ニ於テモ知多郡日長方面ニ接近セリ尙。愛知縣鍋田村沖ニハ稍孤立シテ一、〇一八ノ高比重ヲ示セル所アリ

#### 下層

水溫、伊勢並ニ知多沿岸ニハ二十八度ノ水溫ヲ示シ中央部ニ於テハ二十三度乃至二十四度ニシテ灣奥部ハ一般ニ高ク  
灣口ニ於テ低シ

比重、沿岸ニ於テハ一、〇二〇ノ比重ヲ示シ中央部ニ於テハ一、〇二三——一、〇二四〇〇ヲ示シ殊ニ知多郡野間——  
師崎沿岸及野間——津線ニ於テモ一、〇二四ノ場所アレドモ之レハ稍々渦流狀態ヲ呈セリ。尙北勢部沖合ニハ異狀ニ  
一、〇二四ノ高比重ヲ示セリ

#### 第二回

(1) 自滿潮至干潮(自昭和五年九月十日至同年九月十三日)

#### 表面

水溫ハ灣奥部附近ニ於テ稍々低ク二十五度ヲ示シ中間部ヨリ灣口迄ハ二十六度乃至二十六度五分ヲ示ス

比重モ灣澳部及伊勢津——二見沖迄低ク一、〇二二五〇ヲ示シ 中間部及知多郡南端附近ハ一般ニ高ク一、〇二二〇〇

——一、〇二二六〇ヲ示セリ

要スルニ沿岸部ハ此ノ時期ニ於テハ殆ソド降雨ナカリシガ山間部ニ於テハ多少ノ降雨アリタルモノ、如ク川口附近ニ於テ一般ニ比重低キ結果ヲ來セリ

下層

水溫、三重縣津——二見沖及知多郡野間鬼ヶ崎ノ沿岸即チ水深淺キ揚所ハ水溫上昇シテ二十六度ヲ示シ中央部ニ向ヒ深度ヲ増スニ從ヒ水溫低下シ二十五度——二十四度ヲ示ス

比重ハ灣澳部並ニ伊勢四日市——二見沿岸沖ニ一般ニ低ク一、〇二三〇〇ヲ示シ中央部ハ一、〇二四〇〇ノ區域多ク、野間濱田線ニ於ケル最深部ニ於テハ一、〇二五〇〇ノ最高比重ヲ示セリ

(2) 自干潮至滿潮(自昭和五年九月十三日至全年全月十七日) 表面

水溫ハ灣澳部ニ於テ低ク二十四度ヲ示シ日長——四日市及鬼ヶ崎線附近ハ最高ク二十四、七——二十四、九度ヲ示シ其レヨリ沖合ハ二十四、五度ヲ示シ野間節崎沖ニハ二十五度ヲ示セル場所多シ

比重ハ木曾掛斐川尻ニ於テハ低ク一、〇一五〇〇ヲ示シ鬼ヶ崎——四日市線以北ハ一、〇二〇〇〇ヲ其レヨリ沖合ハ野間沖合ニテ一、〇二二五〇——一、〇二四〇〇ト漸次増加ス

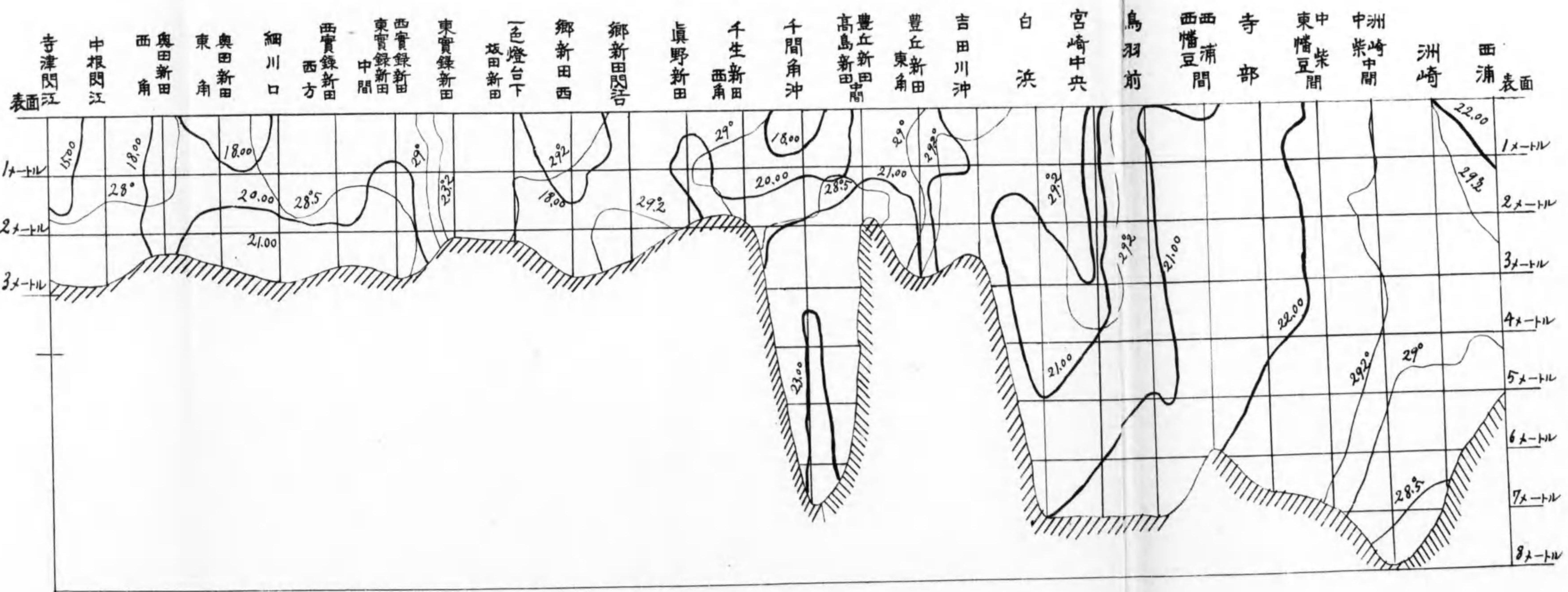
下層

水溫ハ伊勢津——二見間ノ沿岸ハ最高ク二十五度ヲ示シ灣澳部ハ二十四度——二十四、五度ヲ示シ深所ニ向フニ從ヒ二十三、五度ヲ示ス

比重ハ三重縣桑名——四日市間ニ於テ著シク低下シ一、〇一五〇〇ヲ示シ其ノ他灣澳部ハ一、〇二二〇〇——一、〇二二〇〇ヲ示シ深度大ナルニ從ヒ又灣口ニ向フニ從ヒ伊勢灣ノ中央部ハ一、〇二四〇〇及一、〇二五〇〇ヲ示セリ

要スルニ本年度前後二回ニ互ル伊勢灣橫斷觀測ノ結果ヨリ推察スルニ滿潮ハ伊勢ノ中央部ヨリ東知多郡沿岸ニ寄リタル所ヲ本流トシテ伊勢沿岸ニ於ケルモノハ其ノ力弱ク一般ニ表面海水ノ移動大ナレドモ海底ニ於テ殊ニ最深部ハ水溫比重ノ大

# 沿岸観測

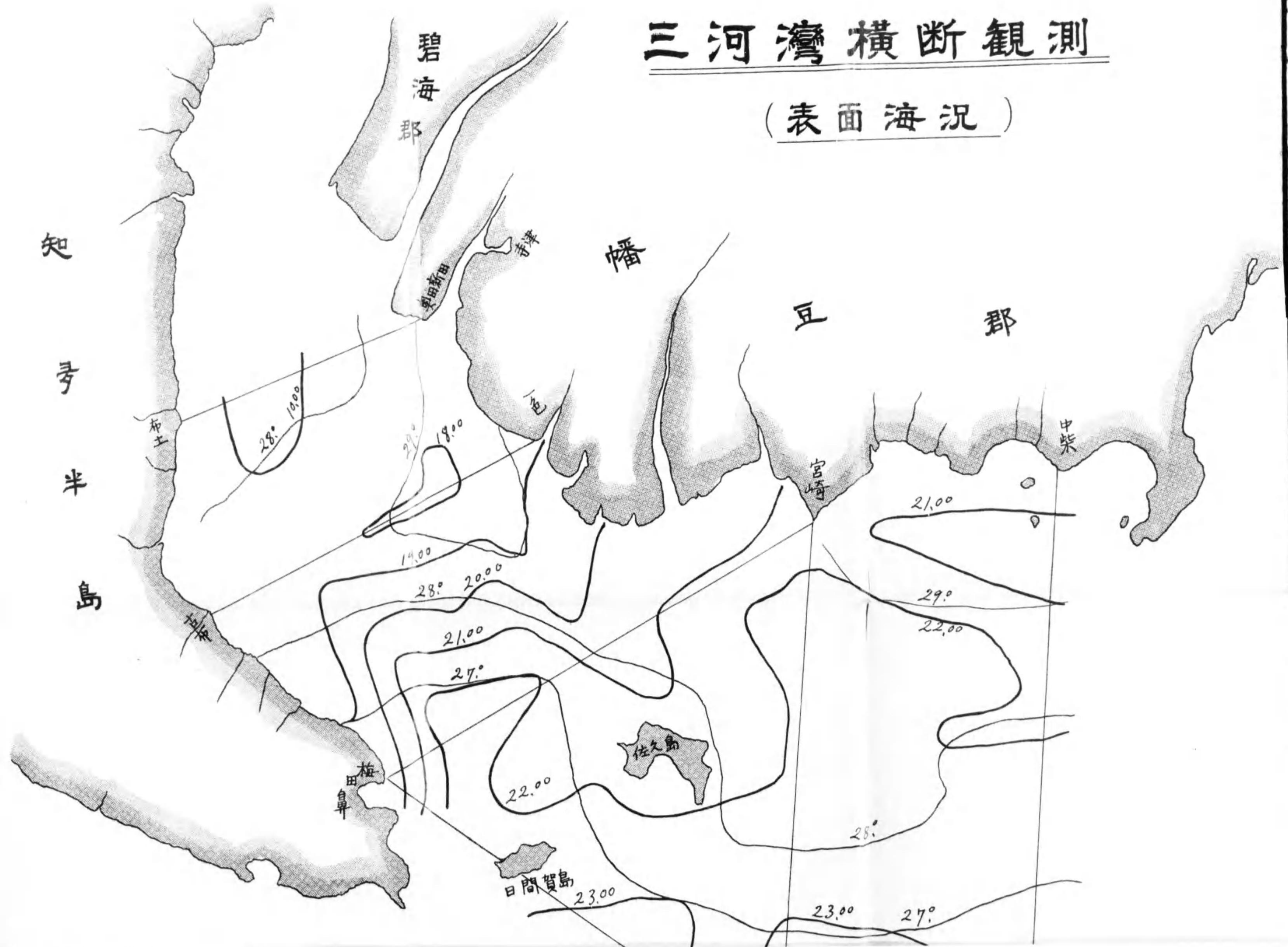


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
 四〇〇及一〇二五〇〇ヲ示セリ  
 中央部ヨリ東知多郡沿岸ニ寄リタル所



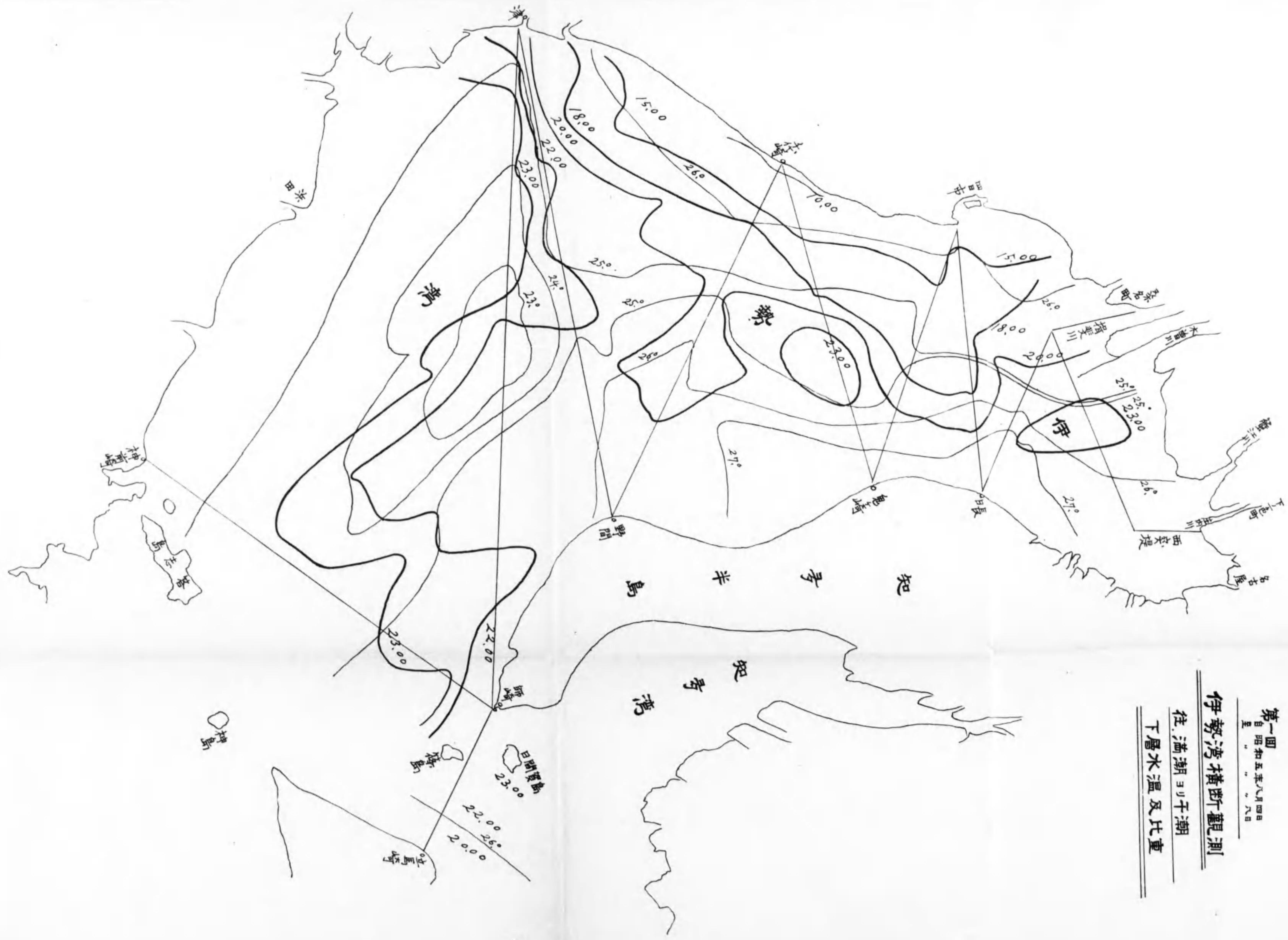
# 三河灣横断観測

(表面海況)

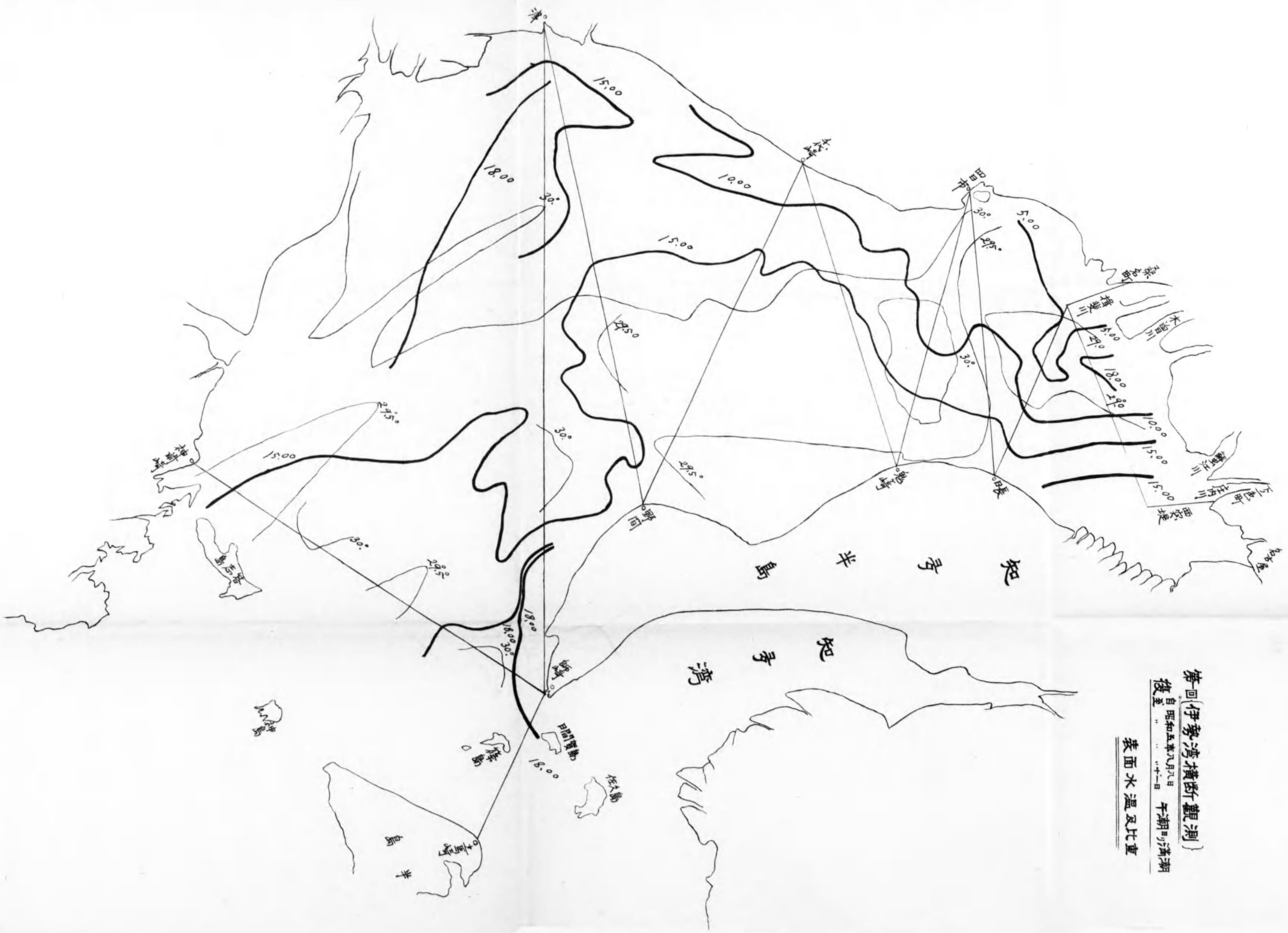








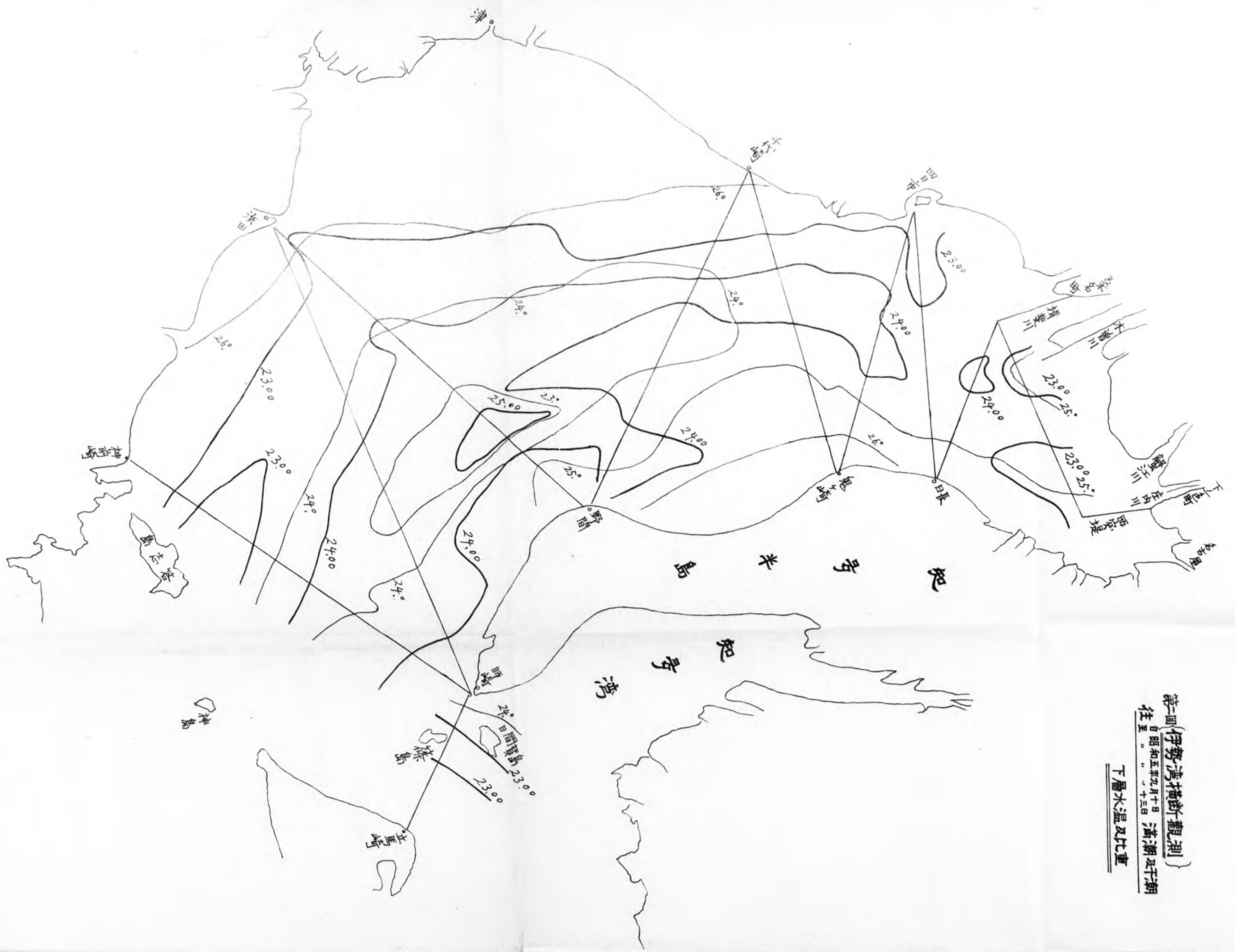
第一圖  
 皇 自 昭和五年八月四日  
 皇 自 昭和五年八月八日  
 伊勢湾横断観測  
 往. 満潮ヨリ干潮  
 下層水温及比重



第回(伊勢湾横断観測)

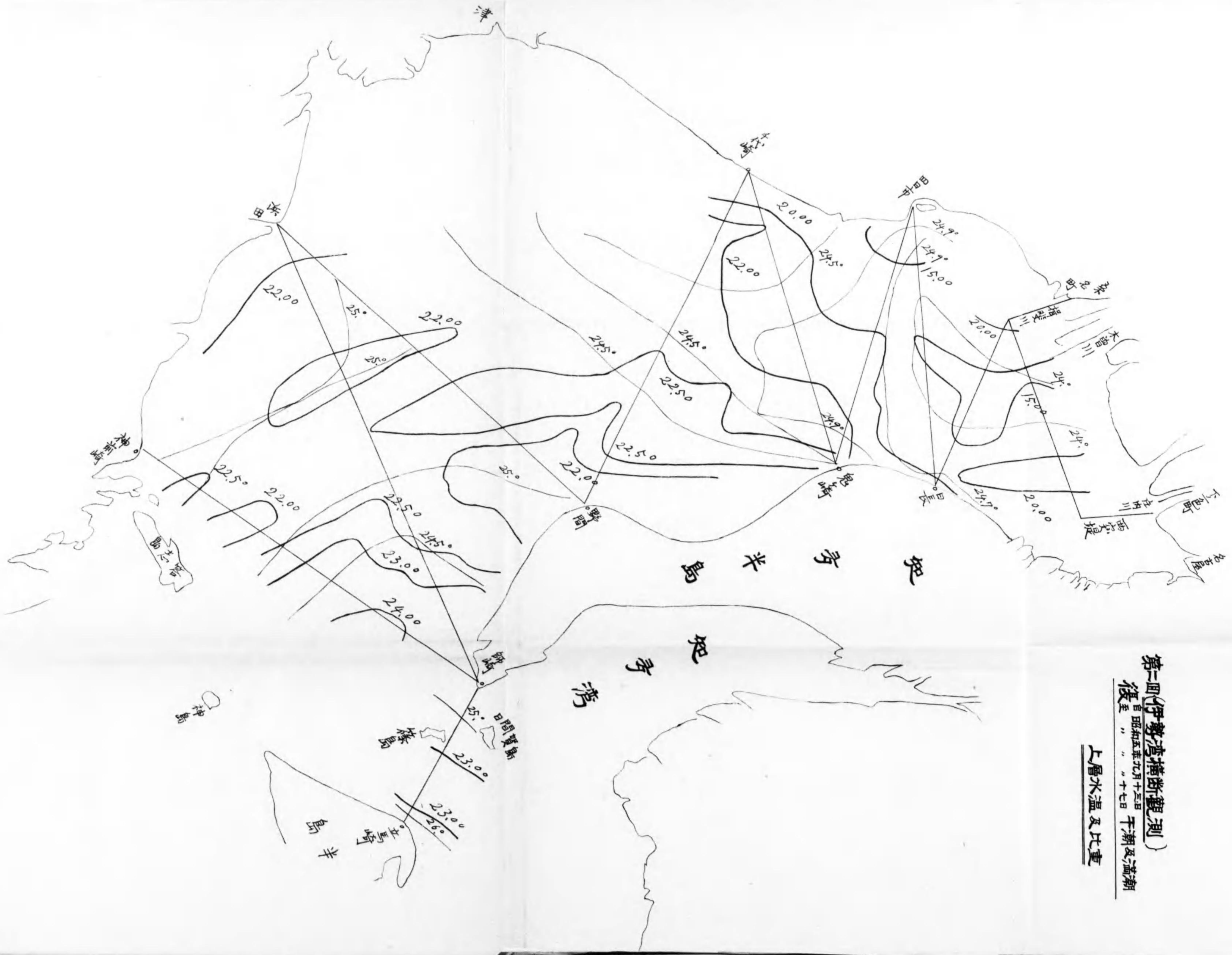
自昭和五年八月八日 午潮時 滿潮  
 復至 昭和五年八月十一日 午潮時 滿潮

表面水温及比重



第一圖 伊勢湾横断観測 }  
 自昭和五年九月十日 滿潮及干潮  
 往至 " " " " 十三日  
下層水温及比重





第二回(伊勢湾横断観測)

自昭和五年九月十三日 干潮及満潮  
 復至 " " " " 十七日

上層水温及比重





差ヲ見ズ  
干潮ニ於テハ伊勢沿岸沖合ニ於テ水溫比重低キヲ常ニ示セルヲ以テ木曾掛斐川ノ河水ハ伊勢沿岸ニ沿ヒテ流レルモノ、如ク而シテ西北風強キ時ハ東ニ流レ出サル、モノ、如シ、水溫比重ハ灣澳部及伊勢沿岸ニ於テ常ニ變化セルモ中央部並ニ知多郡ハ大ナル變化ヲ認メズ

### 伊勢灣横斷觀測浮ノ分布狀態

本年度知多半島先端師崎ヨリ三重縣神前崎及渥美半島立馬崎ニ至ル廣大ナル海區ニ互リ八、九兩月審サニ海況ヲ調査シ浮ノ分布狀態ニツキテモ其ノ量及種類ヲ調査セリ尙浮ノ採取ハ滿潮ヨリ干潮ニ至ル間ニ行ヒ各點ニツキ下層ヨリ上層ニ引キ揚グ其ノ量ヲ査定セリ浮ノ量ハ之ヲ四ツニ區別ス則チ(〇.e.e)(五.e.e)(六.e.e)(一〇.e.e)(一一.e.e)(一五.e.e)(一六.e.e以上)トス

第一回調査八月上旬

一、一六.e.e以上ノ分布區域

日長沖合、野間ヨリ師崎ニ至ル其ノ中間部、津沖合、日間賀、篠島間ノ以上四ヶ所  
ニシテ中ニモ野間津間ノ沖合ハ相當ノ範圍内ニ分布スルヲ見タリ

二、一〇.e.e以上一五.e.eノ分布區域

野間沖ノ中間二ヶ所、野間沖ヨリ答志ニ至ル細長キ區域、日間賀、篠島東部ノ四ヶ所  
木曾川掛斐川沖合ヨリ日長ニ至リ之ヨリ野間ノ沖合ニ至ル東寄りノ沿岸、津附近、

三、六.e.e—一〇.e.eノ分布區域

津ノ沖合、師崎ヨリ南沖合、浮島ノ沖合ノ五ヶ所ニ分布ス

中ニモ日長ノ沖合ハ二七.e.eニテ全採取量中第一位ニシテ津ノ沖合四、五點附近ハ七.e.e—一二五.e.e野間附近又二五.e.eニ達ス、全點ニ於ケル最モ多數量ヲ占ムハ硅藻類ニシテ *Thalassiothrix*, *Bacteriastrium varians*, *Chaetoceros*, *Ditylum*, *Stephanodiscus* 等多ク部分的ニ *Amphibia* 蝦ノ仔虫等ノ密集郡ヲ見ル

第二回調査九月上旬

一、一六.e.e以上ノ分布區域

名古屋港突堤木曾川間、四日市鬼ヶ崎中間ヨリ千代崎野間ニ至ル廣大ナル三角狀ノ海面、濱田沖ノ二ヶ所ノ四ヶ所

二、一〇.e.e—一五.e.eノ分布區域

日長四日市ノ中間部、野間沖合、師崎沖合ノ三ヶ所

三、六c.c—一〇c.cノ分布區域

日長野間ニ至ル沿岸一帯、濱田ヨリ野間師崎ノ方向ニ細長キ海面、師崎神前崎間、立馬崎附近、四日市木曾川間ノ五ヶ所

前回ト比較スルニ二回目ニ於テハ千代崎沖合ニ廣大ナル密集區域ヲ生ジタレドモ其他ノ點ニ於テ減少ヲ示シ分布區域ノ移動ヲ見ルモ大体ニ於テ前回ニ比シテ量ノ増加ヲ示ス最大採集量ハ千代崎沖ノ三三c.c—三一c.cナリ出現中硅藻類ノChaetoceras, Raizosolenia, Bacteriastrium Urtians, 及撓脚類ハ最も多ク次ニ硅藻類ノ Nitzschiastrata, Haemiaris, Dictyum, Guillardia, 鞭藻類ノ Ceratium 等ハ普通出現ナリ

伊勢灣海洋觀測底質概況

八九兩月ニ互リ海洋觀測ト共ニ底質ヲ採取シタリ、之ニ依レバ日長、鬼ヶ崎、四日市、千代崎間ハ砂質ニシテ木曾掛斐兩川附近ハ泥砂質多ク一部ニ礫質ノ所アリ、尙之ヨリ名古屋突堤點ハ主トシテ砂泥質次ニ泥砂質ナリ、尙千代崎ヨリ其ノ沖合ニ至リテハ礫砂質ニシテ野間ヨリ四日市、津、伊勢灣口ノ三方面ニ互テ廣大ナル泥砂質ニ富ム、又野間師崎間ハ砂質ニ砂泥質、礫砂質又ハ泥砂質等ニテ硬軟交々底質複雑ス、又三重縣沿岸ニ於テ千代崎附近ハ礫砂質、津附近ハ礫質、濱田附近ハ岩質又神前崎附近ハ礫質礫砂質ニテ伊勢灣ハ主トシテ砂質、泥砂質ノ底質ヨリナルヲ認メラル

牡蠣場ニ於ケル潮間觀測中出現狀況

月名	出現多寡	名
六月	多 普 稀	Copepoda, Chaetoceras, Nitzschiastrata, Tintinopsis, 二枚貝ノ仔虫, Tharsothrix, Rhizosolenia, Nitzschia sp., Nitzschia longiana, Coscinodiscus, Ptilulphia thimensis, Coecoonis, Leucomphora, Dactylosolenionus, Ceratium fusus, Peridinium, 多毛虫仔虫.
七月	多 普 稀	Copepoda, Tharsothrix, 二枚貝ノ仔虫, Coscinodiscus, Ditzium, Tintinopsis, 枝角類, Chaetoceras, Nitzschiastrata, Ditzium, Dactylosolen tenuis, Guillardia, Pleurosigma, Ceratium, Peridinium, 多毛虫ノ仔虫.

八月	多 普 稀	Copepoda, Tintinopsis, 二枚貝, Ditzium, Coscinodiscus, Coecoonis, Peridinium, Citarocyclus Ehrenbergii, Ceratium.
九月	多 普 稀	Tharsothrix, Coscinodiscus, Peridinium, Copepoda, Tintinopsis, Chaetoceras, Citarocyclus Ehrenbergii, Rhizosolenia, Nitzschia seriata, Dactylosolen tenuis, 二枚貝ノ仔虫, Biddulphia shinensis, Citarocyclus Ehrenbergii, Pleurosigma, Bacteriastrium varians, Strophano plicatus, Schlettea coelatum, Haemularis, Ceratium.
十月	多 普 稀	Nitzschia, Coscinodiscus, Navicula, Copepoda, Synedra, melosira, Schlettea coelatum, Nitzschianella, Ditzium, melosira, Pleurosigma, Leucomphora, Nitzschia seriata, Chaetoceras, Rhizosolenia, Ceratium, Peridinium, Ceratium fusus, 二枚貝ノ仔虫

## 第五 三河灣作業場

### 三河灣養殖作業場ノ新設

三河灣ニ於ケル淺海利用水産増殖試験調査並指導ヲ行ハムガ爲メ事務所ヲ渥美郡高師村大字大崎ニ設置シ三河灣養殖作業場ト命名シ昭和四年七月一日ヨリ之ガ事務ヲ開始セリ、事務所ハ二階建延三十五坪附屬倉庫其他八坪外ニ作業室亞鉛資六坪作業船トシテ發動機付小船一艘小廻船一艘ヲ備ヘタリ。

昭和四年度業務概要

本年度ハ七月一日ヨリ業務ヲ開始シタルモ主トシテ事務所ノ整備ト前年度本場直營事業ノ繼續施行ニ努メ特ニ施設シタルモノナシ

### 一、牡蠣増殖試験

一、大崎垂下式牡蠣増殖試験(前年度繼承)

前年度施設セル筏八台ヲ修理シ之ニ松島、大崎、下之一色産種蠣ヲ三月ニ吊下シ之ガ成育ニ付比較試験セリ、筏ノ構造、設置場所、種苗吊下方法等ハ前年度同様ナルヲ以テ記載ヲ省略ス

筏繫留ニ使用シタル「ワイヤロープ」ハ前年度ノモノヲ其儘使用シタル處稍々腐朽シ居リタルニ剩ヘ潮流激シカリシヲ以テ八月ノ最大潮時ニ至リ遂ニ切断シ神野神田地先ニ流出更ニ田原灣澳ニ引返シテ流レ込ミタルガ漸ク現位置ニ曳戻シ寫眞ニ示ス如ク入台ヲ一列ニ設置セリ此レガ爲メ牡蠣ハ相互ニ絡ミ合、或ハ他物ニ衝突シテ剝落シ殆ンド滅茶滅茶ニナリタリ

十二月二十五日ヨリ翌二月十八日迄ニ左記ノ通り牡蠣ノ取揚ヲ行ヒタルガ前記ノ如キ大支障ノ爲メ著シク取揚量ヲ減ジタルハ遺憾ノ至リナリキ

取揚連數

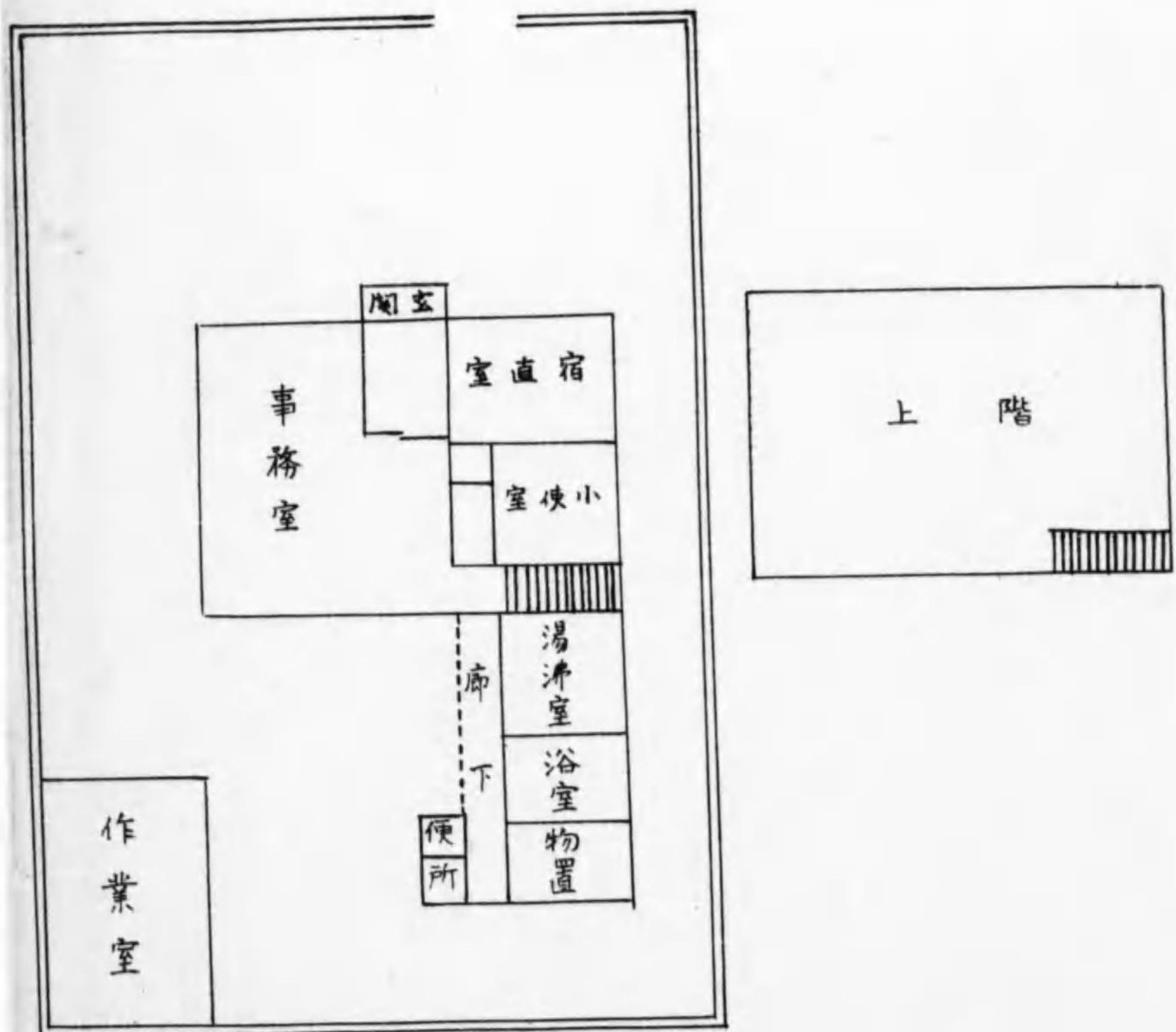
總計 一、二二三連

内譯 松島産五八五連、大崎産三八七連、下之一色産二五一連

## 三河灣養殖作業場平面圖

第一圖

1/200



参考 此ノ種蠶ヲ當初吊下シタル數量  
 松島産二〇九〇連 大崎産六五〇連 下ノ一色産五〇〇連  
 而シテ筏ヲ設置シタル場所ノ海況次ノ如シ

月別	水溫比重		
	最高	最低	平均
昭和四年七月	三、一	二、九	三、〇
八月	三、五	二、六	三、〇
九月	三、七	二、〇	三、三
十月	三、三	一、七	三、〇
十一月	二、四	一、〇	一、八
十二月	一、四	九、二	一、一
昭和五年一月	五、五	一、九	三、七
二月	四、〇	一、〇	二、五
三月	六、五	二、五	四、五

取揚ノ際調査シタル實入狀況次ノ如シ  
 昭和四年十二月調査

種苗産地別	殼付十貫匁ニ對スル剥身量		一連重量	一連剥身量	
	樹目	重量		量	粒數
松島	一升九合二勺	三、五匁	三、五匁	一、〇	一〇六粒
大崎	六合四勺	一、四匁	〇、九匁	三	四九粒
下之一色	一升五合	二、六匁	三、八匁	一匁	一五粒

(二) 西浦垂下式牡蠣増殖試験(前年度繼承)  
 本年度ハ前年度設置セルモノヲ其儘存置シ牡蠣ノ發育ヲ調査シタルニ過ギズ

實入ハ左記ノ如ク比較的良好ナリシモ吊下シタル牡蠣ノ面ニ海綿虫類、海藻類其ノ他種々ノモノ多數附着シ幾分障害ヲ與ヘタリ

吊下針金ニ十四番線ヲ使用シタルモノアリシガ故ニ此ノ分ハ殆ンド切斷シテ海底ニ墜落シ翌年二月取揚處理ノ際調査シタルニ殘存數三百三十二連ニ過ギズ

實入狀況

昭和四年十二月調査

種苗産地別	設付十貫匁ニ對スル剥身量		一連重量	一連剥身量	
	樹目	重量		樹目	重量
下之一色	二升一匁	三、〇八匁	一、四	二、九三	一、五八
大崎	一升七合三匁	三、〇八匁	一、四	二、九三	一、五八

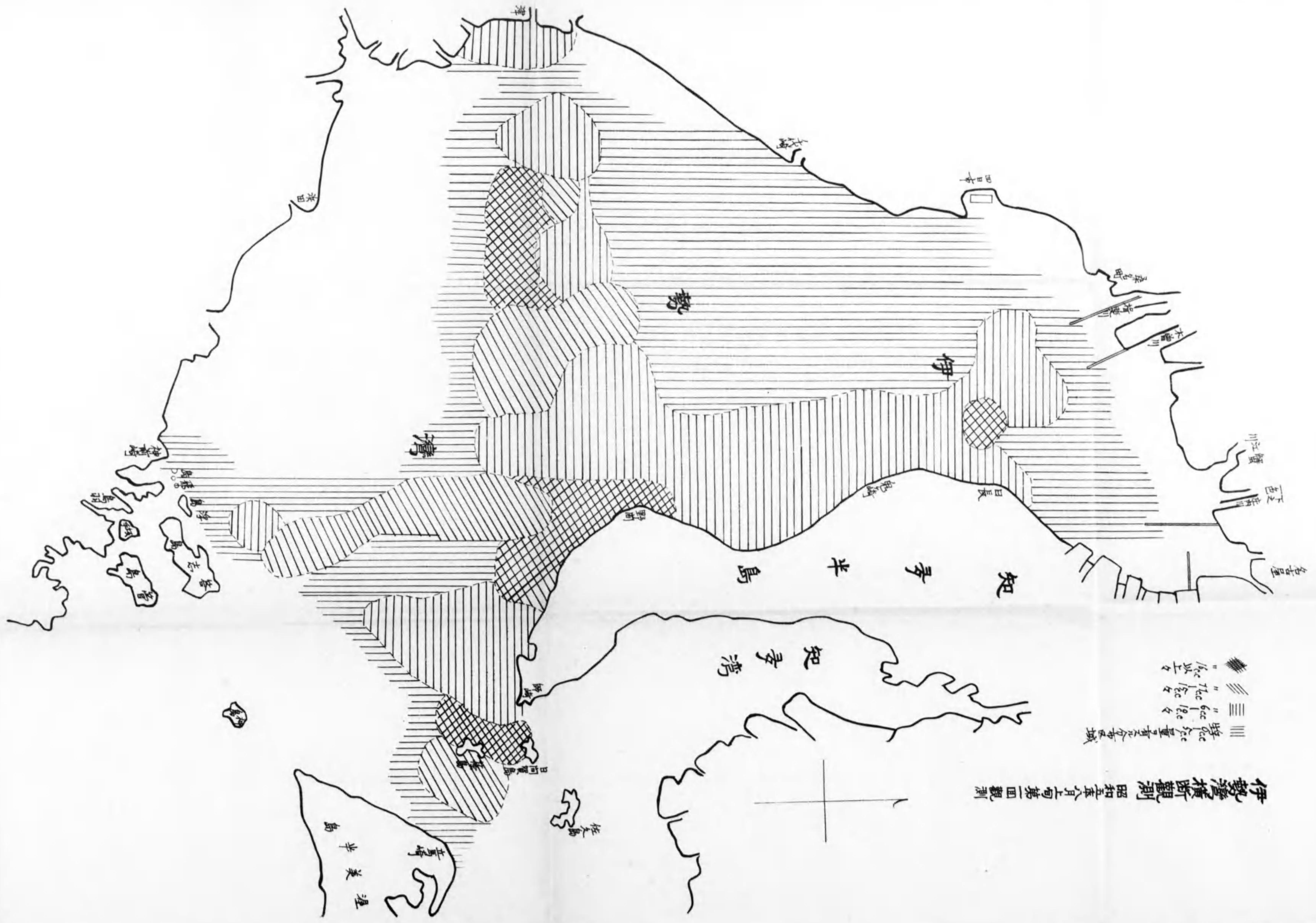
(三) 福江垂下式牡蠣増殖試験(前年度繼承)

前年度設置シ昭和四年一月二十三日吊下セル種苗ノ成育狀況ヲ調査スルニ止メタリ試験中ノ支障トシテハ筏ヲ繫留セル「ワイヤロープ」切斷、浮樽脱出シ四、五十間移動シタル爲メ吊下セル牡蠣ノ内海底ニ埋没シ斃死シタルモノアリ、又吊下モル牡蠣ノ面ニ海藻類多數附着シ實入ヲ害シタル感アリ、實入狀況左ノ如ク翌年一月取揚シタルニ殘存セルモノ三十連アリタリ

實入狀況

昭和四年十二月調査

種苗産地	設付十貫匁ニ對スル剥身量		一連重量	一連剥身量	
	樹目	重量		樹目	重量
福江	八合八匁	二、二四匁	一、九	二、九	三、五



- III 坂 500 以上 量有分布區域
- ≡ " 600 1000
- ≡ " 700 1500
- ≡ " 1500 以上

伊勢灣橫斷觀測 昭和叁年八月下旬第四觀測

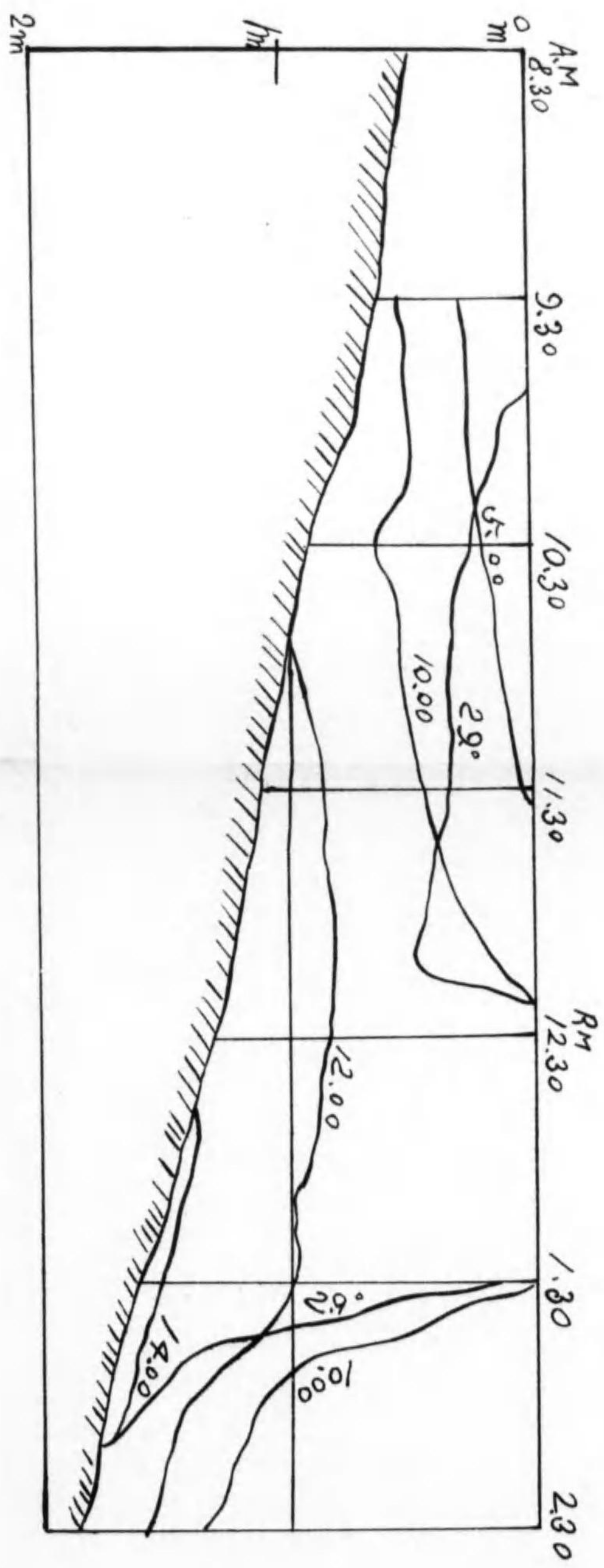




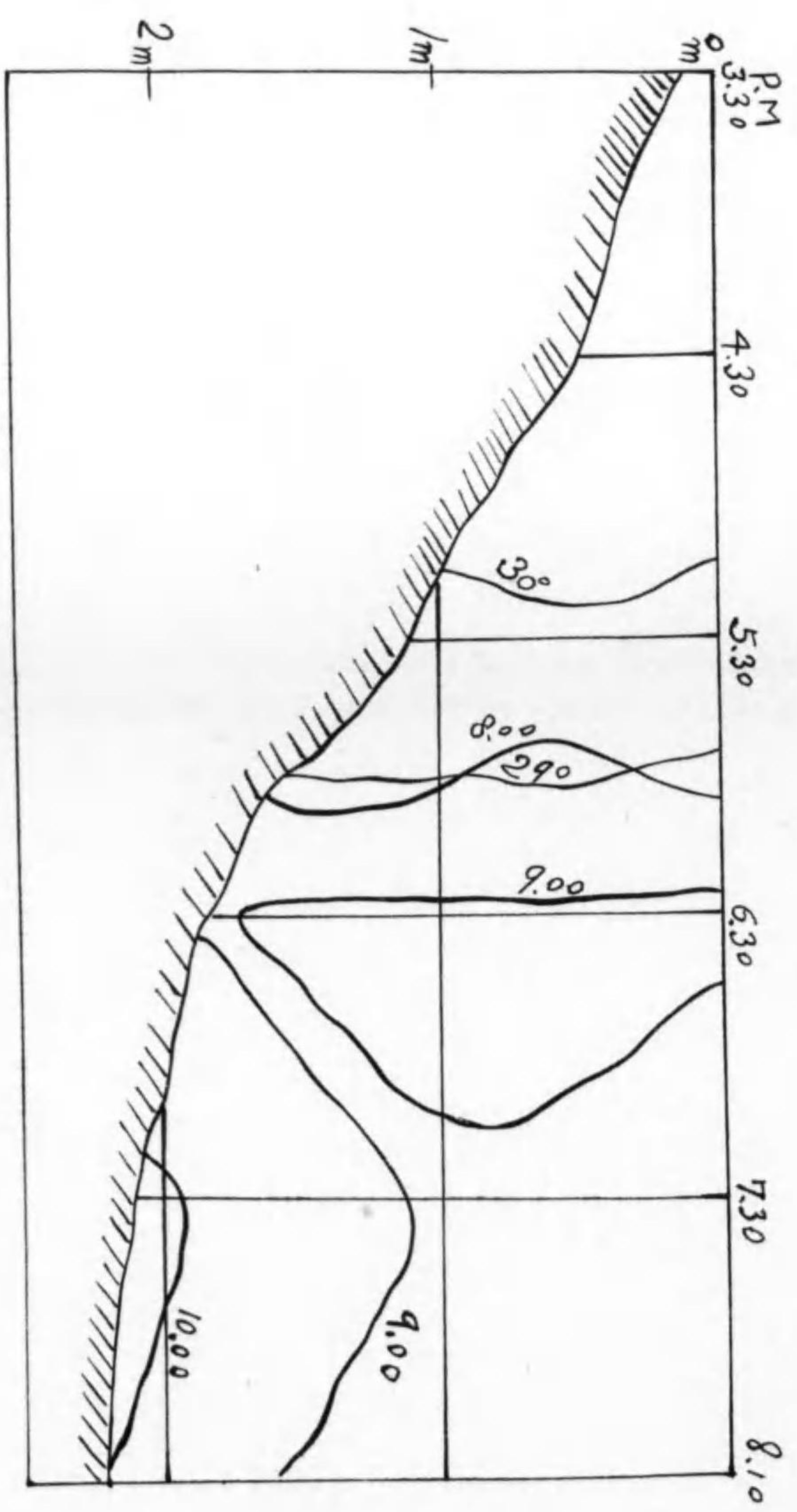




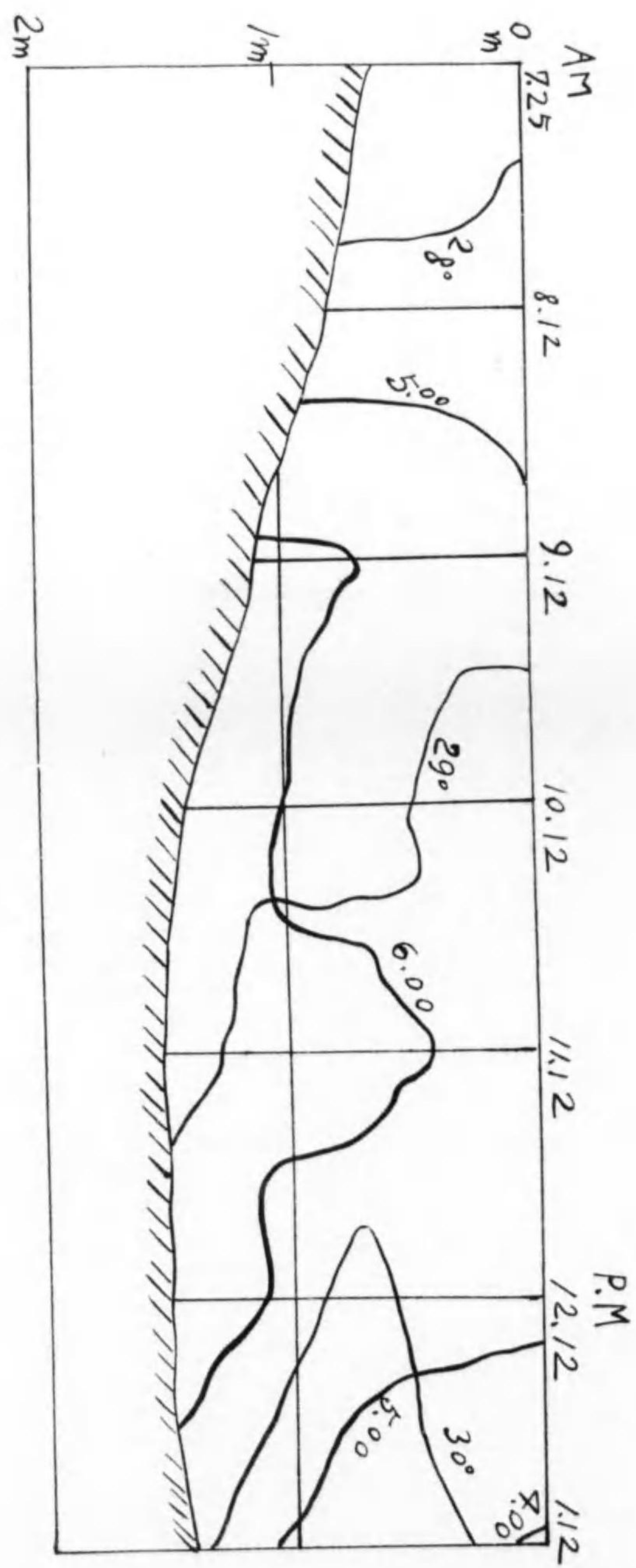
昭和五年七月三十一日施行



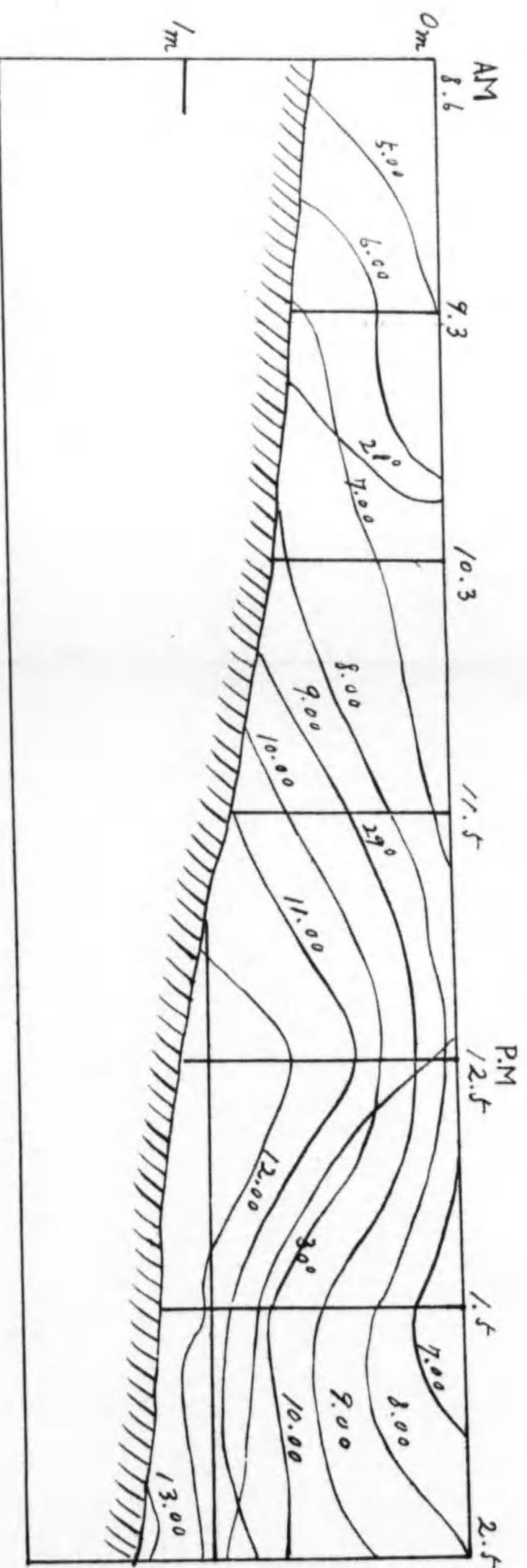
昭和五年七月二十六日施行



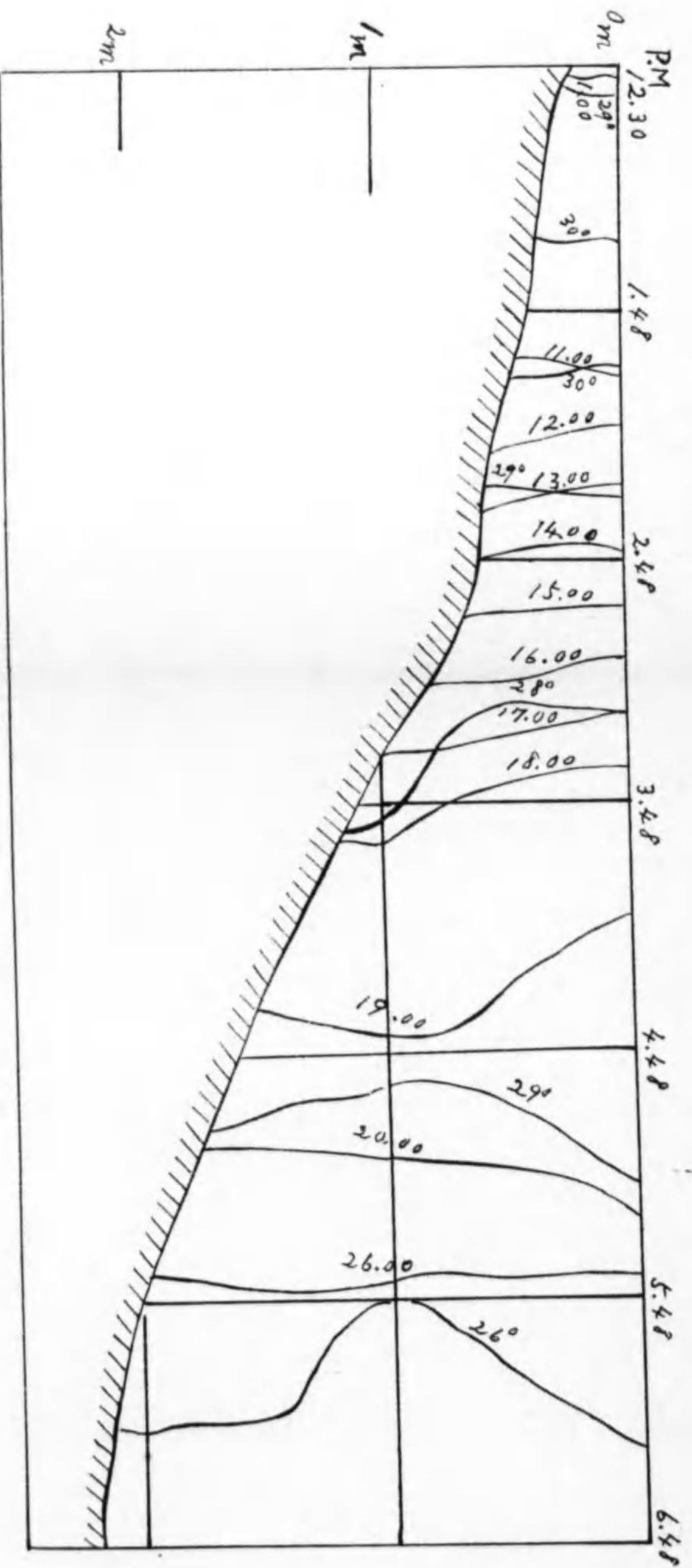
昭和五年八月十八日施行



昭和五年九月二日施行



昭和五年九月八日施行



昭和五年九月三十日施行

